

授業科目	生活と哲学					担当教員	関 正勝
科目英名	Life and Philosophy						
開講期間	2・3年次 前期	必/選	選択	単位	2	科目区分	教養教育 [人文と社会]
講義目的	<p>今日の時代精神は科学技術に代表されている、と言っても過言ではない。その精神は結果だけを問題にしかねない。結果のためには手段を選ばない状況が生じている。いま私たちは立ち止まって生活の根底を成り立たせている「知恵」(ソフィア)を尋ねなければならない時にある。新しい知への気づきのために、「科学の知」に対して「臨床の知」について考える。</p>						
概要	<p>中村雄二郎『臨床の知とは何か』(岩波新書)を丁寧に講読する。この講読を通して近現代の科学技術の生活世界にもたらしたメリットとデメリットを考える。科学の知は認識の方法として、対象を要素や部分に還元して全体を把握しようとする。結果として、認識対象の全体・生きられた現実を理解することにおいて、抽象的な把握に陥らざるを得ない。臨床の知は生きられた現実とは関係における相互性であると考え。従って認識における経験や身体性を重視する。この講義では認識における「全体性」への接近はいかにして可能かを「臨床の知」に探る。</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 「科学の知」とはなにか?</li> <li>2 「科学の知」が問われなければならない理由は何か? そのメリット・デメリット</li> <li>3 なぜ「臨床の知」なのか?</li> <li>4 論理性・客観性・普遍性への問いかけ</li> <li>5 意味への問かけの意義</li> <li>6 関係への問い</li> <li>7 臨床の知の三つの原理 コスモロジー シンボリズム パフォーマンス</li> <li>8 学問の危機・地球の危機</li> <li>9 科学と生活世界</li> <li>10 知の異なった可能性——経験と実践</li> <li>11 説明の言葉(情報)と理解の言葉</li> <li>12 演劇的知・パトスの知・南型の知</li> <li>13 感覚・知覚の成り立ちへの問い 近現代が失った触覚の回復に向けて</li> <li>14 現代医療と臨床の知</li> <li>15 まとめと振り返り</li> </ol>						
履修上の注意	<p>参考書をしっかり読み、各自の問題意識を持って授業に出席すること。</p>						
評価方法(評価基準を含む)	<p>授業への参加度と貢献度(50%) リアクションペーパー(20%) 定期テスト(30%)</p>						
教科書	<p>『臨床の知とは何か』(中村雄二郎 岩波新書)</p>						
参考書、教材等	<p>『我と汝』(M. ブーバー 植田重雄訳 岩波文庫)          その他授業のなかで適宜取りあげて 必要な参考文献を紹介する。</p>						

授業科目	生活と法律				担当教員	渋谷 寛	
科目英名	Law in Everyday Life						
開講期間	1年次 前期	必/選	選択	単位	2	科目区分	教養教育 [人文と社会]
<b>講義目的</b>							
日常生活において必要な法的知識、法的紛争解決手続きを修得することを目的とする。							
<b>講義概要</b>							
<p>憲法、民法そして刑法などの基本的な法律の知識を得る。売買契約、消費貸借契約、賃貸借契約、請負契約そして寄託契約などの契約類型についても学ぶ。</p> <p>訴訟制度、特に最近導入された裁判員制度について学ぶ。</p> <p>更に、ペットに関する業界特有の法知識の習得も志す。動物愛護管理法の規定を知る。獣医療過誤訴訟の実態、そのほかのペットを取り巻く日常的な法律問題を学ぶ。</p>							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 法学入門、法の歴史、江戸時代の生類憐れみの令</li> <li>2 日本国憲法、人権問題、戦争放棄、天皇制、政治の仕組み、憲法改正など</li> <li>3 売買契約に関する事、消費者保護制度、クーリングオフなど</li> <li>4 ① 賃貸借契約に関する事、契約締結に関する注意事項、大家さんとのトラブル解決法 ② その他の民法上の契約、消費貸借、委任契約、寄託契約など</li> <li>5 ① 家庭的な法律問題、結婚、離婚、相続など ② 保険制度、労働法に関する問題、就業規則、不当解雇など</li> <li>6 ① 犯罪と刑罰に関する問題、覚せい剤犯罪、動物愛護法の罰則規定など ② 裁判に関する法、民事訴訟と刑事訴訟の手続の流れ</li> <li>7 裁判員制度について1（制度の概説）</li> <li>8 裁判員制度について2（放火の事例）</li> <li>9 裁判員制度について3（殺人未遂・傷害の事例）</li> <li>10 裁判員制度について4（殺害・正当防衛の事例）</li> <li>11 ペットにまつわる法律問題の具体事例の検討</li> <li>12 獣医療過誤事件1</li> <li>13 獣医療過誤事件2</li> <li>14 動物愛護法などペットに関する法律1</li> <li>15 動物愛護法などペットに関する法律2</li> </ol>							
<b>履修上の注意</b>							
<p>授業中の私語は慎む</p> <p>試験問題のほとんどは、授業で扱ったところから出題されるので、授業中にメモを取ることが望ましい 予習よりも復習が大切</p>							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
<p>授業内容をよく理解したか否か。</p> <p>日常生活に関する基本的な法的知識を備えたか否か、更に動物に関する法律問題に対する知識を備えたか否か。</p> <p>授業への参加度（10%）と試験（90%）により総合的に評価する。</p>							
<b>教科書</b>							
「ペットのトラブル相談Q&A」 渋谷寛他2名共著 発行所 株式会社民事法研究会							
<b>参考書、教材等</b>							

授業科目	生命倫理学					担当教員	関 正勝・山北 宣久
科目英名	Bioethics						
開講期間	2・3年次 後期	必/選	必修	単位	2	科目区分	教養教育 [人文と社会]
講義目的							
<p>Bioethics の日本語訳である生命倫理は本来的にはバイオのレベル即ち生きとし生ける生命との関係を問う学問であり、その意味で「生命圏倫理」と理解するのが正しいであろう。しかし、本講義では科学技術としての医療と人間の問題を「生命圏倫理」を視野に入れながら講義したい。従って、生殖医療（人工授精・体外受精、代理母、出生前診断など）、脳死・臓器移植、尊厳死、ターミナルケア、ホスピスと言った問題をキリスト教思想の視点からとりあげて考察したい。</p>							
講義概要							
<p>倫理とは基本的には関係の学に他ならない。自然や動物と人間及び人間と人間のそれぞれの関係を成り立たせている「理（ことわり）」が何であるかを考える学問である。その考察の過程で特に「ケア」の視点から諸々の関係について論ずる。</p>							
授業計画						担当教員	
1 倫理とは何かー倫理の成立根拠を問う						関 正勝・山北 宣久	
2 倫理とは何かー倫理の成立可能を問う						関 正勝・山北 宣久	
3 生命倫理が要請されてきた背景						関 正勝	
4 キュアからケアへの転換						関 正勝	
5 科学技術としての医療の特徴ー現実の記号化						関 正勝	
6 科学の知と臨床の知ー説明の言葉から理解の言葉へ						関 正勝	
7 原則倫理、状況倫理、責任倫理、それぞれの可能性と限界						関 正勝・山北 宣久	
8 遺伝管理社会ー健康が義務となる社会の登場						関 正勝	
9 出生前診断ー優生思想ー女性の自己決定権などを巡る問題点						関 正勝	
10 生殖医療ー人工授精・体外受精・代理母						関 正勝	
11 死の変容ー心臓死→脳死 そして臓器移植 ドナーカードの功罪						関 正勝	
12 安楽死・尊厳死						関 正勝	
13 ターミナルケア（終末期医療）ホスピスのこと						関 正勝・山北 宣久	
14 「われ思う、故にわれ在り」（R. デカルト）か「私は痛む・苦しむ、故にわたしは在る」か？						関 正勝	
15 振り返りとまとめ						関 正勝・山北 宣久	
履修上の注意							
動物を初めすべての生けるいのちへの広い関心と人間としての責任を自覚する姿勢を求めたい							
評価方法（評価基準を含む）							
定期的に要求するリアクションペーパー（20%）、授業への参加度（50%）そして定期テスト（30%）							
教科書							
特には指定しない							
参考書、教材等							
授業の中で適宜紹介する。							

授業科目	芸術と表現				担当教員	斉藤 康介	
科目英名	Art and Expression						
開講期間	2・3年次 前期	必/選	選択	単位	2	科目区分	教養教育 [人文と社会]
<b>講義目的</b>							
<p>デッサンを通して空間意識を深め、微妙な物の変化を捉え、バランス感覚を養う。ペットを描くことにより、構図、バランス、観察眼を養い、一層動物に対して関心を深める。自然石に動物を表現することで造形力、想像力を養い、立体に対する意識を高める。自由な発想で動物の世界を描かせることで構成力、想像力を身につけ、オリジナリティーのある表現をさせる。表現することを通じて、客観的に物を見る力を養う。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>芸術に親しみデッサン法、色彩技術を学ぶことで、確かな観察眼と事象を正確に伝達するために欠かせない表現力を育むことを狙いとする。歴史上、優れた芸術家たちの作品を通して、技法デッサン力、絵画、立体作品における造形力、想像力を養う。過去にアートの分野に接触経験が少ない学生は本講座を受講することで豊かな人間性を身につけていく。</p>							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 絵画について カリキュラムの意味 基礎デッサン① 鉛筆デッサンにより明暗の調子を学ぶ</li> <li>2 基礎デッサン② ハッチングの方向、グラデーションの幅の広い表現、動き、バランス表現</li> <li>3 基礎デッサン① 鉛筆、ダーマトグラフ（白）により質感、構図、明暗の調子を学ぶ</li> <li>4 基礎デッサン② ダーマトグラフ（白）により質感、構図、明暗の調子を学ぶ</li> <li>5 作品完成と分解</li> <li>6 動物の絵（自分の周りにいる動物を描く）① 構図、バランスを考え、特徴をつかむ</li> <li>7 動物の絵（自分の周りにいる動物を描く）② 毛の方向を意識して描く</li> <li>8 動物の絵（自分の周りにいる動物を描く）③ 作品の完成と合評</li> <li>9 自然石を利用した立体表現① 動物をイメージして、顔（頭部）、全身を表現する</li> <li>10 自然石を利用した立体表現② 自然石の造形の妙を理解、消化する</li> <li>11 自然石を利用した立体表現③ 作品の完成と合評</li> <li>12 動物（生き物）の世界① 同一画面に構図、画面構成を考え、様々な生き物を自由に入れる</li> <li>13 動物（生き物）の世界② 同一画面に構図、画面構成を考え、様々な生き物を自由に入れる</li> <li>14 動物（生き物）の世界③ 同一画面に構図、画面構成を考え、様々な生き物を自由に入れる</li> <li>15 レビューと合評</li> </ol>							
<b>履修上の注意</b>							
課題ごとに持ち物を忘れないこと							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
課題ごとの作品評価（90%）と授業への参加度（10%）の総合的評価							
<b>教科書</b>							
特に指定しない							
<b>参考書、教材等</b>							
<p>田中光常「動物ワールド」写真集 ※デッサン作品資料 レオナルド・ダ・ヴィンチ  上野動物園グラフ アルブレヒト・デューラー  ※油絵資料（動物作品） アンリ・ルソー  サルバドール・ダリ</p>							

授業科目	文学と人間					担当教員	島森 尚子
科目英名	Literature and Human Beings						
開講期間	2・3年次 後期	必/選	選択	単位	2	科目区分	教養教育 [人文と社会]
<b>講義目的</b>							
<p>古今のイギリス文学作品について、講義や解説、批評等を参考に、自分で決めた主題でレポートを書くことにより、調査方法や文章作法を学びながら、複眼的な視座と柔軟な思考力を身につける。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>優れた文学作品を読むとき、我々は作者の鋭い視力を通して世界を見、豊かな言葉を通じて彼の体験を追体験する。が、作品との付き合い方を知らなければ、書物は単なる紙の束に、文字は空疎な記号にもなりうるのであって、彼の豊穡な作品世界を享受したいなら、読者としての訓練は必須である。</p> <p>この講義では、古今のイギリス文学の優れた作品をいくつか選び、それを教材として、よりよい読者になるための基礎訓練を行う。また、時代背景や物語の雰囲気を理解するために、視聴覚資料（映画や音楽、絵画）も紹介する。最終的には、自ら選んだテーマに基づいて作品の解説や批評を読み、レポートにまとめてもらう。</p>							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス イギリスの歴史と文学入門 1：古典の遺産</li> <li>2 イギリスの歴史と文学入門 2：社会と文学</li> <li>3 イギリス・ルネサンスの文学 1：『ハムレット』</li> <li>4 イギリス・ルネサンスの文学 2：『ハムレット』</li> <li>5 イギリス・ルネサンスの文学 3：詩と音楽・映画鑑賞『ハムレット』</li> <li>6 イギリス・ルネサンスの文学 4：映画鑑賞『ハムレット』</li> <li>7 『ガリヴァー旅行記』と近代 1：第 1 部・第 2 部</li> <li>8 『ガリヴァー旅行記』と近代 2：第 3 部・第 4 部</li> <li>9 『ガリヴァー旅行記』と近代 3：スウィフトと近代思想</li> <li>10 18 世紀の詩：宇宙の調和</li> <li>11 19 世紀の詩：自然と人間</li> <li>12 戦争と文学：第 1 次世界大戦と西欧秩序の崩壊</li> <li>13 『蠅の王』と現代 1：現代文学の諸問題</li> <li>14 『蠅の王』と現代 2：何のために読むか</li> <li>15 まとめと課題</li> </ol>							
<b>履修上の注意</b>							
課題作品は必読である。入手方法等はガイダンスで指示するので、必ず 1 回目から出席すること。							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
小課題提出（平常点）30%、レポート 70%の割合で総合的に評価する。							
<b>教科書</b>							
課題作品のうち 3 冊は準備が必要。翻訳は複数あるが、ガイダンスで指定する版を入手すること。							
<b>参考書、教材等</b>							
<p>原 佑他『西洋思想の流れ』UP 選書、東京大学出版会。</p> <p>C. D. ルーイス『詩を読む若き人々のために』深瀬基寛訳、ちくま文庫。</p> <p>その他、教場にて配布・指示する。</p>							

授業科目	心理学入門				担当教員	小倉 啓子	
科目英名	Introduction to Psychology						
開講期間	2・3年次 前期	必/選	選択	単位	2	科目区分	教養教育 [人文と社会]
<b>講義目的</b>							
<p>心理学は独自の科学的方法と視点から、私たちが日常で経験している感情や認識、記憶、判断、知覚、人間関係、悩みなどの現象が、どのようなメカニズムで動いているのかを明らかにしてきた。これらの知識は、社会や人間関係の動き方、個人の内面の状態を理解したり、問題を改善したりすることに役立ってきた。本講義では、このように複雑で変化の多い人間の心の動きを身体的基盤も含めて多様な方面から学び、他者や自分への関心や理解を深め、日常生活や社会のなかで共に生きていけるような力を養うことを目的とする。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>本講義では、心理学の基礎的な項目として知覚や記憶、学習、知能、感情、社会と個人の関係、心理的・社会的発達に関する事柄を学ぶ。心理臨床領域として性格、心の問題と解決、予防と援助を学び、次に学習する臨床心理学、高齢者心理ケア、カウンセリング論、発達心理学などの基礎であることを理解する。心理学系の科目としては最初の講義であるが、日常的な例を取り上げた双方向的で視聴覚教材を用いた授業によって、心理学は身近な学問であることを学習する。</p>							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 心理学とは：心理学の歴史と発展・心理学研究の領域と必要性・研究法</li> <li>2 心の身体的基盤の基礎知識(1)：心と脳の関係・脳の構造と機能</li> <li>3 心の身体的基盤の基礎知識(2)：心と神経系・進化と心・心と身体の結びつき</li> <li>4 知覚：感覚器官・知覚特性（選択的注意・体制化・恒常性・ゲシュタルト的知覚・運動視・錯視）</li> <li>5 記憶：記憶の3つの働き・感覚記憶・短期記憶・長期記憶・忘却・再生と再認・記憶の変容</li> <li>6 学習と思考：古典的条件付け・オペラント条件付け・観察学習・洞察</li> <li>7 知能：知能テスト・知能の種類・知能と遺伝、環境・知能を伸ばす環境</li> <li>8 欲求と感情：欲求の種類・欲求不満と葛藤・感情の種類と表出・感情と認知・感情と心身の変化</li> <li>9 集団と個人：さまざまな集団・社会的な自我形成・役割取得</li> <li>10 集団と個人：対人認知・対人魅力</li> <li>11 人間の発達：発達の理論・遺伝と環境の影響・乳児期の様相</li> <li>12 人間の発達：児童期の様相・青年期の様相・成人期の様相・老年期の様相</li> <li>13 性格：性格の理論・類型説・特性説・性格の形成・性格テスト</li> <li>14 心の問題と援助：心の構造論・心の葛藤・心理的防衛・心の問題</li> <li>15 心の問題と援助：現代社会と心の問題・予防と回復・メンタルヘルス・心理療法</li> </ol>							
<b>履修上の注意</b>							
<p>講義内容を実感をもって理解するためには、学生が自分自身の心理的体験を振り返ることが必要である。また、復習や感想レポートの提出を着実にすること。</p>							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
<p>授業への参加度（40%）・課題レポートあるいは試験（60%）から総合的に評価する。</p>							
<b>教科書</b>							
<p>プリントを配布する。</p>							
<b>参考書、教材等</b>							
<p>参考書は講義中に紹介する。ビデオなど視聴覚機材も用いる。</p>							

授業科目	生活と経済				担当教員	矢島 隆志	
科目英名	Life and Economy						
開講期間	1年次 前期	必/選	選択	単位	2	科目区分	教養教育 [人文と社会]
<b>講義目的</b>							
<p>身近な社会やふだんの生活の中にある事例を取り上げながら、生活に密着した経済について基本的な知識を学習します。また社会に出てから必要となる基礎知識を学び、実務に役立つ経済をわかりやすく学ぶこととします。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>社会生活においては、経済的な考え方が大切です。経済的な考え方なしでは、社会の中で生きていくことは困難です。日々の生活の中では経済活動の中心となっている「金銭的価値」という尺度は、重要な判断の物差しとなっています。本講義では、社会や生活の中の経済について基本知識を身につけるとともに、経営などの社会に出てから必要となる基礎知識や実務を勉強します。</p>							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 経済とは何か</li> <li>2 世界経済はどう動いているか</li> <li>3 日本の経済問題のポイント</li> <li>4 ビジネスプランの作り方 (1)</li> <li>5 ビジネスプランの作り方 (2)</li> <li>6 企業経営にチャレンジ</li> <li>7 起業するにはどうしたらいいか</li> <li>8 経営マネジメントを学ぶ</li> <li>9 ニュービジネスはこれだ</li> <li>10 マーケティングのノウハウ</li> <li>11 価格戦略のおもしろさ</li> <li>12 グローバル化している経済</li> <li>13 環境と経済</li> <li>14 これからの経済</li> <li>15 生活と経済のまとめ</li> </ol>							
<b>履修上の注意</b>							
<p>毎回の授業の終わりに小テストをします。          期末テストの代わりに演習の提出を行います。</p>							
<b>評価方法 (評価基準を含む)</b>							
演習の評価 (70%)、授業への参加度 (30%)							
<b>教科書</b>							
毎回プリントを配布します。							
<b>参考書、教材等</b>							
なし。							

授業科目	生活と社会					担当教員	新島 典子
科目英名	Sociology in Everyday Life						
開講期間	2・3年次 後期	必/選	選択	単位	2	科目区分	教養教育 [人文と社会]
<b>講義目的</b>							
<p>私たちが生活する現代社会は多様な問題にあふれている。今年度は、生活と社会における「死、生、喪失」に関わる様々な問題を取りあげ、検討・議論することを通じて、動物病院でクライアント（飼い主）や患者に対峙する際、配慮あるサポート・支援の出来る動物看護師を養成することを目的とする。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>現代社会における死生観、動物へのまなざし、日常生活の中の喪失体験などについて具体的な事例や最新のデータを紹介し、検討・考察を行う。諸問題のリアリティに迫るため、さまざまな資料や調査事例などをプリント、スライドやビデオで紹介しながら授業を行う。</p>							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生活と社会における死、生、喪失（オリエンテーション）</li> <li>2 死と生を数値化する（1）： 少子化から社会を見る</li> <li>3 死と生を数値化する（2）： 高齢化から社会を見る</li> <li>4 死と生を定義する： 死とは何か、生とは何か</li> <li>5 死と生を教える（1）： いのちの教育とは</li> <li>6 死と生を教える（2）： 動物介在教育について</li> <li>7 死と生を操作する（1）： 安楽死について</li> <li>8 死と生を操作する（2）： 高度生殖医療について</li> <li>9 死と生を操作する（3）： いのちを食べること</li> <li>10 死を迎える： 終末期医療について</li> <li>11 死を求める： 自殺について</li> <li>12 死を受け入れる（1）： 喪失体験と回復</li> <li>13 死を受け入れる（2）： 難病の家族と救世主きょうだい</li> <li>14 死を受け入れる（3）： 葬儀の意義と多様化</li> <li>15 生活と社会における死、生、喪失（総括）</li> </ol>							
<b>履修上の注意</b>							
<p>講義内容および資料に関する論評や課題を作成し、不定期に提出してもらう。論評は出席票を兼ねる。</p>							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
<p>試験あるいはレポート（60%）、授業への参加度（40%）から総合的に評価する。</p>							
<b>教科書</b>							
<p>『現代社会における生と死（仮）』新島 典子 編 秋山書店</p>							
<b>参考書、教材等</b>							
<p>参考書は講義中に紹介する。教材は実践的な事例をビデオやスライドなどで紹介する。</p>							



授業科目	動物とジャーナリズム				担当教員	仁科 邦男	
科目英名	Animal and Journalism						
開講期間	1年次 後期	必/選	選択	単位	2	科目区分	教養教育 [人文と社会]
<b>講義目的</b>							
<p>動物に関する人の価値観、考え方は、時代や民族や地域によって大きく異なり、今も変化している。とくに日本では犬についての価値観の変動が激しい。幕末・明治から現在に至るまで、新聞・雑誌で報じられたさまざまな犬の事件、騒動、話題をもとに、近代における人と犬との暮らしぶりの変容を学ぶ。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>かつて日本の犬のほとんどは放し飼いだっただ。飼い主さえはっきりしない犬が多かった。たとえば、ある長屋に住みついた犬は個人ではなく長屋全体で養われていた。幕末、横浜が開港して以降、日本人の常識はひっくり返った。西洋の犬には飼い主がいて、個人の財産として認められていた。明治政府は、飼い犬は登録し、名札を下げよう新しい法律を作った。飼い主のいない犬たちは次々と撲殺された。日本の犬たちの近代化は名もない犬たちの悲劇で始まった。そして今、伴侶動物として新しい犬の時代を迎えた。</p>							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 飼い犬と来日した最初の外国人、イギリス公使・オールコックと愛犬の死 (1859年、安政6年)</li> <li>2 横浜で最初の外国人裁判。他人の犬を銃殺したイギリス人に罰金150ドル。(1860年、万延元年)</li> <li>3 横浜の英字紙に「犬の探し物(迷い犬)」の広告が次々と出る。(1863年、文久3年～)</li> <li>4 洋犬ブーム。明治政府「畜犬規則」制定。飼い主不明は撲殺。犬の銭湯禁止。(1873年、明治6年)</li> <li>5 東京・人形町にいた白犬、伊勢参りして帰る。最後の「犬の伊勢参り」。(1874年、明治7年)</li> <li>6 文明開化。福沢諭吉「チンワン之説」「姓名之事」が雑誌に掲載される。(1876年、明治9年)</li> <li>7 上野公園で犬を連れた西郷隆盛像の除幕式。(1898年、明治31年)</li> <li>8 犬の名前ランキング①ポチ②ジョン③マル(1910年、明治43年)</li> <li>9 「日本人道会」(動物愛護団体)発足、本格的な愛護運動が始まる。(1914年、大正3年)</li> <li>10 関東大震災。犬や猫はどうなったのか。災害とペットについて考える。(1923年、大正12年)</li> <li>11 「忠犬ハチ公」、新聞記事になる。その真実は?(1932年、昭和7年)</li> <li>12 戦時下の犬たち。毛皮確保のため全国で犬の強制的供出運動始まる。(1944年、昭和19年)</li> <li>13 南極探検隊のタロ、ジロは生きていた。置き去りの是非。(1959年、昭和34年)</li> <li>14 東日本大震災。犬たちの生死の分かれ目。(2011年、平成23年)</li> <li>15 「ヒトは知りたがるサルである」。動物ジャーナリズム小論。</li> </ol>							
<b>履修上の注意</b>							
<p>当時の新聞、雑誌、図書資料をもとに授業を行う。A4一枚程度の資料を授業当日に配る。受講者には出席票を兼ね、コメント・質問の提出を求める。</p>							
<b>評価方法(評価基準を含む)</b>							
<p>コメント・質問 40%、学期末レポート 60%</p>							
<b>教科書</b>							
<p>なし</p>							
<b>参考書、教材等</b>							
<p>必要と思われるものは、その都度、どんなものがあるか説明する。</p>							

授業科目	キャリアマネジメント入門					担当教員	赤羽根 和恵
科目英名	Introduction to Career Management						
開講期間	2年次 後期	必/選	選択	単位	2	科目区分	教養教育 [人文と社会]
<b>講義目的</b>							
<p>社会・経済構造の変化により、人々の就業形態も多様化し、個人の職業観と勤労意識も変化している。労働市場の流動化により、現代は個人主導のキャリア形成が求められているが、学生が適職を探し、将来のキャリアを思い描くことは容易ではない。そこで働くことの意味を考え、自己理解を深めると共に、自己啓発を促していく。2年次の段階で職業について知識を持ち、必要な能力の育成を行うことが大切である。動物看護学を活かしたキャリア形成を自覚する機会を与えることを目的としている。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>キャリアとは、生涯を通じての人間の生き方とその表現である。学校、職場、地域貢献、ボランティア活動等の広義での仕事を含め、人生の経験を複合的に積むことで得る。本講義では、講義と文献購読によりキャリアデザインの基礎を理解する。ワークシートを作成し自己分析を行い、自己の理解を深めると共に自己啓発を促す。そして社会が求める人材について検討し、自分のライフプランと目標とするキャリア発達に必要な職業能力や要件を明確にしていく。かけがえのない人生の中で、積極的にキャリアをマネジメントする方法を検討していく。</p>							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション：授業の目的、進め方、受講に対しての学生のニーズ調査</li> <li>2 現代社会とキャリアデザイン：キャリアデザインの基礎理解</li> <li>3 キャリアと人生設計（1）：ライフサイクルと職業</li> <li>4 キャリアと人生設計（2）：生涯収支と職業</li> <li>5 キャリアと人生設計（3）：キャリアと生涯発達</li> <li>6 キャリアのための自己理解（1）：働く意味と自分の職業感</li> <li>7 キャリアのための自己理解（2）：自分の強みと弱みを知る</li> <li>8 キャリアと仕事理解（1）：学生生活とキャリア意識の明確化</li> <li>9 キャリアと仕事理解（2）：経済・雇用環境の変化と働き方を考える</li> <li>10 キャリアと職場理解（1）：キャリア形成と求められる基礎能力</li> <li>11 キャリアと職場理解（2）：多様な職種と業種の中で自分の適職を検討する</li> <li>12 ケーススタディ（1）：ペット関連業界でのキャリア</li> <li>13 ケーススタディ（2）：その他の業界でのキャリア</li> <li>14 キャリアマネジメント（1）：キャリアデザインの方向性</li> <li>15 キャリアマネジメント（2）：まとめ</li> </ol>							
<b>履修上の注意</b>							
<p>テキストを使用し自己分析シート等、ワークシートの作成を行っていく。  講義後半に、テキストの提出を求めるので、欠席の場合はテキストを読み記入しておくこと。  なお、一部内容・回の順番を替える場合は、講義内で連絡をする。</p>							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
<p>授業への参加度を40%、テキストおよび課題提出（ワークシート、レポート）を60%とし、総合的に評価する。</p>							
<b>教科書</b>							
『キャリアデザイン講座 ー理論と実践で自己決定力を伸ばす』 日経 BP ソフトプレス							
<b>参考書、教材等</b>							
講義中に紹介する。							

授業科目	キャリアマネジメント演習				担当教員	赤羽根 和恵	
科目英名	Seminar in Career Management						
開講期間	3年次 前期	必/選	選択	単位	1	科目区分	教養教育 [人文と社会]
<b>講義目的</b>							
<p>講義によりキャリア形成についての理解を深めると共に、各職業の研究を行う。職業によって異なる特徴、求められる資質を知り、具体的に自己のキャリアを構築していくことが目的である。自分に適したキャリアを追求していくための原点（キャリア・アンカー）を知り、適した職業に就くよう職業に関する情報を得、検討を重ねる。そして自らの目標とするキャリア形成を行いそこに到達するための必要な手段等を発表する。参加者全員で意見交換をしより実現可能なキャリアの形成を目指す。さらにビジネスパーソンとしての基礎力養成を図ることも目的とする。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>本講義は「キャリアマネジメント入門」を基礎とし、キャリア形成についての理解を深め、働き方についての研究を行う。キャリアの構築のために必要な知識を取得し、より現実的な職業に就くよう目標と計画を立てる。また、3年次選択科目であることから就職活動も視野に入れ、経済産業省が打ち出している「社会人基礎力」をもとに社会人として必要な基礎知識と自己表現力の習得を図る。講義の中で、自己PR文の書き方、有効なプレゼンテーション、グループディスカッションを行う。</p>							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション：授業の概要、到達目標について</li> <li>2 大学生活とキャリアマネジメント：明確なキャリアマネジメントの意義</li> <li>3 社会が求める能力（1）：社会人基礎力「前に踏み出す力」</li> <li>4 社会が求める能力（2）：社会人基礎力「考え抜く力」</li> <li>5 社会が求める能力（3）：社会人基礎力「チームで働く力」</li> <li>6 プレゼンテーション：プレゼンテーションの方法</li> <li>7 動物病院でのキャリア（1）：事例研究「動物看護師としての一日」</li> <li>8 動物病院でのキャリア（2）：動物看護師としてのキャリア形成</li> <li>9 ペット関連企業でのキャリア（1）：事例研究「ペット関連企業での一日」</li> <li>10 ペット関連企業でのキャリア（2）：企業人としてのキャリア形成</li> <li>11 就職市場の動向：的確な就職活動に向けて</li> <li>12 自己表現研究（1）：自己PR文の書き方</li> <li>13 自己表現研究（2）：SWOT分析を用いての自己PR文の作成</li> <li>14 自己表現研究（3）：グループディスカッション</li> <li>15 総括</li> </ol>							
<b>履修上の注意</b>							
<p>「キャリアマネジメント入門」を履修していることが望ましい。 自己PR文は、グループ内で読み意見交換をする。</p>							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
<p>授業への参加度を30%、プレゼンテーション、グループディスカッションなど授業への参加度を40%、レポートを30%とし、総合的に評価する。</p>							
<b>教科書</b>							
なし（適宜、資料を配布する）。							
<b>参考書、教材等</b>							
講義中に紹介する。							

授業科目	自然科学				担当教員	石川 牧子	
科目英名	Natural Science						
開講期間	1年次 前期	必/選	選択	単位	2	科目区分	教養教育 [自然と環境]
<b>講義目的</b>							
<p>自然科学と呼ばれる学問は、周囲に観察される自然現象の成り立ちと、それから導かれる法則性を理解することが目標です。研究成果は科学技術に応用され、人間生活に役立ちます。この講義では、自然現象の観察・理解に役立つ一般原理・法則・理論の体系的な学習を通じ、自然科学全体に関する基礎的な知識、およびその人間生活への応用の包括的な理解を目指します。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>本科目では、自然科学の本質を問い、基幹をなす物理、化学、生物、地学から見た自然科学、環境と生命の自然科学など、ミクロからマクロへと自然科学を俯瞰し、自然科学の基礎と応用についての基本的な理解が得られるように講述します。</p>							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 自然科学とは1；自然科学の誕生、自然科学の目指すもの。物理学・化学・生物学・天文学・地球科学に関する自然科学の基礎の理解。</li> <li>2 自然科学とは2；近代科学史、自然科学の発展と現代社会。</li> <li>3 物理からみた自然科学；宇宙誕生、宇宙物質進化、物質の成り立ち、物質を構成する粒子、光とエネルギー。</li> <li>4 地球化学；太陽系・地球の進化、地球の構造、地球の化学モデル、同位体、地球環境。</li> <li>5 化学からみた自然科学1；原子、分子と化学反応、物質の状態、物質の変化、化合物、汚染物質の化学。</li> <li>6 化学からみた自然科学2；有機化学の基礎、有機化合物、生化学反応、生物体を構成する物質（アミノ酸、タンパク質、糖、核酸、脂質）、動物と汚染物質。</li> <li>7 生物からみた自然科学1；生物の基本概念と基本構造、遺伝と生物情報、遺伝子とDNA。</li> <li>8 生物からみた自然科学2；細胞のつくりと働き、エネルギーと代謝、体細胞と生殖細胞、発生。</li> <li>9 動物からみた自然科学；生物の多様性、生物進化、大絶滅、陸上動物の出現、ヒトの出現、動物と人間とのかかわり。</li> <li>10 環境と生命の自然科学1；大気・水・土壌、物質循環、生物圏と生態系、環境応答と恒常性、地球科学と生命</li> <li>11 環境と生命の自然科学2；環境と生物の相互作用、ヒトによる環境変化、環境保全と化学物質評価、公害。</li> <li>12 食物と健康；食物の成分と働き、食品の有害物質、食品のもつ生理機能。</li> <li>13 最近の科学技術と進歩1；地球の資源、金属、非金属材料、新素材。</li> <li>14 最近の科学技術と進歩2；生物資源、品種改良、バイオテクノロジー。</li> <li>15 これからの自然科学；現代の理工学技術、問題点、これからの自然科学の目指すもの。</li> </ol>							
<b>履修上の注意</b>							
なし							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
定期試験・中間試験(65%)、授業への参加度・受講態度・レポート提出(35%)などの総合評価。							
<b>教科書</b>							
特に指定しない。必要に応じ適宜参考資料を配布する。							
<b>参考書、教材等</b>							
<p>井上源喜著：「宇宙・生命・社会 137億年のサイエンス」開成出版(2004)。  奥田・門田・寺田・三浦・室園共著：「自然科学と人間」開成出版(1994)。</p>							

授業科目	自然科学				担当教員	石川 牧子	
科目英名	Natural Science						
開講期間	1年次 前期	必/選	選択	単位	2	科目区分	教養教育 [自然と環境]
<b>講義目的</b>							
<p>自然科学と呼ばれる学問は、周囲に観察される自然現象の成り立ちと、それから導かれる法則性を理解することが目標です。研究成果は科学技術に応用され、人間生活に役立ちます。この講義では、自然現象の観察・理解に役立つ一般原理・法則・理論の体系的な学習を通じ、自然科学全体に関する基礎的な知識、およびその人間生活への応用の包括的な理解を目指します。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>本科目では、自然科学の本質を問い、基幹をなす物理、化学、生物、地学から見た自然科学、環境と生命の自然科学など、ミクロからマクロへと自然科学を俯瞰し、自然科学の基礎と応用についての基本的な理解が得られるように講述します。</p>							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 自然科学とは1；自然科学の誕生、自然科学の目指すもの。物理学・化学・生物学・天文学・地球科学に関する自然科学の基礎の理解。</li> <li>2 自然科学とは2；近代科学史、自然科学の発展と現代社会。</li> <li>3 物理からみた自然科学；宇宙誕生、宇宙物質進化、物質の成り立ち、物質を構成する粒子、光とエネルギー。</li> <li>4 地球化学；太陽系・地球の進化、地球の構造、地球の化学モデル、同位体、地球環境。</li> <li>5 化学からみた自然科学1；原子、分子と化学反応、物質の状態、物質の変化、化合物、汚染物質の化学。</li> <li>6 化学からみた自然科学2；有機化学の基礎、有機化合物、生化学反応、生物体を構成する物質（アミノ酸、タンパク質、糖、核酸、脂質）、動物と汚染物質。</li> <li>7 生物からみた自然科学1；生物の基本概念と基本構造、遺伝と生物情報、遺伝子とDNA。</li> <li>8 生物からみた自然科学2；細胞のつくりと働き、エネルギーと代謝、体細胞と生殖細胞、発生。</li> <li>9 動物からみた自然科学；生物の多様性、生物進化、大絶滅、陸上動物の出現、ヒトの出現、動物と人間とのかかわり。</li> <li>10 環境と生命の自然科学1；大気・水・土壌、物質循環、生物圏と生態系、環境応答と恒常性、地球科学と生命</li> <li>11 環境と生命の自然科学2；環境と生物の相互作用、ヒトによる環境変化、環境保全と化学物質評価、公害。</li> <li>12 食物と健康；食物の成分と働き、食品の有害物質、食品のもつ生理機能。</li> <li>13 最近の科学技術と進歩1；地球の資源、金属、非金属材料、新素材。</li> <li>14 最近の科学技術と進歩2；生物資源、品種改良、バイオテクノロジー。</li> <li>15 これからの自然科学；現代の理工学技術、問題点、これからの自然科学の目指すもの。</li> </ol>							
<b>履修上の注意</b>							
なし							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
定期試験・中間試験(65%)、授業への参加度・受講態度・レポート提出(35%)などの総合評価。							
<b>教科書</b>							
特に指定しない。必要に応じ適宜参考資料を配布する。							
<b>参考書、教材等</b>							
井上源喜著：「宇宙・生命・社会 137億年のサイエンス」開成出版(2004)。 奥田・門田・寺田・三浦・室園共著：「自然科学と人間」開成出版(1994)。							

授業科目	基礎生物学					担当教員	茂木 千恵
科目英名	Basic Biology						
開講期間	1年次 後期	必選	選択	単位	2	科目区分	教養教育[自然と環境]
<b>講義目的</b>							
本講義では、動物看護師などの獣医医療分野における専門職を目指す、専門的な教育の前提として必須な生物科学の基本概念および用語の習得を目指す。							
<b>講義概要</b>							
本講義では、生物の中でも特に、動物看護学に関わりのある動物の生命活動を支える仕組みとその動物種が維持されていく仕組みについて、基本的な事柄を中心に講義する。							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生物の系統と分類</li> <li>2 細胞の構造</li> <li>3 生体を構成する物質</li> <li>4 栄養素と代謝</li> <li>5 遺伝の仕組み</li> <li>6 発生</li> <li>7 生殖</li> <li>8 動物の組織</li> <li>9 恒常性</li> <li>10 外部刺激と反応</li> <li>11 免疫</li> <li>12 微生物と感染症</li> <li>13 共生と寄生</li> <li>14 ガンと老化</li> <li>15 まとめ</li> </ol>							
<b>履修上の注意</b>							
前半では「生物の原則」後半では「動物に関する基本」を学ぶ。							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
学期末試験（70%）、授業への参加度（30%）から総合的に評価する。							
<b>教科書</b>							
特になし。資料を講義時に配布する。							
<b>参考書、教材等</b>							
参考書は講義の中で紹介する。							

授業科目	基礎化学				担当教員	石川 牧子	
科目英名	Basic Chemistry						
開講期間	1年次 後期	必/選	選択	単位	2	科目区分	教養教育 [自然と環境]
<b>講義目的</b>							
<p>化学とは、原子で構成されている地球上の全ての物質の理解に欠かせない自然科学の一分野です。化学は、生命現象を司る種々の物質が我々の体の中で互いにどう関わっているかを明らかにし、また、我々人類の生活にも大きな貢献をしています。本講義では、元素の特性、原子・分子の構造と電子状態、化学平衡と反応速度、無機・有機化合物、及び生体物質化学などの基礎的事項を総合的に理解し、専門教育科目への学習の基盤を構築することを目的とします。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>本科目では、生命、生活、環境と密着した化学の基本に重点を置き、元素の周期律、原子・電子・分子の構造、モルの考え方、化学結合、酸と塩基、酸化還元反応、熱力学と反応速度などの化学の基本原則から有機化学、生体物質化学の基礎まで、広範な基礎化学を総合的に講述します。</p>							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 高校化学のまとめ・総復習Ⅰ；物質の構成、物質の状態</li> <li>2 高校化学のまとめ・総復習Ⅱ；物質の変化、無機・有機化学概説</li> <li>3 原子とその構造；原子核、電子の性質と構造、同位体</li> <li>4 周期表と元素；原子の電子配置、周期表、元素の性質</li> <li>5 化学結合と分子；共有結合、イオン結合、金属結合、水素結合、結合エネルギー、極性、分子間力</li> <li>6 モルの定義と計算；原子量、分子量、モルとアボガドロ数、濃度、溶液調製</li> <li>7 物質の三態；固体・液体・気体、溶液の化学</li> <li>8 酸と塩基；電離とイオン化、水素イオン濃度と pH、化学平衡</li> <li>9 酸化と還元；酸化還元反応、酸化剤と還元剤</li> <li>10 有機化学Ⅰ；有機化合物の構造、炭化水素、結合、置換基、有機化合物の種類と性質</li> <li>11 有機化学Ⅱ；異性体と立体化学、有機化学反応</li> <li>12 有機化合物Ⅰ；糖質と脂質、生体膜</li> <li>13 有機化合物Ⅱ；アミノ酸とタンパク質、酵素の働き</li> <li>14 有機化合物Ⅲ；核酸の構造と機能、複製</li> <li>15 医療、動物看護、生活と化学の関わり</li> </ol>							
<b>履修上の注意</b>							
<p>化学は、全ての科学系の専門教育科目を学習するための基礎となるものです。元素記号、原子・分子の構成、モルの定義の理解と溶液調製への応用、化学式・化学反応式の意味、無機・有機化合物や生体高分子の特性など基礎的事項を概説し、確実な理解を目指します。</p>							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
<p>定期試験・中間試験(65%)、授業への参加度・受講態度・レポート提出(35%)などの総合評価。</p>							
<b>教科書</b>							
<p>特に指定しない。必要に応じ適宜参考資料を配布する。</p>							
<b>参考書、教材等</b>							
<p>塩田三千夫、山崎昶著；医療・看護系のための化学入門、裳華房、2003</p>							

授業科目	基礎生化学				担当教員	小黒 美枝子	
科目英名	Basic Biochemistry						
開講期間	1年次 後期	必/選	選択	単位	2	科目区分	教養教育 [自然と環境]
<b>講義目的</b>							
<p>大学レベルの生物学は、今日では「生化学」、「分子生物学」、「細胞生物学」などに細分化されているが、いずれも複雑な生命現象を理解するための手段であり、その意味では全てが「生命科学」の範疇に入れられる。「生化学」はさまざまな生体物質の働きや代謝を手がかりとして生命現象を明らかにする学問であるが、本講義は「生化学」を柱として教養レベルの「生命科学」を解説することを目的とする。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>生物学を基にした最新のテクノロジーは、私たちの食物やペットのえさや、生命や地球環境に大きな影響を与えている。しかも非常な勢いで進歩している。進歩の早い生物学、生物化学（生化学）を読み解けるように、生物の基本的な3つの能力、“代謝”、“遺伝”、“恒常性”を理解する。とくに“生物は何か”をイメージするに役立つように、タンパク質が動く物質であること、また、その物質の情報がDNAに保存されていることを学ぶ。タンパク質を軸に生物を理解できるように解説する。</p>							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生物とは何か</li> <li>2 自然の成り立ち 生態系</li> <li>3 自然の成り立ち 種と分類、種分化の仕組み</li> <li>4 細胞</li> <li>5 生物の分子 アミノ酸、タンパク質</li> <li>6 生物の分子 糖質、脂質</li> <li>7 生物の分子 核酸</li> <li>8 生物の分子 無機化合物</li> <li>9 代謝 代謝経路</li> <li>10 代謝 酵素の働き</li> <li>11 遺伝 セントラルドグマ</li> <li>12 遺伝 遺伝情報の発現調節</li> <li>13 恒常性：タンパク質の働き、DNA修復</li> <li>14 恒常性：受容体</li> <li>15 まとめ</li> </ol>							
<b>履修上の注意</b>							
<p>高校から大学への橋渡しレベルの内容とする。したがって、予習は難しいが復習を期待している。</p>							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
<p>試験（60%）、授業への参加度（40%）を基に総合的に評価する。</p>							
<b>教科書</b>							
<p>生物科学入門 - 代謝遺伝恒常性 - 白木賢太郎著 東京化学同人</p>							
<b>参考書、教材等</b>							
<p>参考書：「図解よくわかる生化学」（中島邦夫・柏俣重夫・樋田広重 著、南山堂）；「わかりやすい分子生物学」（兵頭昌男 著、中外医学社）；「細胞生物学」（堅田利明 編著、廣川書店）など。</p>							



授業科目	イングリッシュスキルズ（基礎）A				担当教員	島森 尚子	
科目英名	English Skills (Basic) A						
開講期間	1年次 前期	必/選	必修	単位	2	科目区分	教養教育[言語・情報・スポーツ]
講義目的	プライマー・イングリッシュA 英語を聞き、読み、さらに基礎的な統語の知識を身につけることによって英語の4技能をレベルアップし、大学教養英語の基礎を確立する。						
講義概要	英語は日本語とは全く異なる統語法に基づいて書かれ、話されている。従って、日本語に頼った学習法では、実際に使える英語はなかなか身につかない。本講義では、日本語を介さずに英語を理解できるよう、基礎的な動詞や単純な文を用いて、英語の文構造・基本動詞の語法をはじめ、主として統語を中心に学んでゆく。授業では、関連する内容の読解教材や視聴覚教材を用い、実例に基づいて文法の理解を深める。受講生諸君の英語運用能力の向上のため、一方的な文法の解説や訳読ではなく、随時発表を促すことになるので、予習・復習は必須である。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス・英語の品詞と統語の基礎・音声学基礎、‘Introduction’リスニング、読解</li> <li>2 状態動詞と動作動詞 1 解説と問題演習、‘Babies’リスニング、読解と問題演習</li> <li>3 状態動詞と動作動詞 2 解説と問題演習、‘Parents’リスニング、読解と問題演習</li> <li>4 品詞と文型 解説と問題演習、‘Parents’リスニング、読解と問題演習</li> <li>5 レビュー 1 復習と Quiz 1</li> <li>6 動詞の時制 単純時制 1 解説と問題演習、‘Help’リスニング、読解と問題演習</li> <li>7 動詞の時制 単純時制 2 解説と問題演習、‘Help’リスニング、読解と問題演習</li> <li>8 法助動詞の種類と用法 1 解説と問題演習、‘Danger’リスニング、読解と問題演習</li> <li>9 法助動詞の種類と用法 2 解説と問題演習、‘Food’リスニング、読解と問題演習</li> <li>10 レビュー 2 復習と Quiz 2</li> <li>11 冠詞 解説と問題演習、‘Homes’リスニング、読解と問題演習</li> <li>12 名詞と代名詞 解説と問題演習、‘How Animals Learn’リスニング、読解と問題演習</li> <li>13 前置詞と前置詞句 解説と問題演習、‘How Animals Grow Up’リスニング、読解と問題演習</li> <li>14 レビュー 3 復習と Quiz 3</li> <li>15 総まとめと復習 試験と解説</li> </ol>						
履修上の注意	履修クラスはオリエンテーション時に実施した英語学習傾向試験の結果に基づいて決定されている。毎回必ず予習をして出席すること。使い慣れた辞書を必ず持参すること。						
評価方法（評価基準を含む）	授業への参加度（発言など）30%、Quiz 30%、試験 40%として評価する。						
教科書	<i>Young Animals</i> . Oxford Read and Discover series, OUP.						
参考書、教材等	教場にて指示、あるいは配付する。						

授業科目	イングリッシュスキルズ（基礎）B				担当教員	大橋 由紀子	
科目英名	English Skills (Basic) B						
開講期間	1年次 前期	必/選	必修	単位	2	科目区分	教養教育[言語・情報・スポーツ]
講義目的	プライマー・イングリッシュ B						
	この授業では、大学教養レベルの文法を身につけることを目的とする。英語の基礎を習得し、基本的な英文記事や論文要旨、および文献を読むための土台づくりをする。						
講義概要	授業は、学習事項の解説および演習が中心となる。文法解説と問題演習の後で、動物関連の英語論文要旨などの文献を読み、文法事項の確認と解説を行う。クラスでは、積極的に発言することが望まれる。授業ではディスカッションやプレゼンテーション形式の内容を取り入れ、発信型の授業となるように展開する。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス・品詞の解説</li> <li>2 動詞の種類（1）動詞の形の解説と問題演習</li> <li>3 動詞の種類（2）グループワーク、プレゼンテーション</li> <li>4 未来形（文法解説と問題演習、グループ活動）</li> <li>5 Review 1（前回までのレビューとして Animal planet より記事を選び、グループワーク）</li> <li>6 法助動詞（基礎的な使用法の解説後、ペアワーク）</li> <li>7 接続詞（文法解説と問題演習、ペアワーク）</li> <li>8 前置詞 1（時を表す前置詞の解説後、演習）</li> <li>9 前置詞 2（状態を表す前置詞の解説後、ペアワーク）</li> <li>10 Review 2（前回までのレビューとして Animal planet より記事を選び、ペアワーク）</li> <li>11 不定詞（問題演習、小テスト）</li> <li>12 動名詞と分詞（解説後、グループワーク）</li> <li>13 完了形（問題演習後、ペアワーク）</li> <li>14 Review 3（前回までのレビューとして Animal planet より記事を選び、ディスカッション）</li> <li>15 Review（前回までに学んだ内容の総復習と試験）</li> </ol>						
履修上の注意	オリエンテーション時に実施した学習傾向試験の結果に基づき、履修クラスを決定している。受講にあたっては、毎回、予習・復習を欠かさず行う必要がある。						
評価方法（評価基準を含む）	試験（60%）、発言など授業への参加度（40%）から総合的に評価する。						
教科書	『シンプルセンテンスで学ぶ基本英文法』 Simply Grammar, 南雲堂						
参考書、教材等	教場で指導する。						

授業科目	イングリッシュスキルズ（基礎）C				担当教員	大橋 由紀子	
科目英名	English Skills (Basic) C						
開講期間	1年次 前期	必/選	必修	単位	2	科目区分	教養教育[言語・情報・スポーツ]
講義目的	コミュニケーション・文法A						
この授業では、大学教養レベルの英文法を中心として、コミュニケーションな英語を運用するための基礎知識を学ぶ。英文読解に必要な基本的な英文法の復習、および十分な語彙の習得を目標とする。							
講義概要	英語を読み、書くために必要な文法事項を確実に習得するため、教科書の演習問題に加え、応用問題を課題として与える。授業では、ペアワークやグループワークも行うため、積極的な参加が期待される。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス・文の種類</li> <li>2 動詞の種類（解説と小テスト）</li> <li>3 時制（リスニングと演習）</li> <li>4 助動詞（解説と小テスト）</li> <li>5 態（解説後、グループワーク）</li> <li>6 Review（復習と小テスト）</li> <li>7 冠詞、名詞、代名詞、数詞（演習とグループワーク）</li> <li>8 接続詞（解説・演習、小テスト）</li> <li>9 前置詞（演習後、グループワーク）</li> <li>10 形容詞・副詞（解説後、ディスカッション）</li> <li>11 比較応用表現（解説後、グループワーク）</li> <li>12 不定詞（解説・演習、グループワーク）</li> <li>13 分詞・動名詞（グループ活動を行う）</li> <li>14 関係詞（用法の解説、演習）</li> <li>15 総まとめと review（試験と解説）</li> </ol>						
履修上の注意	オリエンテーション時に実施した、学習傾向試験の結果に基づき、履修クラスを決定している。受講にあたっては、毎回、予習・復習を欠かさず行う必要がある。						
評価方法（評価基準を含む）	試験（60%）、授業への参加度（40%）から総合的に評価する。						
教科書	『大学生のための総合英語』Let's Enjoy English 南雲堂						
参考書、教材等	教場で指導する。						

授業科目	イングリッシュスキルズ（基礎）D				担当教員	大橋 由紀子	
科目英名	English Skills (Basic) D						
開講期間	1年次 前期	必/選	必修	単位	2	科目区分	教養教育[言語・情報・スポーツ]
講義目的	コミュニケーション・文法B						
	この授業では、大学教養レベルの英文法を中心として、コミュニケーションな英語を運用するための基礎知識を学ぶ。英文読解に必要な基本的な英文法の復習、および十分な語彙の習得を目標とする。						
講義概要	英語を読み、書くために必要な文法事項を確実に習得するため、教科書の演習問題に加え、応用問題を課題として与える。授業では、ペアワークやグループワークも行うため、積極的な参加が期待される。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス・文の種類</li> <li>2 動詞の種類（解説と小テスト）</li> <li>3 時制（リスニングと演習）</li> <li>4 助動詞（解説と小テスト）</li> <li>5 態（解説後、グループワーク）</li> <li>6 Review（復習と小テスト）</li> <li>7 冠詞、名詞、代名詞、数詞（演習とグループワーク）</li> <li>8 接続詞（解説・演習、小テスト）</li> <li>9 前置詞（演習後、グループワーク）</li> <li>10 形容詞・副詞（解説後、ディスカッション）</li> <li>11 比較応用表現（解説後、グループワーク）</li> <li>12 不定詞（解説・演習、グループワーク）</li> <li>13 分詞・動名詞（グループ活動を行う）</li> <li>14 関係詞（用法の解説、演習）</li> <li>15 総まとめと review（試験と解説）</li> </ol>						
履修上の注意	オリエンテーション時に実施した、学習傾向試験の結果に基づき、履修クラスを決定している。受講にあたっては、毎回、予習・復習を欠かさず行う必要がある。						
評価方法（評価基準を含む）	試験（60%）、授業への参加度（40%）から総合的に評価する。						
教科書	『大学生のための総合英語』Let's Enjoy English 南雲堂						
参考書、教材等	教場で指導する。						

授業科目	イングリッシュスキルズ（基礎）E				担当教員	加藤 剛																																																												
科目英名	English Skills (Basic) E																																																																	
開講期間	1年次 前期	必/選	必修	単位	2	科目区分	教養教育[言語・情報・スポーツ]																																																											
講義目的	コミュニケーション・文法C																																																																	
<p>英語を運用するために必要な文法及び語彙の習得を図り、実践的な英語の基礎力を養うことを主たる目的とする。大学での研究活動で英語文献を読んだり、卒業後、動物医療や動物病院の業務で英語を使用したりする際にも、文法と語彙の知識は不可欠であり、文法と語彙が「読む」「聞く」「書く」「話す」という英語の4技能の基盤を成す。この授業の到達目標は、既習の知識を更に拡充させ、大学教養レベルの英語運用能力を習得することである。</p>																																																																		
講義概要	<p>毎回、学習目標とする文法事項と語彙を習得する為に、様々な活動を行う。使用する教材に合わせて、リーディング、リスニング、ライティング及びスピーキングの4技能を組み合わせ、実践的な文法・語彙を習得することを目指す。特に、文中での品詞の役割に注目し、正確な知識に基づいた英語の理解を目指す。また、語彙習得のために、毎回範囲を指定して単語テストを課す。授業では、ペアワークやグループワークが中心になるので、学生諸君の積極的な参加が望まれる。</p>																																																																	
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス、</td> <td>グループワーク 1、</td> <td>単語テスト 1 (1-120)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>文の種類・文型、</td> <td>グループワーク 2、</td> <td>単語テスト 2 (121-180)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>名詞句、</td> <td>グループワーク 3、</td> <td>単語テスト 3 (181-240)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>名詞節、</td> <td>グループワーク 4、</td> <td>単語テスト 4 (241-300)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>形容詞句、</td> <td>グループワーク 5、</td> <td>単語テスト 5 (301-360)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>形容詞節、</td> <td>グループワーク 6、</td> <td>単語テスト 6 (361-420)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>副詞句、</td> <td>グループワーク 7、</td> <td>単語テスト 7 (421-480)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>副詞節、</td> <td>グループワーク 8、</td> <td>単語テスト 8 (481-540)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>動詞の用法・時制、</td> <td>グループワーク 9、</td> <td>単語テスト 9 (541-600)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>動詞の用法・文型①、</td> <td>グループワーク 10、</td> <td>単語テスト 10 (601-660)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>動詞の用法・文型②、</td> <td>グループワーク 11、</td> <td>単語テスト 11 (661-720)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>動詞の用法・態、</td> <td>グループワーク 12、</td> <td>単語テスト 12 (721-780)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>仮定法、</td> <td>グループワーク 13、</td> <td>単語テスト 13 (781-840)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>倒置・挿入・省略・同格、</td> <td>グループワーク 14、</td> <td>単語テスト 14(841-900)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>レビュー、</td> <td>グループワーク 15、</td> <td>単語テスト 15(901-960)</td> </tr> </table>						1	ガイダンス、	グループワーク 1、	単語テスト 1 (1-120)	2	文の種類・文型、	グループワーク 2、	単語テスト 2 (121-180)	3	名詞句、	グループワーク 3、	単語テスト 3 (181-240)	4	名詞節、	グループワーク 4、	単語テスト 4 (241-300)	5	形容詞句、	グループワーク 5、	単語テスト 5 (301-360)	6	形容詞節、	グループワーク 6、	単語テスト 6 (361-420)	7	副詞句、	グループワーク 7、	単語テスト 7 (421-480)	8	副詞節、	グループワーク 8、	単語テスト 8 (481-540)	9	動詞の用法・時制、	グループワーク 9、	単語テスト 9 (541-600)	10	動詞の用法・文型①、	グループワーク 10、	単語テスト 10 (601-660)	11	動詞の用法・文型②、	グループワーク 11、	単語テスト 11 (661-720)	12	動詞の用法・態、	グループワーク 12、	単語テスト 12 (721-780)	13	仮定法、	グループワーク 13、	単語テスト 13 (781-840)	14	倒置・挿入・省略・同格、	グループワーク 14、	単語テスト 14(841-900)	15	レビュー、	グループワーク 15、	単語テスト 15(901-960)
1	ガイダンス、	グループワーク 1、	単語テスト 1 (1-120)																																																															
2	文の種類・文型、	グループワーク 2、	単語テスト 2 (121-180)																																																															
3	名詞句、	グループワーク 3、	単語テスト 3 (181-240)																																																															
4	名詞節、	グループワーク 4、	単語テスト 4 (241-300)																																																															
5	形容詞句、	グループワーク 5、	単語テスト 5 (301-360)																																																															
6	形容詞節、	グループワーク 6、	単語テスト 6 (361-420)																																																															
7	副詞句、	グループワーク 7、	単語テスト 7 (421-480)																																																															
8	副詞節、	グループワーク 8、	単語テスト 8 (481-540)																																																															
9	動詞の用法・時制、	グループワーク 9、	単語テスト 9 (541-600)																																																															
10	動詞の用法・文型①、	グループワーク 10、	単語テスト 10 (601-660)																																																															
11	動詞の用法・文型②、	グループワーク 11、	単語テスト 11 (661-720)																																																															
12	動詞の用法・態、	グループワーク 12、	単語テスト 12 (721-780)																																																															
13	仮定法、	グループワーク 13、	単語テスト 13 (781-840)																																																															
14	倒置・挿入・省略・同格、	グループワーク 14、	単語テスト 14(841-900)																																																															
15	レビュー、	グループワーク 15、	単語テスト 15(901-960)																																																															
履修上の注意	履修クラスはオリエンテーション時に実施した英語学習傾向試験の結果に基づき決定している。																																																																	
評価方法（評価基準を含む）	授業への参加度（50%）、受講態度（20%）、課題及び小テストの成績（30%）などから総合的に判断する。																																																																	
教科書	特に指定しない。																																																																	
参考書、教材等	適宜印刷教材や視聴覚教材を使用する。																																																																	

授業科目	イングリッシュスキルズ（基礎）F				担当教員	加藤 剛																																																													
科目英名	English Skills (Basic) F																																																																		
開講期間	1年次 前期	必/選	必修	単位	2	科目区分	教養教育[言語・情報・スポーツ]																																																												
講義目的	コミュニケーション・文法D																																																																		
	英語を運用するために必要な文法及び語彙の習得を図り、実践的な英語の基礎力を養うことを主たる目的とする。大学での研究活動で英語文献を読んだり、卒業後、動物医療や動物病院の業務で英語を使用したりする際にも、文法と語彙の知識は不可欠であり、文法と語彙が「読む」「聞く」「書く」「話す」という英語の4技能の基盤を成す。この授業の到達目標は、既習の知識を更に拡充させ、大学教養レベルの英語運用能力を習得することである。																																																																		
講義概要	<p>毎回、学習目標とする文法事項と語彙を習得する為に、様々な活動を行う。使用する教材に合わせて、リーディング、リスニング、ライティング及びスピーキングの4技能を組み合わせ、実践的な文法・語彙を習得することを目指す。特に、文中での品詞の役割に注目し、正確な知識に基づいた英語の理解を目指す。また、語彙習得のために、毎回範囲を指定して単語テストを課す。授業では、ペアワークやグループワークが中心になるので、学生諸君の積極的な参加が望まれる。</p>																																																																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス、</td> <td>グループワーク 1、</td> <td>単語テスト 1 (1-120)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>文の種類・文型、</td> <td>グループワーク 2、</td> <td>単語テスト 2 (121-180)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>名詞句、</td> <td>グループワーク 3、</td> <td>単語テスト 3 (181-240)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>名詞節、</td> <td>グループワーク 4、</td> <td>単語テスト 4 (241-300)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>形容詞句、</td> <td>グループワーク 5、</td> <td>単語テスト 5 (301-360)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>形容詞節、</td> <td>グループワーク 6、</td> <td>単語テスト 6 (361-420)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>副詞句、</td> <td>グループワーク 7、</td> <td>単語テスト 7 (421-480)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>副詞節、</td> <td>グループワーク 8、</td> <td>単語テスト 8 (481-540)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>動詞の用法・時制、</td> <td>グループワーク 9、</td> <td>単語テスト 9 (541-600)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>動詞の用法・文型①、</td> <td>グループワーク 10、</td> <td>単語テスト 10 (601-660)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>動詞の用法・文型②、</td> <td>グループワーク 11、</td> <td>単語テスト 11 (661-720)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>動詞の用法・態、</td> <td>グループワーク 12、</td> <td>単語テスト 12 (721-780)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>仮定法、</td> <td>グループワーク 13、</td> <td>単語テスト 13 (781-840)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>倒置・挿入・省略・同格、</td> <td>グループワーク 14、</td> <td>単語テスト 14(841-900)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>レビュー、</td> <td>グループワーク 15、</td> <td>単語テスト 15(901-960)</td> </tr> </table>							1	ガイダンス、	グループワーク 1、	単語テスト 1 (1-120)	2	文の種類・文型、	グループワーク 2、	単語テスト 2 (121-180)	3	名詞句、	グループワーク 3、	単語テスト 3 (181-240)	4	名詞節、	グループワーク 4、	単語テスト 4 (241-300)	5	形容詞句、	グループワーク 5、	単語テスト 5 (301-360)	6	形容詞節、	グループワーク 6、	単語テスト 6 (361-420)	7	副詞句、	グループワーク 7、	単語テスト 7 (421-480)	8	副詞節、	グループワーク 8、	単語テスト 8 (481-540)	9	動詞の用法・時制、	グループワーク 9、	単語テスト 9 (541-600)	10	動詞の用法・文型①、	グループワーク 10、	単語テスト 10 (601-660)	11	動詞の用法・文型②、	グループワーク 11、	単語テスト 11 (661-720)	12	動詞の用法・態、	グループワーク 12、	単語テスト 12 (721-780)	13	仮定法、	グループワーク 13、	単語テスト 13 (781-840)	14	倒置・挿入・省略・同格、	グループワーク 14、	単語テスト 14(841-900)	15	レビュー、	グループワーク 15、	単語テスト 15(901-960)
1	ガイダンス、	グループワーク 1、	単語テスト 1 (1-120)																																																																
2	文の種類・文型、	グループワーク 2、	単語テスト 2 (121-180)																																																																
3	名詞句、	グループワーク 3、	単語テスト 3 (181-240)																																																																
4	名詞節、	グループワーク 4、	単語テスト 4 (241-300)																																																																
5	形容詞句、	グループワーク 5、	単語テスト 5 (301-360)																																																																
6	形容詞節、	グループワーク 6、	単語テスト 6 (361-420)																																																																
7	副詞句、	グループワーク 7、	単語テスト 7 (421-480)																																																																
8	副詞節、	グループワーク 8、	単語テスト 8 (481-540)																																																																
9	動詞の用法・時制、	グループワーク 9、	単語テスト 9 (541-600)																																																																
10	動詞の用法・文型①、	グループワーク 10、	単語テスト 10 (601-660)																																																																
11	動詞の用法・文型②、	グループワーク 11、	単語テスト 11 (661-720)																																																																
12	動詞の用法・態、	グループワーク 12、	単語テスト 12 (721-780)																																																																
13	仮定法、	グループワーク 13、	単語テスト 13 (781-840)																																																																
14	倒置・挿入・省略・同格、	グループワーク 14、	単語テスト 14(841-900)																																																																
15	レビュー、	グループワーク 15、	単語テスト 15(901-960)																																																																
履修上の注意	履修クラスはオリエンテーション時に実施した英語学習傾向試験の結果に基づき決定している。																																																																		
評価方法（評価基準を含む）	授業への参加度（50%）、受講態度（20%）、課題及び小テストの成績（30%）などから総合的に判断する。																																																																		
教科書	特に指定しない。																																																																		
参考書、教材等	適宜印刷教材や視聴覚教材を使用する。																																																																		

授業科目	イングリッシュスキルズ（基礎）G				担当教員	大橋 由紀子	
科目英名	English Skills (Basic) G						
開講期間	1年次 前期	必/選	必修	単位	2	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]
講義目的	リーディング・ストラテジーA このクラスは、読解を中心に学ぶクラスであり、動物に関する記事を理解することをおして、コミュニケーションな英語を運用するための基礎知識を身につけ、さらに、動物に関するトピックを学び、関連語彙および表現を修得することを目標とする。						
講義概要	授業では、グループでの活動やディスカッションも行う。グループ活動では互いに積極的に意見を交換することが期待される。テキストには専門的な語彙が含まれるため、予習が必須である。授業には毎回辞書を持参すること。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス後、テキストの introduction を読む</li> <li>2 'Pet Boom' (読解後、内容確認等解説)</li> <li>3 'Endangered Animals' (読解後、内容確認等解説)</li> <li>4 'Alien Species' (読解後、内容確認等解説)</li> <li>5 'Popular Breeds of Dogs' (読解後、内容確認等解説)</li> <li>6 'Pampered Pets' (内容確認等解説演習、小テスト)</li> <li>7 'The Role of Zoos' (読解、解説後、グループワーク)</li> <li>8 'Animal-Assisted Therapy' (読解、解説後、演習活動)</li> <li>9 'Animal Phobias' (読解、解説後、演習活動)</li> <li>10 'Sick Pets' (解説後、ペアワーク)</li> <li>11 'Cloned Animals' (解説後、ディスカッション)</li> <li>12 'Animal Heros' (解説後、演習)</li> <li>13 'Songs of the Wild' (解説、演習後ペアワーク)</li> <li>14 前回までに学んだ内容の総復習</li> <li>15 復習試験</li> </ol>						
履修上の注意	履修クラスは、オリエンテーション時に実施した学習傾向試験に基づき、決定している。						
評価方法（評価基準を含む）	試験（60%）、授業への参加度（40%）から総合的に評価する。						
教科書	Animal Sense 三修社						
参考書、教材等	教場で指導する。						

授業科目	イングリッシュスキルズ（基礎）H				担当教員	島森 尚子	
科目英名	English Skills ( Basic ) H						
開講期間	1年次 前期	必/選	必修	単位	2	科目区分	教養教育[言語・情報・スポーツ]
講義目的	リーディング・ストラテジーB						
	このクラスでは、コミュニケーションな英語を運用するための基礎知識を確認し、さらに、英語独特の発想や表現を身につけることを目標とする。特に読解力の向上に焦点を絞り、英文をただ訳すのではなく、内容を正確に理解できるような読み方を身につけ、時には辞書以外の参考資料も駆使して英文を読み進めてゆく。英語の文章構成や論旨展開を意識しながら読むことで、将来専門的な英文を読み、書く上での基礎力が身につくはずである。						
講義概要	動物の行動を動物行動学者が分かりやすく解説した文章を読む。教科書の英文は比較的平易であるが、専門的な語彙も少なからず含まれるので、受講生諸君は必ず予習をして授業に臨み、辞書を持参すること。授業への積極的な参加が望まれる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス、‘Animals at Play’1 リスニング</li> <li>2 Animals at Play 2 リスニング、読解、問題演習</li> <li>3 Why Gorillas Beat Their Chests 1 リスニング、読解、ペアワーク</li> <li>4 Why Gorillas Beat Their Chests 2 リスニング、問題演習</li> <li>5 Why Do Birds Sing? 1 リスニング、読解、ペアワーク</li> <li>6 Why Do Birds Sing? 2 リスニング、問題演習</li> <li>7 Dogs Are Our Best Friends 1 リスニング、読解、ペアワーク</li> <li>8 Dogs Are Our Best Friends 2 リスニング、問題演習</li> <li>9 A Program for Socializing Your Pup 1 リスニング、読解、ペアワーク</li> <li>10 A Program for Socializing Your Pup 2 リスニング、問題演習</li> <li>11 Why Do Monkeys Smile?1 リスニング、読解、ペアワーク</li> <li>12 Why Do Monkeys Smile?2 リスニング、問題演習</li> <li>13 How Adaptable Are Chimpanzees?1 リスニング、読解、ペアワーク</li> <li>14 How Adaptable Are Chimpanzees?2 リスニング、問題演習</li> <li>15 Review まとめと復習、試験と解説</li> </ol>						
履修上の注意	履修クラスはオリエンテーション時に実施した英語学習傾向試験の結果により決定している。必ず予習をして授業に臨み、毎回辞書を持参すること。						
評価方法（評価基準を含む）	平常点（発表、発言など授業参加）を40%、試験点数を60%として総合的に評価する。						
教科書	『アニマル・ウォッチング』南雲堂。						
参考書、教材等	教場で指示する。						



授業科目	イングリッシュスキルズ（応用）A				担当教員	島森 尚子	
科目英名	English Skills (Applied) A						
開講期間	1年次 後期	必/選	必修	単位	2	科目区分	教養教育[言語・情報・スポーツ]
講義目的	動物看護師のための基礎英語 A 前期（基礎）クラスで学んだ知識に基づき、より複雑な英文を理解し、更には、実用的な英作文や動物病院での英語での応対などができるようになる。						
講義概要	前期に引き続き統語論を中心に学ぶが、後期は英語独特の文構造に重点を置き、読解の教材で実際の用法も学ぶ。加えて、動物看護師にとって必要となる英語表現を3回に分けて学ぶ。前期同様、毎回の予習と復習が必須であるが、後期にはかなり高度な内容が含まれるので、前期に学んだ事項を含め、予習だけでなく復習にも十分な時間を割くことが重要になる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス、前期（基礎）の復習、‘Introduction’ 読解</li> <li>2 動詞の相：進行相と完了相 解説と問題演習、‘Animal Shapes’ リスニング、読解と問題演習</li> <li>3 態：受動態と能動態 解説と問題演習、‘Wild Animals’ リスニング、読解と問題演習</li> <li>4 動物看護英語 1 語彙と表現の修得、ペアワーク Quiz 1</li> <li>5 接続詞 1 等位接続詞 解説と問題演習、‘People and Pets’ リスニング、読解と問題演習</li> <li>6 接続詞 2 従属接続詞 解説と問題演習、‘Animals Outside’ リスニング、読解と問題演習</li> <li>7 関係詞 解説と問題演習、‘Animals in Books’ リスニング、読解と問題演習</li> <li>8 動物看護英語 2 語彙と表現の修得、ペアワーク</li> <li>9 比較の表現 解説と問題演習、Quiz 2</li> <li>10 法：直説法と仮定法 解説と問題演習、‘Animal Symbols’ リスニング、読解と問題演習</li> <li>11 準動詞 1 動名詞 解説と問題演習、‘Different Animals’ リスニング、読解と問題演習</li> <li>12 準動詞 2 不定詞 解説と問題演習、‘Teapots and Toys’ リスニング、読解と問題演習</li> <li>13 準動詞 3 分詞 解説と問題演習、‘Dragons and Unicorns’ リスニング、読解と問題演習</li> <li>14 動物看護英語 3 語彙と表現の修得、ペアワーク Quiz 3</li> <li>15 総まとめ、試験と解説</li> </ol>						
履修上の注意	前期の成績に応じてクラスの変更が生じる場合がある。また、条件が整っている者は変更希望も受け付ける。詳細はガイダンス時に説明するので、ガイダンスには必ず出席すること。毎回必ず予習をして出席すること。使い慣れた辞書を必ず持参すること。						
評価方法（評価基準を含む）	授業への参加度 30%、Quiz 30%、試験 40%として計算する。						
教科書	<i>Animals in Art</i> . Oxford Read and Discover series, OUP.						
参考書、教材等	教場にて指示、あるいは配付する。						

授業科目	イングリッシュスキルズ（応用）B				担当教員	大橋 由紀子	
科目英名	English Skills (Applied) B						
開講期間	1年次 後期	必/選	必修	単位	2	科目区分	教養教育[言語・情報・スポーツ]
講義目的	動物看護師のための基礎英語 B						
	この授業では英文を読み、頻出する英文法、および単語を解説しながら、文構造を理解することを目指す。また、動物看護の現場で役立つ表現を学び、それを応用して自ら文章化できるよう演習する。最終的には文献を一人で読み進めることができるようになるよう、自ら考え、習得した知識から応用力をつけていくことが目的である。						
講義概要	この授業では、英文解釈だけではなく、身につけた英語の知識を自ら発信できるようにする。グループ活動による意見交換なども行う。「イングリッシュスキルズ（基礎）」で身につけた文法・語彙・読解力の知識や実力を基に、動物看護師の仕事について書かれた洋書から抜粋した英文を読み、グループワーク等を行う。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス（後期授業について、および前期の復習）</li> <li>2 ‘Professional appearance of AHT’ を読み内容を理解する</li> <li>3 ‘Common procedures’ を読み、内容を理解する</li> <li>4 ‘Common procedures’ を読み、内容を理解する</li> <li>5 ‘Common procedures’ を読み、内容を理解する</li> <li>6 英文解釈 1 一般的な内容の記事を読み、英文の構造を解説する</li> <li>7 英文解釈 2 記事を読み、内容を解説する（ディスカッションを含む）</li> <li>8 最新の英文記事 1 最新の動物に関する記事を英文で読み、内容を理解する</li> <li>9 最新の英文記事 2 最新の動物に関する記事を英文で読み、内容を理解する</li> <li>10 英文読解 1 英語で書かれた論文要旨を読み、解説する</li> <li>11 英文読解 2 英語で書かれた論文要旨を読み、解説する（グループ活動を含む）</li> <li>12 動物看護英語 1（語彙と表現の修得、ペアワーク、quiz 1）</li> <li>13 動物看護英語 2（語彙と表現の修得、ペアワーク、quiz 2）</li> <li>14 動物看護英語 3（ディスカッションおよびプレゼンテーション、quiz 3）</li> <li>15 総復習とテスト</li> </ol>						
履修上の注意	前期の成績に応じてクラスの変更が生じる場合がある。また、条件が整っている者は変更希望も受け付ける。詳細はガイダンス時に説明するので、ガイダンスには必ず出席すること。						
評価方法（評価基準を含む）	試験（60%）、授業への参加度（40%）から総合的に評価する。						
教科書	指定なし						
参考書、教材等	教場で指導する。						

授業科目	イングリッシュスキルズ（応用）C					担当教員	大橋 由紀子
科目英名	English Skills (Applied) C						
開講期間	1年次 後期	必/選	必修	単位	2	科目区分	教養教育[言語・情報・スポーツ]
講義目的	スキルアップ・リーディング A						
<p>この授業では、「イングリッシュスキルズ（基礎）」で学んだ基本的な文法、語彙を応用し、それらを用いた英文が正確に読めるようになることを目標とする。英文の中で頻出する英文法や単語の復習を行いながら、最終的には一人で内容の理解ができるよう、英文の読み方の基礎を習得する。</p>							
講義概要	<p>この授業では、様々な分野の英文に慣れるために、簡単な英文から動物関連の記事を含む難易度の高い英文まで幅広く取り扱う。授業には毎回辞書を持参し、積極的な参加が望まれる。</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス（後期授業について、および前期の復習）</li> <li>2 文章の構成1（英文構成の種類を紹介し、読み方を理解する。）</li> <li>3 動物看護英語1（語彙と表現の修得、ペアワーク、quiz 1）</li> <li>4 動物看護英語2（語彙と表現の修得、ペアワーク、quiz 2）</li> <li>5 動物看護英語3（ディスカッションおよびプレゼンテーション、quiz 3）</li> <li>6 英文記事の理解1 ‘GM foods’（グループワーク）</li> <li>7 英文記事の理解2 ‘DHA and health’（グループワーク）</li> <li>8 英文記事の理解3 ‘Endangered species’（ペアワーク）</li> <li>9 英文記事の理解4 ‘Wild animals’（ペアワーク）</li> <li>10 英文記事の理解5 ‘Dog training’（ディスカッション）</li> <li>11 英文読解1（英文作成基礎。表現、構成を学ぶ。）</li> <li>12 英文読解2（英文作成応用。表現力を磨く。）</li> <li>13 英文読解3（英文記事を読み、その内容について要約し、感想を英語で書く。）</li> <li>14 英文読解4（動物看護に関する簡単な論文要旨を読む。）</li> <li>15 総復習（小テストを行う）</li> </ol>						
履修上の注意	<p>進度に従い、小テストなども行う予定である。 前期の成績に応じてクラスの変更が生じる場合がある。また、条件が整っている者は、変更希望も受け付ける。詳細はガイダンス時に説明するので、ガイダンスには必ず出席すること。</p>						
評価方法（評価基準を含む）	<p>試験（60%）、授業への参加度（40%）から総合的に評価する。</p>						
教科書	<p>指定なし</p>						
参考書、教材等	<p>教場で指導する。</p>						

授業科目	イングリッシュスキルズ（応用）D					担当教員	大橋 由紀子
科目英名	English Skills (Applied) D						
開講期間	1年次 後期	必/選	必修	単位	2	科目区分	教養教育[言語・情報・スポーツ]
講義目的	スキルアップ・リーディング B						
	この授業では、「イングリッシュスキルズ（基礎）」で学んだ基本的な文法、語彙を応用し、それらを用いた英文が正確に読めるようになることを目標とする。英文の中で頻出する英文法や単語の復習を行いながら、最終的には一人で内容の理解ができるよう、英文の読み方の基礎を習得する。						
講義概要	この授業では、様々な分野の英文に慣れるために、簡単な英文から動物関連の記事を含む難易度の高い英文まで幅広く取り扱う。授業には毎回辞書を持参し、積極的な参加が望まれる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス（後期授業について、および前期の復習）</li> <li>2 文章の構成1（英文構成の種類を紹介し、読み方を理解する。）</li> <li>3 動物看護英語1（語彙と表現の修得、ペアワーク、quiz 1）</li> <li>4 動物看護英語2（語彙と表現の修得、ペアワーク、quiz 2）</li> <li>5 動物看護英語3（ディスカッションおよびプレゼンテーション、quiz 3）</li> <li>6 英文記事の理解1 ‘GM foods’（グループワーク）</li> <li>7 英文記事の理解2 ‘DHA and health’（グループワーク）</li> <li>8 英文記事の理解3 ‘Endangered species’（ペアワーク）</li> <li>9 英文記事の理解4 ‘Wild animals’（ペアワーク）</li> <li>10 英文記事の理解5 ‘Dog training’（ディスカッション）</li> <li>11 英文読解1（英文作成基礎。表現、構成を学ぶ。）</li> <li>12 英文読解2（英文作成応用。表現力を磨く。）</li> <li>13 英文読解3（英文記事を読み、その内容について要約し、感想を英語で書く。）</li> <li>14 英文読解4（動物看護に関する簡単な論文要旨を読む。）</li> <li>15 総復習（小テストを行う）</li> </ol>						
履修上の注意	<p>進度に従い、小テストなども行う予定である。</p> <p>前期の成績に応じてクラスの変更が生じる場合がある。また、条件が整っている者は、変更希望も受け付ける。詳細はガイダンス時に説明するので、ガイダンスには必ず出席すること。</p>						
評価方法（評価基準を含む）	試験（60%）、授業への参加度（40%）から総合的に評価する。						
教科書	指定なし						
参考書、教材等	教場で指導する。						

授業科目	イングリッシュスキルズ（応用） E					担当教員	加藤 剛																																																																																																																								
科目英名	English Skills (Applied) E																																																																																																																														
開講期間	1年次 後期	必/選	必修	単位	2	科目区分	教養教育[言語・情報・スポーツ]																																																																																																																								
講義目的	スキルアップ・リーディング C																																																																																																																														
	<p>様々な分野に渉る英文を読み、英語による学術論文を読むための基礎力を養うことを主たる目的とする。英文の読解力を身につけることは、大学での研究活動を成功させるために必須である。課題であれ自学自習であれ、今後、英語で書かれた文献を読む機会が多くあるはずである。その際に運用できる大学教養レベルの読解の技能と語彙を習得することを目指す。また、前期に学習した文法事項も必要に応じて適宜復習するとともに、動物看護の分野で必要な英語の技能の習得も到達目標とする。</p>																																																																																																																														
講義概要	<p>英語の読解力を習得するために、主に4つの活動を行う。1. Comprehension Skills(読解のための様々な技能習得)、2. Vocabulary Building(語彙習得)、3. Reading Faster(速読)、4. Extensive Reading(授業外の英文読書)、以上の活動を毎回組み合わせて授業を進めて行く。前期と同様に、ペアワークやグループワークをして行くので、学生諸君の積極的な参加が望まれる。</p>																																																																																																																														
授業計画	<table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>単語テスト 961-1020、</td> <td>速読練習</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>精読と速読、</td> <td>単語テスト 1021-1080、</td> <td>速読練習、</td> <td>読書レポート</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>未知単語の処理法、</td> <td>単語テスト 1081-1140、</td> <td>速読練習、</td> <td>読書レポート</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>段落の主題の発見、</td> <td>単語テスト 1141-1200、</td> <td>速読練習、</td> <td>読書レポート</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>プレビューの方法、</td> <td>単語テスト 1201-1260、</td> <td>速読練習、</td> <td>読書レポート</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>構成の理解 1、</td> <td>単語テスト 1261-1320、</td> <td>速読練習、</td> <td>読書レポート</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>構成の理解 2、</td> <td>単語テスト 1321-1380、</td> <td>速読練習、</td> <td>読書レポート</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>構成の理解 3、</td> <td>単語テスト 1381-1440、</td> <td>速読練習、</td> <td>読書レポート</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>構成の理解 4、</td> <td>単語テスト 1441-1500、</td> <td>速読練習、</td> <td>読書レポート</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>スキミングの方法、</td> <td>単語テスト 1501-1560、</td> <td>速読練習、</td> <td>読書レポート</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>スキミングの方法、</td> <td>単語テスト 1561-1620、</td> <td>速読練習、</td> <td>読書レポート</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>総合演習、</td> <td>単語テスト 1621-1680、</td> <td>速読練習、</td> <td>読書レポート</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>動物看護英語 1、</td> <td>単語テスト 1681-1740、</td> <td>速読練習、</td> <td>読書レポート</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>動物看護英語 2、</td> <td>単語テスト 1741-1800、</td> <td>速読練習、</td> <td>読書レポート</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>動物看護英語 3</td> <td>単語テスト 1801-1860、</td> <td>速読練習、</td> <td>読書レポート</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>							1	ガイダンス	単語テスト 961-1020、	速読練習					2	精読と速読、	単語テスト 1021-1080、	速読練習、	読書レポート				3	未知単語の処理法、	単語テスト 1081-1140、	速読練習、	読書レポート				4	段落の主題の発見、	単語テスト 1141-1200、	速読練習、	読書レポート				5	プレビューの方法、	単語テスト 1201-1260、	速読練習、	読書レポート				6	構成の理解 1、	単語テスト 1261-1320、	速読練習、	読書レポート				7	構成の理解 2、	単語テスト 1321-1380、	速読練習、	読書レポート				8	構成の理解 3、	単語テスト 1381-1440、	速読練習、	読書レポート				9	構成の理解 4、	単語テスト 1441-1500、	速読練習、	読書レポート				10	スキミングの方法、	単語テスト 1501-1560、	速読練習、	読書レポート				11	スキミングの方法、	単語テスト 1561-1620、	速読練習、	読書レポート				12	総合演習、	単語テスト 1621-1680、	速読練習、	読書レポート				13	動物看護英語 1、	単語テスト 1681-1740、	速読練習、	読書レポート				14	動物看護英語 2、	単語テスト 1741-1800、	速読練習、	読書レポート				15	動物看護英語 3	単語テスト 1801-1860、	速読練習、	読書レポート			
1	ガイダンス	単語テスト 961-1020、	速読練習																																																																																																																												
2	精読と速読、	単語テスト 1021-1080、	速読練習、	読書レポート																																																																																																																											
3	未知単語の処理法、	単語テスト 1081-1140、	速読練習、	読書レポート																																																																																																																											
4	段落の主題の発見、	単語テスト 1141-1200、	速読練習、	読書レポート																																																																																																																											
5	プレビューの方法、	単語テスト 1201-1260、	速読練習、	読書レポート																																																																																																																											
6	構成の理解 1、	単語テスト 1261-1320、	速読練習、	読書レポート																																																																																																																											
7	構成の理解 2、	単語テスト 1321-1380、	速読練習、	読書レポート																																																																																																																											
8	構成の理解 3、	単語テスト 1381-1440、	速読練習、	読書レポート																																																																																																																											
9	構成の理解 4、	単語テスト 1441-1500、	速読練習、	読書レポート																																																																																																																											
10	スキミングの方法、	単語テスト 1501-1560、	速読練習、	読書レポート																																																																																																																											
11	スキミングの方法、	単語テスト 1561-1620、	速読練習、	読書レポート																																																																																																																											
12	総合演習、	単語テスト 1621-1680、	速読練習、	読書レポート																																																																																																																											
13	動物看護英語 1、	単語テスト 1681-1740、	速読練習、	読書レポート																																																																																																																											
14	動物看護英語 2、	単語テスト 1741-1800、	速読練習、	読書レポート																																																																																																																											
15	動物看護英語 3	単語テスト 1801-1860、	速読練習、	読書レポート																																																																																																																											
履修上の注意	<p>前期の成績に応じてクラスの変更が生じる場合がある。また、条件を満たす者については変更希望も受け付ける。詳細はガイダンスで説明するので、ガイダンスには必ず出席すること。</p>																																																																																																																														
評価方法（評価基準を含む）	<p>授業への参加度（50%）、授業態度（20%）、課題及び小テストの成績（30%）などから総合的に判断する。</p>																																																																																																																														
教科書	<p>使用しない</p>																																																																																																																														
参考書、教材等	<p>Graded Readers (Oxford, MACMILLAN, Cambridge, Penguin) 使い方については教場で指示する。</p>																																																																																																																														

授業科目	イングリッシュスキルズ（応用） F				担当教員	加藤 剛																																																																																																																									
科目英名	English Skills (Applied) F																																																																																																																														
開講期間	1年次 後期	必/選	必修	単位	2	科目区分	教養教育[言語・情報・スポーツ]																																																																																																																								
講義目的	スキルアップ・リーディング D																																																																																																																														
	<p>様々な分野に渉る英文を読み、英語による学術論文を読むための基礎力を養うことを主たる目的とする。英文の読解力を身につけることは、大学での研究活動を成功させるために必須である。課題であれ自学自習であれ、今後、英語で書かれた文献を読む機会が多くあるはずである。その際に運用できる大学教養レベルの読解の技能と語彙を習得することを目指す。また、前期に学習した文法事項も必要に応じて適宜復習するとともに、動物看護の分野で必要な英語の技能の習得も到達目標とする。</p>																																																																																																																														
講義概要	<p>英語の読解力を習得するために、主に4つの活動を行う。1. Comprehension Skills(読解のための様々な技能習得)、2. Vocabulary Building(語彙習得)、3. Reading Faster(速読)、4. Extensive Reading(授業外の英文読書)、以上の活動を毎回組み合わせて授業を進めて行く。前期と同様に、ペアワークやグループワークをして行くので、学生諸君の積極的な参加が望まれる。</p>																																																																																																																														
授業計画	<table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>単語テスト 961-1020、</td> <td>速読練習</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>精読と速読、</td> <td>単語テスト 1021-1080、</td> <td>速読練習、</td> <td>読書レポート</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>未知単語の処理法、</td> <td>単語テスト 1081-1140、</td> <td>速読練習、</td> <td>読書レポート</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>段落の主題の発見、</td> <td>単語テスト 1141-1200、</td> <td>速読練習、</td> <td>読書レポート</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>プレビューの方法、</td> <td>単語テスト 1201-1260、</td> <td>速読練習、</td> <td>読書レポート</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>構成の理解 1、</td> <td>単語テスト 1261-1320、</td> <td>速読練習、</td> <td>読書レポート</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>構成の理解 2、</td> <td>単語テスト 1321-1380、</td> <td>速読練習、</td> <td>読書レポート</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>構成の理解 3、</td> <td>単語テスト 1381-1440、</td> <td>速読練習、</td> <td>読書レポート</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>構成の理解 4、</td> <td>単語テスト 1441-1500、</td> <td>速読練習、</td> <td>読書レポート</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>スキミングの方法、</td> <td>単語テスト 1501-1560、</td> <td>速読練習、</td> <td>読書レポート</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>スキミングの方法、</td> <td>単語テスト 1561-1620、</td> <td>速読練習、</td> <td>読書レポート</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>総合演習、</td> <td>単語テスト 1621-1680、</td> <td>速読練習、</td> <td>読書レポート</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>動物看護英語 1、</td> <td>単語テスト 1681-1740、</td> <td>速読練習、</td> <td>読書レポート</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>動物看護英語 2、</td> <td>単語テスト 1741-1800、</td> <td>速読練習、</td> <td>読書レポート</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>動物看護英語 3</td> <td>単語テスト 1801-1860、</td> <td>速読練習、</td> <td>読書レポート</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>							1	ガイダンス	単語テスト 961-1020、	速読練習					2	精読と速読、	単語テスト 1021-1080、	速読練習、	読書レポート				3	未知単語の処理法、	単語テスト 1081-1140、	速読練習、	読書レポート				4	段落の主題の発見、	単語テスト 1141-1200、	速読練習、	読書レポート				5	プレビューの方法、	単語テスト 1201-1260、	速読練習、	読書レポート				6	構成の理解 1、	単語テスト 1261-1320、	速読練習、	読書レポート				7	構成の理解 2、	単語テスト 1321-1380、	速読練習、	読書レポート				8	構成の理解 3、	単語テスト 1381-1440、	速読練習、	読書レポート				9	構成の理解 4、	単語テスト 1441-1500、	速読練習、	読書レポート				10	スキミングの方法、	単語テスト 1501-1560、	速読練習、	読書レポート				11	スキミングの方法、	単語テスト 1561-1620、	速読練習、	読書レポート				12	総合演習、	単語テスト 1621-1680、	速読練習、	読書レポート				13	動物看護英語 1、	単語テスト 1681-1740、	速読練習、	読書レポート				14	動物看護英語 2、	単語テスト 1741-1800、	速読練習、	読書レポート				15	動物看護英語 3	単語テスト 1801-1860、	速読練習、	読書レポート			
1	ガイダンス	単語テスト 961-1020、	速読練習																																																																																																																												
2	精読と速読、	単語テスト 1021-1080、	速読練習、	読書レポート																																																																																																																											
3	未知単語の処理法、	単語テスト 1081-1140、	速読練習、	読書レポート																																																																																																																											
4	段落の主題の発見、	単語テスト 1141-1200、	速読練習、	読書レポート																																																																																																																											
5	プレビューの方法、	単語テスト 1201-1260、	速読練習、	読書レポート																																																																																																																											
6	構成の理解 1、	単語テスト 1261-1320、	速読練習、	読書レポート																																																																																																																											
7	構成の理解 2、	単語テスト 1321-1380、	速読練習、	読書レポート																																																																																																																											
8	構成の理解 3、	単語テスト 1381-1440、	速読練習、	読書レポート																																																																																																																											
9	構成の理解 4、	単語テスト 1441-1500、	速読練習、	読書レポート																																																																																																																											
10	スキミングの方法、	単語テスト 1501-1560、	速読練習、	読書レポート																																																																																																																											
11	スキミングの方法、	単語テスト 1561-1620、	速読練習、	読書レポート																																																																																																																											
12	総合演習、	単語テスト 1621-1680、	速読練習、	読書レポート																																																																																																																											
13	動物看護英語 1、	単語テスト 1681-1740、	速読練習、	読書レポート																																																																																																																											
14	動物看護英語 2、	単語テスト 1741-1800、	速読練習、	読書レポート																																																																																																																											
15	動物看護英語 3	単語テスト 1801-1860、	速読練習、	読書レポート																																																																																																																											
履修上の注意	<p>前期の成績に応じてクラスの変更が生じる場合がある。また、条件を満たす者については変更希望も受け付ける。詳細はガイダンスで説明するので、ガイダンスには必ず出席すること。</p>																																																																																																																														
評価方法（評価基準を含む）	<p>授業への参加度（50%）、授業態度（20%）、課題及び小テストの成績（30%）などから総合的に判断する。</p>																																																																																																																														
教科書	<p>使用しない</p>																																																																																																																														
参考書、教材等	<p>Graded Readers (Oxford, MACMILLAN, Cambridge, Penguin) 使い方については教場で指示する。</p>																																																																																																																														

授業科目	イングリッシュスキルズ（応用）G				担当教員	大橋 由紀子	
科目英名	English Skills (Applied) G						
開講期間	1年次 後期	必/選	必修	単位	2	科目区分	教養教育[言語・情報・スポーツ]
講義目的	映像で学ぶ動物看護英語 この授業では前期に学んだ文法事項に基づき、動物に関するDVDをみながら、リスニングおよびディクテーション等の作業を通して、生の英語に触れ、英語のまま内容を理解することを目標とする。更に、動物看護の現場で役立つ表現を学び、それを応用して自ら文章化できるようにする。						
講義概要	毎回1シーン（10分程度）の映像を見て、各シーンに関連した英語表現を学ぶ。ペアによる活動や、グループディスカッションを含むため、積極的に発言することが望まれる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス（後期授業について、および前期の復習）</li> <li>2 野生動物の生活1 'Viverridae'（解説後、グループワーク）</li> <li>3 野生動物の生活2 'Wild birds'（解説後、グループワーク）</li> <li>4 海洋生物1 'Deep-water fish'（解説後、ディスカッション）</li> <li>5 海洋生物2 'Creature in the sea and undersea life'（ディスカッションを行う）</li> <li>6 昆虫 'Aquatic insects'（解説後、グループワーク）</li> <li>7 環境 'The earth'（解説後、グループワーク）</li> <li>8 環境 'The climate'（ディスカッションを行う）</li> <li>9 自然環境 'nature habitat'（解説後、小テスト）</li> <li>10 生活 'Food science'（解説後、演習）</li> <li>11 生活 'Health'（グループワーク）</li> <li>12 生活 'Medical science'（解説後、小テスト）</li> <li>13 動物看護英語1（単語、表現等解説）</li> <li>14 動物看護英語2（演習）</li> <li>15 動物看護英語2（ディスカッションおよびプレゼンテーション）</li> </ol>						
履修上の注意	<p>進度に従い、小テストなどを行う予定である。</p> <p>前期の成績に応じてクラスの変更が生じる場合がある。また、条件が整っている者は変更希望も受け付ける。詳細はガイダンス時に説明するので、ガイダンスには必ず出席すること。</p>						
評価方法（評価基準を含む）	試験（60%）、授業への参加度（40%）から総合的に評価する。						
教科書	指定なし						
参考書、教材等	教場で指導する。						

授業科目	イングリッシュスキルズ（応用）H				担当教員	島森 尚子	
科目英名	English Skills (Applied) H						
開講期間	1年次 後期	必/選	必修	単位	2	科目区分	教養教育[言語・情報・スポーツ]
講義目的	スキルアップリーディング E: インターネットで学ぶ時事英語 「イングリッシュスキルズ（基礎）」で身につけた知識を基に、実践的な語学力を養うことを目的とする。このクラスでは特に時事的な英文を読み、早く正確な読解力を身につけられるよう訓練する。教材はインターネットのニュースサイト記事などからできるだけ新しいものを選ぶので、インターネット社会で必要とされる語学力を磨くことができるだろう。英語の資格試験の準備にも対応している。						
講義概要	インターネットのニュースサイトから厳選した、動物、文化、社会などの話題に関する時事的な英文を読む。教材は、初回を除き、学生諸君に自らダウンロードしてもらうことになる。リライトされた記事から始めて、最終的には一般記事を読むが、時には音声教材も使い、できるだけ日本語を解さずに生の英語を理解することを目標に指導する。学生諸君にはどしどし発表をしてもらうことになる。 また、2回に分けて、動物看護に関する語彙や表現を学ぶ時間を作る。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス、英語学習用サイトの利用法・時事英語の基礎</li> <li>2 リライトされた記事を読む 1 リスニング、内容理解、問題演習</li> <li>3 リライトされた記事を読む 2 リスニング、内容理解、問題演習</li> <li>4 リライトされた記事を読む 3 リスニング、内容理解、問題演習</li> <li>5 リライトされた記事を読む 4 リスニング、内容理解、問題演習</li> <li>6 動物看護英語 1 ペアワーク、練習問題</li> <li>7 海外テレビ局の報道記事を読む 1 リスニング、内容理解、問題演習</li> <li>8 海外テレビ局の報道記事を読む 2 リスニング、内容理解、問題演習</li> <li>9 海外テレビ局の報道記事を読む 3 リスニング、内容理解、問題演習</li> <li>10 英字新聞の記事を読む 1 読解、要約</li> <li>11 英字新聞の記事を読む 2 読解、要約</li> <li>12 英字新聞の記事を読む 3 読解、要約</li> <li>13 動物看護英語 2 ペアワーク、練習問題</li> <li>14 専門的文章に挑戦する 読解、要約</li> <li>15 Review まとめと復習、試験と解説</li> </ol>						
履修上の注意	前期の成績に応じてクラスの変更が生じる場合がある。また、条件が整っている者は変更希望も受け付ける。詳細はガイダンス時に説明するので、ガイダンスには必ず出席すること。毎回必ず予習をして出席すること。使い慣れた辞書を必ず持参すること。						
評価方法（評価基準を含む）	平常点（発表、発言など授業参加）を40%、試験点数を60%として総合的に評価する。						
教科書	なし						
参考書、教材等	教場で指示する。						



授業科目	フランス語入門				担当教員	米金 孝雄・白川 理恵	
科目英名	French Basic Course						
開講期間	1年次 後期	必/選	選択	単位	2	科目区分	教養教育[言語・情報・スポーツ]
<b>講義目的</b>							
基礎的なフランス語能力(「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」)の修得を目指すと共にフランス文化を理解する。							
<b>講義概要</b>							
発音練習を繰り返し、「フランス語特有の音」に慣れ親しむ。また、「語彙」や「文法」の基礎的知識を学び、文の構造を理解する。さらに、「フランス語の表現・成句」を通して、様々なシチュエーションを想定した実践的なフランス語運用能力を身につける。 時に、フランス文化(歌、映画、など)を紹介し、西洋文化の中心であるフランスの「エッセンス」(essence)にも触れる。							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 はじめに・フランス語の音の特性(アルファベ、アクサン記号、リエゾン・エリジオン)</li> <li>2 名詞の性と数 ・ 冠詞</li> <li>3 主語人称代名詞・être 動詞、avoir 動詞・提示の表現</li> <li>4 否定形・形容詞</li> <li>5 フランス文化①</li> <li>6 -er 動詞直説法現在・疑問形・疑問文に対する答え</li> <li>7 指示形容詞・疑問形容詞・所有形容詞</li> <li>8 aller 動詞、venir 動詞の直説法現在・近接未来と近接過去・前置詞と定冠詞の縮約</li> <li>9 finir, partir の直説法現在、疑問代名詞・疑問副詞</li> <li>10 フランス文化②</li> <li>11 voir, dire, entendre の直説法現在・形容詞、副詞の比較級と最上級①</li> <li>12 形容詞、副詞の比較級と最上級②、faire, prendre の直説法現在</li> <li>13 命令形・非人称構文</li> <li>14 直接目的語人称代名詞・間接目的語人称代名詞・人称代名詞強勢形</li> <li>15 フランス文化③・まとめ</li> </ol>							
<b>履修上の注意</b>							
遅刻・欠席は評価に響くので十分注意すること 予習・復習を怠らないこと 「仏和辞典」を購入すること							
<b>評価方法 (評価基準を含む)</b>							
定期試験 (40%)・授業への参加度 (50%)、小テスト・レポート (10%) で評価を行う。							
<b>教科書</b>							
「パスカル・オ・ジャポン」白水社 藤田裕二							
<b>参考書、教材等</b>							
仏和辞典：Casio EX-word(電子辞書)、ロイヤル仏和中辞典(旺文社)、クワン仏和辞典(三省堂)、身につく仏和・和仏辞典(三省堂)、など (その他、授業中に適宜指示する)							

授業科目	情報リテラシ（基礎）					担当教員	岡 勝巖
科目英名	Information Literacy(Basic)						
開講期間	1年次 前期	必/選	必修	単位	1	科目区分	教養教育[言語・情報・スポーツ]
<b>講義目的</b>							
<p>高度情報化社会である現代社会ではPCやネットワークの利用は「読み、書き、算盤」と同程度に重要である。しかし利用方法によっては他人や自分自身を傷つけたり損害を与えたりすることもある。本講義ではネットワークマナーや情報セキュリティの視点からPC・ネットワークについて実践的に取り扱い、倫理観を涵養していく。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>動物看護師として高度情報化社会を生き抜くために、PC・ネットワークを利用する際に必要な倫理観の涵養やマナー習得を重視した講義を行っていく。また情報セキュリティの重要性についても取り扱っていく。講義の一環として行う実習ではワープロソフト（Word）、スプレッドシートソフト（Excel）などについて取り扱う。なお、到達度確認のためのCBT（Computer Based Testing）を随時実施する。</p>							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 コンピュータの構造とOS、ファイル、記憶媒体</li> <li>2 インターネットの概要</li> <li>3 電子メールの使い方とマナー、および送受信</li> <li>4 ネットワーク、ネットワーク上でのトラブル、著作権</li> <li>5 インターネットのまとめ</li> <li>6 文書作成のための心構えと情報収集</li> <li>7 文書作成のための情報分析</li> <li>8 文書作成実習</li> <li>9 Wordのまとめと課題提出</li> <li>10 表計算の基本</li> <li>11 統計学の基礎と関数</li> <li>12 グラフの種類と利用方法</li> <li>13 統計処理・分析</li> <li>14 文書とグラフの効果的な組み合わせ</li> <li>15 Excelのまとめと課題提出</li> </ol>							
<b>履修上の注意</b>							
<p>中学・高校での情報の授業を徹底的に復習し、PCの使い方等を予め体得しておくこと。そのためには自宅や講義時間外のコンピュータ教室で毎日積極的にPCを使うことが必須となる。また、CBTは範囲指定せずに予告なく実施するので、講義内容を次回までに必ず復習すること。なお、講義に欠席、遅刻等をした学生には補講課題を課す。</p>							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
<p>CBTの結果(50%)に提出課題(25%)、授業への参加度・受講態度(25%)を加味して総合的に評価する。</p>							
<b>教科書</b>							
サーバにあるe-learning教材							
<b>参考書、教材等</b>							
講義中に適宜紹介する。							

授業科目	情報リテラシ（応用）					担当教員	岡 勝巖
科目英名	Information Literacy(Applied)						
開講期間	1年次 後期	必/選	必修	単位	1	科目区分	教養教育[言語・情報・スポーツ]
<b>講義目的</b>							
<p>高度情報化社会である現代社会では PC やネットワークの利用は「読み、書き、算盤」と同程度に重要である。特に情報発信や情報処理の必要性が高まってきている。本講義ではネットワークマナーや情報セキュリティの視点から情報発信や情報処理について実践的に取り扱い、倫理観を涵養していく。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>「情報リテラシ基礎」で取り扱った事項を踏まえて、動物看護師に必要な PC・インターネットを活用した情報発信や情報処理に必要な概念、倫理観、セキュリティ等に関する講義を行う。講義の中でプレゼンテーションを行い、情報発信の方法・手順を理解させる。またデータベースの概念やデータの取扱方について、動物看護の視点からの講義も行う。講義の一環として行う実習では、PowerPoint、Access の操作、および Web ページ作成などを行う。なお、到達度確認のための CBT を随時実施する。</p>							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 プレゼンテーションの基本</li> <li>2 プレゼンテーション技法</li> <li>3 プレゼンテーション内容の検討</li> <li>4 プレゼンテーションスライドと原稿の準備</li> <li>5 プレゼンテーション (1)</li> <li>6 プレゼンテーション (2)</li> <li>7 プレゼンテーションのまとめと課題提出</li> <li>8 データベースの基本</li> <li>9 データベースの実装と操作</li> <li>10 リレーショナルデータベース、データベースのまとめと課題提出</li> <li>11 動物看護師に必要な情報管理</li> <li>12 Web ページ作成の基本、HTML タグ</li> <li>13 サーバの種類と役割</li> <li>14 Web ページ作成</li> <li>15 情報リテラシの総まとめと課題提出</li> </ol>							
<b>履修上の注意</b>							
<p>中学・高校での情報の授業を徹底的に復習し、PC の使い方等を予め体得しておくこと。そのためには自宅や講義時間外のコンピュータ教室で毎日積極的に PC を使うことが必須となる。また、CBT は範囲指定せずに予告なく実施するので、講義内容を次回までに必ず復習すること。なお、講義に欠席、遅刻等をした学生には補講課題を課す。</p>							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
<p>CBT の結果(50%)に提出課題(25%)、授業への参加度・受講態度(25%)を加味して総合的に評価する。</p>							
<b>教科書</b>							
サーバにある e-learning 教材							
<b>参考書、教材等</b>							
講義中に適宜紹介する。							

授業科目	文章作法入門					担当教員	赤羽根 和恵
科目英名	Introduction to Literary Style						
開講期間	2年次 前期	必/選	選択	単位	2	科目区分	教養教育 [言語・情報・スポーツ]
<b>講義目的</b>							
<p>大学での学習・研究に必要なレポートと論文の作成方法を修得することが目的である。レポートを書く上でのルールと、他者に伝わる客観的な文章を作成するために必要な知識を学び、論理的な文章作成の作法を身に付ける。受講生は、ワークシートおよび課題文に取り組み、文章を書く訓練をする。他者に伝わる文章を書くことを目標にグループワークを実施し意見交換を行い、人に理解してもらう文章とはどのようなものかを実感し、修得できるようにする。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>本講義では、教員による文章作成の基本・基礎的知識などの説明をもとに、受講生自身の積極的な課題への取り組みを通じ、文章表現力の向上を目指す。動物看護師としての手紙・掲示・案内表の書き方、レポート、論文、手紙など目的に応じた作法を修得し、伝えたい内容を的確に書く力を身につける。第三者に理解してもらう文章をグループワークの中で発表と意見交換を行いながら作成する。文章作成のルールに則り、わかりやすい文章を書く時間を多くとっている。</p>							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション：授業の概要、グループワークで短文を書く</li> <li>2 文章作成の基本（1）：わかりやすい文章とは何か</li> <li>3 文章作成の基本（2）：文章のルールを知る</li> <li>4 文章作成の基本（3）：あいまいさをなくす表現</li> <li>5 文章作成の基本（4）：相手に伝わる文章表現</li> <li>6 文章作成の基本（5）：論理的に表現する方法</li> <li>7 文章作成の基本（6）：多読の効果</li> <li>8 手紙の基本：一般的な手紙文、動物看護師の手紙文</li> <li>9 レポート作成の基本（1）：レポートの構成</li> <li>10 レポート作成の基本（2）：トレーニング</li> <li>11 レポート作成の基本（3）：レポートの検討（グループワーク）</li> <li>12 掲示・案内表などの作成：動物病院で活かすわかりやすい表示の作成</li> <li>13 論文作成の基本（1）：テーマの決め方、構成</li> <li>14 論文作成の基本（2）：論文を読む</li> <li>15 まとめ</li> </ol>							
<b>履修上の注意</b>							
<p>国語辞典を必ず用意すること（電子辞書可）。  教員の説明が中心の講義ではなく、「授業中の文章作成作業」が多くなることを理解した上で、履修すること。  作成した課題をグループ内で報告し意見交換を行い文章を検討する。課題を作成してくることは必須であり、批判でなく前向きな姿勢での議論を期待する。</p>							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
<p>授業への参加度を40%、課題などを60%とし、総合的に評価する。</p>							
<b>教科書</b>							
<p>小笠原信之『伝わる！文章力が身につく本』高橋書店</p>							
<b>参考書、教材等</b>							
<p>河野哲也『レポート・論文の書き方（改定版）』慶應義塾大学出版会  澤田昭夫『論文の書き方』講談社  佐藤盛編著『アカデミック・スキルズ大学生のための知的技法入門』慶應義塾大学出版会  その他、必要に応じて講義中に紹介する。</p>							

授業科目	健康とスポーツ				担当教員	中山 多美	
科目英名	Wellness & Physical activity						
開講期間	2年次 前期	必/選	選択	単位	2	科目区分	教養教育[言語・情報・スポーツ]
<b>講義目的</b>							
<p>スポーツを続け、健康な体と心を育てていく事の大切さを学ぶ。 健康な生活を送るため、日常何に気を付けるか習得する。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>人間の体、骨、筋肉、血管を学習し、日常生活の中に潜んでいる病気、アレルギー、感染症などを例に、その対処法、治療法、生活で注意したい事など学習する。</p>							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 人体、骨、筋肉の仕組み</li> <li>3 心臓、血管の仕組み</li> <li>4 免疫力</li> <li>5 ペットからの感染症</li> <li>6 ダニ、カビ、アタマジラミなど</li> <li>7 紫外線について</li> <li>8 膝痛・腰痛対策</li> <li>9 花粉症対策</li> <li>10 冷え症対策</li> <li>11 夏バテ原因物質</li> <li>12 出産について</li> <li>13 拒食症</li> <li>14 レポート</li> <li>15 レビュー</li> </ol>							
<b>履修上の注意</b>							
<p>開講学年により、シラバスどおりには進まない可能性がある。 履修方法についてはオリエンテーション時の説明をよく聞くこと。 基本的に、他人に迷惑のかかる行為や大学生としてふさわしくない行為は禁止する。</p>							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
<p>授業への参加度（70%）とレポート試験（30%）、授業態度（+α）の総合評価</p>							
<b>教科書</b>							
<p>適宜プリントを配布</p>							
<b>参考書、教材等</b>							
<p>なし</p>							

授業科目	健康とスポーツ実技				担当教員	中山 多美	
科目英名	Wellness & Fitness						
開講期間	3年次 前後期	必/選	選択	単位	1	科目区分	教養教育[言語・情報・スポーツ]
<b>講義目的</b>							
<p>コンディショニングにより、しなやかに強い身体づくりをし、「健康美」を目指す。  運動を通してスポーツマンシップやマナーの習得、コミュニケーション能力の向上を目指す。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>全身を動かし、楽しみながらスポーツを通して、各自の体力に合わせて運動し、安全かつ効果的なエクササイズの方法を体得し、自分自身の健康管理に対する認識を深める。また運動を通してスポーツマンシップやマナー・ルールの習得を目指す。</p>							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 卓球 1</li> <li>3 卓球 2</li> <li>4 卓球 3 (ダブルス)</li> <li>5 卓球 4 (ダブルス)</li> <li>6 フットサル 1</li> <li>7 フットサル 2</li> <li>8 フットサル 3</li> <li>9 バドミントン 1</li> <li>10 バドミントン 2</li> <li>11 バドミントン 3 (ダブルス)</li> <li>12 バドミントン 4 (ダブルス)</li> <li>13 ダンス 1</li> <li>14 ダンス 2</li> <li>15 ダンス 3</li> </ol>							
<b>履修上の注意</b>							
<p>開講学年により、シラバスどおりには進まない可能性がある。  *履修希望者が多数の場合は履修時期等の調整を行う。  *トレーニング・ウェア、ソックス、シューズを着用の事  *筆記用具の用意  *スポーツが苦手でも、成績には関係ありません。スポーツが苦手な人も大歓迎です！  *履修方法についてはオリエンテーション時の説明をよく聞くこと。  (服装他、詳細については初回の授業で説明する。)</p>							
<b>評価方法 (評価基準を含む)</b>							
授業への参加度 (60%)、授業態度 (40%) の総合評価							
<b>教科書</b>							
適宜プリントを配布							
<b>参考書、教材等</b>							
なし							

授業科目	生命科学概論				担当教員	鎌田 壽彦	
科目英名	Introduction to Life Science						
開講期間	1年次 前期	必/選	必修	単位	2	科目区分	専門基礎
<b>講義目的</b>							
<p>生命科学の英語名は <b>Life Science</b> である。Life は生命という意味もあるが、人の生活の意味もある。そこで本講義では、人の生活に関係する身近な生命的現象をとりあげ、考察していく。</p> <p>また、地球環境の悪化がいかに関生命を脅かしているかを解説する。さらに、生命科学の発展と生命倫理についても考察する。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>人の生命は健康維持と密接な関係にある。健康維持には「医食同源」という言葉があるように食品 — 栄養が密接に関係している。栄養と健康の役割について多くの回数を使って述べていく。また、地球温暖化をはじめとする地球環境の変化が、人の生命と生活に影響を及ぼしているため、これらを取り上げていく。その中には、生物種の絶滅や種の存亡が危機に曝されている問題もある。</p> <p>本講義では、生命のしくみ、生命の大切さ、生命倫理などを理解してもらおう。</p>							
<b>授業計画</b>							
<p>本講義は、動物看護学を理解する上で必要な生命倫理学や自然科学を学ぶ基礎となる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 生命科学とは</li> <li>2 人体の構成と栄養</li> <li>3 食生活と病気</li> <li>4 食品の役割</li> <li>5 乳酸菌</li> <li>6 脂肪とタンパク質</li> <li>7 食物繊維</li> <li>8 酸素・炭水化物</li> <li>9 地球温暖化</li> <li>10 紫外線・熱中症</li> <li>11 薬物乱用</li> <li>12 バイオテクノロジー・再生医療</li> <li>13 人と野生動物との関係</li> <li>14 暑熱・寒冷の人体への影響</li> <li>15 これからの食料資源と食料問題</li> </ol>							
<b>履修上の注意</b>							
<p>配付資料を基にしたノート作りに意欲的に取り組むこと。またレポート課題にも意欲的に取り組むこと。</p>							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
<p>授業への参加度と授業内レポート作成（50%）および試験の成績（50%）から総合的に評価する。</p>							
<b>教科書</b>							
<p>特になし。資料を講義時に配付する。</p>							
<b>参考書、教材等</b>							
<p>参考書は講義の中で紹介する。</p>							

授業科目	動物看護学概論					担当教員	若尾 義人
科目英名	Veterinary Technology Outline						
開講期間	1年次 後期	必/選	必修	単位	2	科目区分	専門基礎
<b>講義目的</b>							
<p>本概論は動物看護学の核となる講義であることから、学生には、看護の基にある動物の病気を理解させると同時に、患者を看護するために必要な知識を理論的に解説し、さらに、その具体的方法論について講義する。特に、動物看護学を実践的学問と位置付け、患者と飼主、さらに獣医師との関係から、社会における看護師の位置を明確にすると共に、看護師による動物看護の必要性を教授する。また、看護に伴う社会的責任について、倫理のおよび法的根拠を基に動物看護の立場を解説する。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>動物看護学は新しい分野であることから、学生にはまず、看護学の本質を理解させる必要がある。特に、動物看護学とヒトの看護学の共通性と相違を比較して、動物看護学の重要性和特殊性を認識させると共に、獣医臨床における動物看護師の必要性を理解させる。さらに、看護学が実践的学問として重要な位置を占めることを教育するために、疾病とその看護を中心とした教育方法を取り入れ、“病気の動物を看護する”という1つの流れの中で、動物看護の方法を教授する。</p>							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 動物とヒトの看護学—歴史的背景</li> <li>2 動物看護学の特徴</li> <li>3 内科疾病と動物看護</li> <li>4 外科疾病と動物看護</li> <li>5 終末獣医療と動物看護—ペットロス</li> <li>6 動物の福祉とヘルスケア</li> <li>7 動物看護と対象動物</li> <li>8 実験動物と動物看護</li> <li>9 産業動物臨床と動物看護</li> <li>10 飼い主と動物看護との関係—インフォームドコンセント</li> <li>11 動物看護師の位置と責任</li> <li>12 動物看護師の必要性和社会的認知</li> <li>13 動物病院における動物看護師の役割</li> <li>14 動物看護師の倫理と法律</li> <li>15 欧米における動物看護師の役割—将来像</li> </ol>							
<b>履修上の注意</b>							
<p>これから学習する動物看護の原点を司る授業であることから、内容は多岐にわたる。従って、毎回の授業をまとめて、整理しておく必要がある。</p>							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
<p>レポート（20%）および試験（80%）によって評価を行う。</p>							
<b>教科書</b>							
<p>特に教科書として指定しないが、下記の参考書を基準として授業を行う。</p>							
<b>参考書、教材等</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 獣医看護学 上下巻、山村穂積訳、チクサン出版</li> <li>2. 動物看護学 各論・総論、日本動物看護学会教科書編集委員会編、インターズー</li> <li>3. 動物看護学全書 日本小動物獣医師会動物看護師委員会監修、日本小動物獣医師会出版</li> </ol>							



授業科目	動物形態学				担当教員 二宮 博義・林 一彦 今村 伸一郎	
科目英名	Veterinary Anatomy					
開講期間	1年次 前期	必/選	必修	単位	2 科目区分	専門基礎
講義目的						
<p>体の仕組みや働きを充分理解することは、動物の病気の理解や病気の予防および看護にきわめて重要なことである。そうしたことから形態学は動物看護学における重要な基礎科目の一つとなっている。本講義の目的は、動物の体の正常な構造と機能に関連づけて説明できるようになることである。</p>						
講義概要						
<p>動物の体は無数の細胞が集まって組織を作り、その組織が集合して器官を形成している。それぞれの器官は動物の体を構成して生命活動を行っている。本講義では、骨格、筋肉、消化器、呼吸器、循環器などの構造や機能を系統的に解説する。特に、動物看護の実際に役立つようにイヌおよびネコの機能形態学や臨床解剖学に重点を置いて解説する。近年、コンパニオンアニマルの口腔ケアの必要性も重視されてきているので13-15回の講義では、イヌ・ネコを中心とした口腔臨床解剖学を講述する。</p>						
授業計画					担当教員	
1	細胞、組織、器官				二宮 博義・今村 伸一郎	
2	骨格系				二宮 博義・今村 伸一郎	
3	筋肉系				二宮 博義・今村 伸一郎	
4	消化器系				二宮 博義・今村 伸一郎	
5	泌尿器系				二宮 博義・今村 伸一郎	
6	生殖器系				二宮 博義・今村 伸一郎	
7	呼吸器系				二宮 博義・今村 伸一郎	
8	循環器系				二宮 博義・今村 伸一郎	
9	内分泌系				二宮 博義・今村 伸一郎	
10	神経系				二宮 博義・今村 伸一郎	
11	外皮				二宮 博義・今村 伸一郎	
12	臨床解剖学				二宮 博義・今村 伸一郎	
13	歯の解剖学				林 一彦	
14	口腔解剖学				林 一彦	
15	臨床口腔解剖学				林 一彦	
履修上の注意						
<p>毎回出席をとる。覚える内容が膨大なので日頃から少しずつ整理しておく事を勧めする。また解剖学用語は正確に覚えるよう心がけてほしい。</p>						
評価方法（評価基準を含む）						
<p>授業への参加度（30%）と学期末試験（70%）により成績評価を行う。平均60点以上を合格とする。</p>						
教科書						
1. 動物看護師のための解剖学－動物の体の構造とその働き－、教育アシストセンター出版部						
参考書、教材等						
<p>1. Veterinary Physiology and Applied Anatomy, Tartaglia L. 著、Butterworth Heinemann  2. 獣医看護学 上下巻、山村穂積訳、チクサン出版  3. 家畜比較解剖図説 上下巻、加藤嘉太郎著、養賢堂  4. 犬の解剖カラーリングアトラス、日本獣医解剖学会監修、学窓社</p>						

授業科目	動物生理学					担当教員	鎌田 壽彦
科目英名	Animal Physiology						
開講期間	2年次 前期	必/選	必修	単位	2	科目区分	専門基礎
<b>講義目的</b>							
<p>動物は、体を構成している様々な細胞や基幹系を精巧に連携させ、また調節、統合させながら複雑な生命活動を営んでいる。この様な生命現象を理解するために、その基本となる様々な器官や組織とそれらの機能についての基礎知識が必要である。本講義では動物体の正常な“しくみ”について述べる。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>近年の生命科学の進歩はめざましく、複雑な生命のしくみが分子のレベルで詳しく解き明かされつつある。一方、生命科学の著しい進歩にともない、動物生理学の内容は益々盛り沢山になり、また、難解になっている。そこで、理解しやすいように、器官や組織の図や写真を多用した資料を中心に講義する。また、生理学を通じて生命のしくみの全体像を理解してもらうために、できる限り広い内容の解説に努める。動物看護学の基礎学問として、イヌやネコの生理機能についても随時取り上げていく。</p>							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 器官系・骨</li> <li>2 血液の成分・血液凝固</li> <li>3 血管・循環器・肺</li> <li>4 筋肉の種類とその働き</li> <li>5 神経・イオンチャンネル・脳</li> <li>6 自律神経系</li> <li>7 感覚器官 目・鼻・耳・舌</li> <li>8 胃における消化</li> <li>9 腸における消化</li> <li>10 消化に関わる酵素とホルモン ビタミンとミネラルの役割</li> <li>11 腎臓 内分泌</li> <li>12 視床下部-下垂体系 フィードバック</li> <li>13 生殖器系と内分泌</li> <li>14 体温調節機構 免疫 アレルギー</li> <li>15 まとめ</li> </ol>							
<b>履修上の注意</b>							
<p>授業をよく聞き、ノートを積極的にとるよう取り組むこと。</p>							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
<p>授業への参加度と授業中のミニテスト（50%）および試験の成績（50%）から総合的に評価する。</p>							
<b>教科書</b>							
<p>特に指定しない。</p>							
<b>参考書、教材等</b>							
<p>講義資料は講義時に配布する。参考書は講義中に紹介する。</p>							

授業科目	解剖生理学実習					担当教員 二宮 博義・今村 伸一郎 高柳 信子
科目英名	Practice for Anatomy and Physiology					
開講期間	2年次 後期	必/選	必修	単位	1	科目区分 専門基礎
<b>講義目的</b>						
講義で得た組織、器官および体の構造や機能に関する知識を、観察と実験を通じて具体的に体験し理解する。						
<b>講義概要</b>						
実習の前半を解剖学に関する実習、後半を生理学に関する実習を行う。解剖学の実習はイヌとトリを対象にして、動物看護の実践に役立つよう表面解剖学、局所解剖学および機能解剖学に重点を置いた実習とする。生理学の実習では、血液・内分泌、神経・筋の生理、腎機能、心肺機能、体温調節機能等について実習を行う。						
<b>授業計画</b>						<b>担当教員</b>
1 実習全体のオリエンテーション						二宮 博義・今村 伸一郎
2 動物の各部位、方位の名称、体表の解剖学						二宮 博義・今村 伸一郎
3 骨格に関する実習（イヌ）（頭骨、椎骨、胸郭の観察）						二宮 博義・今村 伸一郎
4 骨格に関する実習（イヌ）（前肢骨、後肢骨の観察）						二宮 博義・今村 伸一郎
5 筋肉に関する実習（イヌ）（体幹の表層の筋肉の観察）						二宮 博義・今村 伸一郎
6 筋肉に関する実習（イヌ）（前肢および後肢の筋肉の観察）						二宮 博義・今村 伸一郎
7 内臓に関する実習（イヌ）（腹腔臓器、骨盤臓器の観察）						二宮 博義・今村 伸一郎
8 内臓に関する実習（イヌ）（胸腔臓器の観察）						二宮 博義・今村 伸一郎
9 神経に関する実習（イヌ）（脳、脊髄の観察）						二宮 博義・今村 伸一郎
10 ニワトリの解剖（骨格および内臓の観察）						二宮 博義・今村 伸一郎
11 血液・内分泌の生理（血球観察、血液凝固、イヌの血液型、ホルモンの効果等）						高柳 信子
12 神経・筋の生理（神経・筋の活動電位、骨格筋の収縮、骨格筋の構造と機能）						高柳 信子
13 腎機能に関する実習（濾過機能、再吸収機能について考察、屠場で得たブタの腎臓を使用、尿検査紙による異常尿の検出）						高柳 信子
14 循環器系に関する実習（心臓の自動能、被験者の様々な状況下の血圧と心拍数の測定） 呼吸数の測定（被験者の様々な状況下での心音の観察）						高柳 信子
15 体温調節に関する実習 （イヌを用いて、安静時・運動後の心拍数、呼吸数、舌表面温度、直腸温の測定）						高柳 信子
<b>履修上の注意</b>						
実際の標本や解剖模型をスケッチしたり、解剖図を模写するのでスケッチブックを必ず持参すること。講義で配布したプリントを毎回持参すること。						
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>						
授業への参加度（70%）と試験・レポート（30%）						
<b>教科書</b>						
犬の解剖カラーリングアトラス 日本獣医解剖学会 監修 学窓社						
<b>参考書、教材等</b>						
家畜比較解剖図説、加藤嘉太郎著、養賢堂 基礎動物生理学、東條英昭著、アドスリー 機能形態学入門、浅野隆司・浅野妃美著、インターズー 生理学、真島英信、文光堂 医科生理学展望、星猛ら、丸善 わかりやすい獣医解剖生理学 浅利昌男 監訳 文永堂						

授業科目	動物生化学					担当教員	小黒 美枝子
科目英名	Animal Biochemistry						
開講期間	2年次 前期	必/選	必修	単位	2	科目区分	専門基礎
<b>講義目的</b>							
<p>生化学は化学、栄養学、生理学などと大きく関連しており、生命現象を化学の側面から学ぶ学問である。動物の生体はさまざまな物質から構成され、各々の物質が独自にあるいは相互に作用しながら生理機能を営んでいる。動物の生体物質の構造と機能を理解するのは重要なことである。動物看護学科における生化学が、生命現象の普遍的な法則性を組織、細胞、さらには分子のレベルで理解する知識を習得すること、また、他の教科の生化学的理解を助けることができるように知識を習得することを目的とする。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>生物や基本単位の細胞を動かしているさまざまな生体システムを理解する必要がある。動物細胞におけるさまざまな代謝、つまり、細胞内における合成と分解反応である。本講義では、糖質代謝、脂質代謝、蛋白質アミノ酸代謝、核酸の代謝を中心に物質およびエネルギーの代謝、代謝を円滑に行うための生体触媒である酵素の性質を学ぶ。また、遺伝情報に基づいて合成されるペプチドや蛋白質、従って、核酸の構造と生物学的機能についても学ぶ。</p>							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生化学の概説、生化学の目的および、生命科学や動物看護学における位置付け</li> <li>2 細胞成分の構造、細胞膜、細胞核、ミトコンドリア、小胞体、細胞骨格などの構造と機能</li> <li>3 身体の構成材料と消化</li> <li>4 アミノ酸、蛋白質の化学 アミノ酸、蛋白質の構造</li> <li>5 アミノ酸、蛋白質の代謝 蛋白質の消化と吸収、アミノ酸の出入り、蛋白質の動的平衡</li> <li>6 アミノ酸、蛋白質代謝 アミノ酸の代謝と合成される生理活性物質、アミノ酸から含窒素化合物の合成</li> <li>7 酵素の性質、酵素の特性</li> <li>8 酵素の性質、酵素の反応速度、補酵素とビタミン</li> <li>9 糖質の化学 糖質の構造</li> <li>10 糖質の代謝 糖質の消化と吸収、血糖、糖代謝</li> <li>11 クエン酸回路と電子伝達酸化的リン酸化系 エネルギー代謝をクエン酸回路、電子伝達酸化的リン酸化系</li> <li>12 脂質の化学 多様な脂質の構造、脂肪酸</li> <li>13 脂質の代謝 脂質の消化と吸収、血液による脂質の運搬、トリアシルグリセロール代謝</li> <li>14 核酸の構造（ヌクレオチド、DNA と RNA ） 遺伝情報の流れ DNA 複製、RNA、蛋白質の生合成</li> <li>15 まとめ、確認テスト</li> </ol>							
<b>履修上の注意</b>							
<p>化学、生物の基礎的知識を復習しておいてもらいたい。 基礎生化学（1年次）を選択することが望ましい。</p>							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
<p>定期試験（60%）、および授業時間中に実施する小テスト、授業への参加度（40%）に基づいて総合的に評価する。</p>							
<b>教科書</b>							
<p>ビギナーのための生物化学 生命のハードとソフト 三共出版</p>							
<b>参考書、教材等</b>							
<p>参考書は講義中に紹介する。</p>							

授業科目	動物薬理学				担当教員	尾崎 明恵	
科目英名	Animal Pharmacology						
開講期間	2年次 前期	必/選	必修	単位	2	科目区分	専門基礎
<b>講義目的</b>							
動物診療に携わる動物看護師が、看護活動の際に必要な薬を正しく安全に取り扱い、その薬の投与や投与後の動物の管理、観察を主体的かつ的確に行なえるように、生体に対する薬の役割や意義など薬に関する基礎的な知識を習得することを目的とする。							
<b>講義概要</b>							
講義の第1回から第4回では薬理学の総論を学ぶ。まず生体には本来その恒常性を維持するメカニズムが備わっていることを理解した上で、薬とはなにか、薬がどうして効くのか（作用機序）、薬の体内での動き（吸収、分布、代謝、排泄）や薬の働きや動きを左右する因子など、薬と生体との間で生じる様々な相互作用について学習していく。第5回以降の各論では各器官に作用する薬や臨床上よく用いられる薬について、その投与目的や作用機序などを学び、また薬の副作用に関する情報も理解できるよう講義を行なう。							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 薬理学とは</li> <li>2 薬の作用機序</li> <li>3 薬の体内動態</li> <li>4 薬物療法を左右する因子</li> <li>5 神経系に作用する薬</li> <li>6 循環器系に作用する薬、呼吸器系に作用する薬</li> <li>7 消化器系に作用する薬、泌尿器系に作用する薬</li> <li>8 消毒法と消毒薬</li> <li>9 抗菌薬</li> <li>10 寄生虫駆除薬</li> <li>11 ワクチン、抗炎症薬</li> <li>12 糖尿病治療薬</li> <li>13 その他の薬</li> <li>14 薬の副作用、薬の添付文書について</li> <li>15 まとめ</li> </ol>							
<b>履修上の注意</b>							
授業内容が広範囲にわたるので、毎回配布されるプリントのポイントを授業中に必ずチェックし、学習効率を高めてほしい。総論終了後に小テストを実施するが日程等は授業で確認のこと。その際、授業計画の講義項目の内容や順番に変更が生ずる場合がある。							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
授業への参加度（30%）と筆記試験（小テストを含む、70%）の結果等を踏まえ総合的に判断する。							
<b>教科書</b>							
教科書は特に指定しない。 毎回プリントを配布する。							
<b>参考書、教材等</b>							
参考書については初回の講義で紹介する。							

授業科目	動物生態学					担当教員	茂木 千恵
科目英名	Animal Ecology						
開講期間	2年次 後期	必/選	必修	単位	2	科目区分	専門基礎
<b>講義目的</b>							
動物生態学における行動生態学的アプローチによって、獣医看護学が対象とする様々な動物種において、それぞれの種に特有な、あるいは種を越えて共通する生態と行動様式を学ぶ。こうした知識を基盤に、アニマルウェルフェアに配慮した飼養管理技術や臨床行動学の基礎となる考え方を身につけることを目標とする。							
<b>講義概要</b>							
本講義では、行動生態学の基本概念、行動の進化・発達・動機づけ、個体間のコミュニケーション行動、生殖行動、社会行動を理解する。次に動物の学習理論、臨床行動学の基礎的手法を解説するとともに、行動生態学的な研究の基礎的実践法についても紹介する。							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 動物行動学の基本概念</li> <li>2 行動の進化</li> <li>3 行動の発達</li> <li>4 行動の周期性</li> <li>5 行動の動機づけと情動系</li> <li>6 行動に影響する生理物質</li> <li>7 コミュニケーション行動</li> <li>8 生殖行動</li> <li>9 社会行動</li> <li>10 維持行動</li> <li>11 行動変容と学習理論</li> <li>12 臨床行動学の基礎</li> <li>13 アニマルウェルフェアの行動学的評価</li> <li>14 動物行動学研究の基礎的手法</li> <li>15 まとめ</li> </ol>							
<b>履修上の注意</b>							
動物行動学を理解する上で必須となる基礎的概念および用語の習得を目指す。							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
学期末試験（70%）、授業への参加度（30%）から総合的に評価する。							
<b>教科書</b>							
動物行動学（森裕司、武内ゆかり、南佳子著）インターズー							
<b>参考書、教材等</b>							
参考書は講義の中で紹介する。							

授業科目	動物行動学					担当教員	茂木 千恵
科目英名	Ethology						
開講期間	2年次 前期	必/選	必修	単位	2	科目区分	専門基礎
<b>講義目的</b>							
<p>本講義では、まず、家畜および伴侶動物の正常な行動の様式を習得する。次に伴侶動物にみられる問題行動の定義、診断、治療法の理解を通じて、臨床行動学の基礎的知識を習得し、動物行動学的観点から伴侶動物の合理的かつ福祉的なハンドリングに応用する能力を獲得する。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>家畜および伴侶動物の正常な行動レパトリーを概説する。次に実際の臨床における、問題行動症例を取り上げ、問題行動の定義、種類、特徴、原因、病態生理、危険因子、症状、診断法および治療法などを体系的に明らかにし、問題発生の原因から治療の経過までを包括的に学習する。</p>							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 動物の行動レパトリー概説</li> <li>2 問題行動の鑑別診断</li> <li>3 行動治療の方法</li> <li>4 行動治療における薬物治療および外科的治療</li> <li>5 犬における攻撃性に関連する問題行動の分類と定義</li> <li>6 犬における攻撃性に関連する問題行動の治療法</li> <li>7 犬における恐怖・不安に起因する問題行動の分類と定義</li> <li>8 犬における恐怖・不安に起因する問題行動の治療法</li> <li>9 猫における排泄に関連する問題行動</li> <li>10 猫における攻撃性に関連する問題行動</li> <li>11 犬、猫以外の伴侶動物における問題行動</li> <li>12 産業動物の問題行動</li> <li>13 問題行動の予防</li> <li>14 社会化と馴化</li> <li>15 まとめ</li> </ol>							
<b>履修上の注意</b>							
<p>動物における基礎的な学習理論、生態学的知識については後期の動物生態学で学習する。</p>							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
<p>学期末試験（70%）、授業への参加度（30%）から総合的に評価する。</p>							
<b>教科書</b>							
<p>動物行動図説（佐藤衆介他編著）朝倉書店</p>							
<b>参考書、教材等</b>							
<p>動物看護のための動物行動学（森裕司、武内ゆかり著）ファームプレス</p>							

授業科目	動物遺伝学					担当教員	寺内 聖治
科目英名	Animal Genetics						
開講期間	2年次 後期	必/選	必修	単位	2	科目区分	専門基礎
<b>講義目的</b>							
<p>遺伝学は、現在、生命科学の中心的な法則を構成している。本講義では、メンデル遺伝学を中心とする従来の遺伝学と新しい分子遺伝学との関連、ゲノム科学と遺伝学との関連、在来家畜や伴侶動物の動物遺伝資源の活用などを中心に、動物遺伝育種学が我々の生活にどのように役立っているかを理解する。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>遺伝学の概念は、近年の分子遺伝学や集団遺伝学の著しい進歩により理論的構成をもつ学問へと確立された。本講義では、メンデル遺伝学を中心とする遺伝学の基本的概念を解説する。また、従来のメンデル遺伝学と分子遺伝学との関連、さらに、これらが、実験動物、伴侶動物、産業動物においてどのように利用されているかを体系的に紹介する。</p>							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 遺伝子と DNA：動物の生命を維持し、形質を発現するのに必要な遺伝情報がゲノム DNA について解説する。</li> <li>2 遺伝子の構造と機能：遺伝子の本体である DNA の構造や複製、遺伝暗号、RNA とタンパク質の合成について述べる。</li> <li>3 遺伝のしくみ：遺伝の基本的法則は、メンデルの法則であり、優劣の法則、分離の法則、独立の法則からなる。</li> <li>4 非メンデル遺伝：メンデルの法則に従わない非メンデル遺伝現象があり、ゲノムインプリンティング等が関与する。</li> <li>5 染色体：核 DNA は、1 セットの染色体に包みこまれている。常染色体と性染色体から構成されている。</li> <li>6 組み換えと連鎖：異なった形質を支配する二つの遺伝子が、一組みとして次世代へ遺伝する現象が連鎖である。</li> <li>7 性の決定としくみ：哺乳類の性は、Y 染色体の有無で決定され、雄が決定される仕組みは、Sry 遺伝子の発現による。</li> <li>8 形質の発現：生命の維持、形質発現、子孫を残すための生殖、これらは全て遺伝子の働きによって支配される。</li> <li>9 遺伝的多様性：遺伝子の機能は、それを構成する塩基配列の多様性によって支配されている。</li> <li>10 遺伝子発現の調節：生体の様々な形質は膨大な数の遺伝子の複雑でしかも極めて精巧な発現により調節されている。</li> <li>11 突然変異と進化：突然変異は生物の遺伝的多様性、進化に重要であり、染色体レベル、DNA レベルの変異がある。</li> <li>12 量的形質の遺伝子支配：毛色等の形質は少数の遺伝子に支配され、複数の遺伝子に支配されているのが量的形質である。</li> <li>13 遺伝性疾患：遺伝性疾患の出現は家畜の生産や伴侶動物の世界では重大で、遺伝子診断が可能になっている。</li> <li>14 動物の育種：家畜や実験動物、さらには伴侶動物の育種には、交配様式が重要な役割を果たしている。</li> <li>15 動物遺伝資源の利用：家畜、実験動物、伴侶動物では、多くの未知な遺伝資源が存在し、その利用が重要である。</li> </ol>							
<b>履修上の注意</b>							
遺伝学が生殖学や発生工学とどのように関連しているかについても理解してもらう。							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
試験(レポートを含む、90%)、授業への参加度(10%)により総合的に評価する							
<b>教科書</b>							
「応用動物遺伝学」東條英昭、佐々木義之、国枝哲夫編著、朝倉書店、2007年							
<b>参考書、教材等</b>							
なし（プリントを使用する）							



授業科目	病理学				担当教員	岡崎 登志夫・林 一彦	
科目英名	Pathology						
開講期間	2年次 後期	必/選	必修	単位	2	科目区分	専門基礎
<b>講義目的</b>							
病理学は動物の健康状態や疾病を理解する上で基礎となる極めて重要な科目である。細胞・器官の構造や機能・はたらきに関する基礎的理解の上に、さまざまな疾病に伴うそれらの変化の特徴と原因についての知識を養う。また、疾病に対する動物のからだの防御機構（アレルギー反応や免疫機構）についても理解する。							
<b>講義概要</b>							
動物のからだを構成する基本単位・細胞の構造と分化やその細胞から成る器官の構造と役割について学習し、疾患に伴うそれら細胞や器官の変性、器官と器官をつなぐ代謝や循環の変化などについて学習する。また、疾患に伴う炎症や免疫機構の特徴と動物のからだを守るための役割について理解し、腫瘍や感染症など具体的な病理について学習する。							
<b>授業計画</b>						<b>担当教員</b>	
1 病理学分野に関する概論						岡崎 登志夫	
2 細胞と遺伝病						岡崎 登志夫	
3 細胞の分化と死						岡崎 登志夫	
4 血液の循環と働き						岡崎 登志夫	
5 血栓と貧血のメカニズム						岡崎 登志夫	
6 消化と栄養						岡崎 登志夫	
7 栄養の貯蔵とエネルギー生産						岡崎 登志夫	
8 呼吸と体温異常のメカニズム						岡崎 登志夫	
9 炎症とアレルギー						岡崎 登志夫	
10 ウイルス感染症						岡崎 登志夫	
11 がんについて						岡崎 登志夫	
12 神経と脳の話						岡崎 登志夫	
13 歯牙硬組織の疾患						林 一彦	
14 口腔の炎症性疾患						林 一彦	
15 口腔の腫瘍性疾患						林 一彦	
<b>履修上の注意</b>							
動物生化学や病理学等の基礎科目との関連をきちんと理解しておく必要がある。							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
試験あるいはレポート、授業への参加度（小テストなどを含む）から総合的に評価する。その割合は、試験あるいはレポート 80%、授業への参加度（小テストなどを含む） 20%とする。							
<b>教科書</b>							
なし（プリント使用）。							
<b>参考書、教材等</b>							
適宜、授業中に紹介する。							

授業科目	動物人間関係学					担当教員	安藤 孝敏
科目英名	Human-Animal Interaction						
開講期間	2年次 後期	必/選	必修	単位	2	科目区分	専門基礎
<b>講義目的</b>							
変化しつつある「人間と動物の関係」を多面的・総合的に捉え、人間と動物の望ましい関係について深く考えることがこの授業の目的である。							
<b>講義概要</b>							
犬や猫などのペット動物の飼育頭数が増加しつづけるという近年の「ペットブーム」のなか、このような動物たちに対する見方も、従来の「ペット（愛玩動物）」から家族の大切な一員である「コンパニオン・アニマル（伴侶動物）」へ変化してきている。この授業では、動物とのかかわりが人間の生活の質にどのような影響を及ぼすのかを深く理解し、人間と動物の望ましい関係について構想できるようになることを目標に、人間と動物の関係に関する最新の話題を取りあげて講義を展開する。							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 「動物人間関係学」とは？</li> <li>2 社会の中のペット：ペット飼育状況</li> <li>3 高齢者と動物のかかわり</li> <li>4 身体障害者補助犬（1）：盲導犬</li> <li>5 子どもと動物のかかわり</li> <li>6 動物を介した教育の試み</li> <li>7 動物園の新しい取り組み：行動展示</li> <li>8 ペットの飼育費用</li> <li>9 ペットと暮す住宅：集合住宅の場合</li> <li>10 地域猫の取り組み</li> <li>11 身体障害者補助犬（2）：介助犬、聴導犬</li> <li>12 ペットロスとその対処法</li> <li>13 日本（人）の動物観</li> <li>14 ヒューマン・アニマル・ボンド研究の動向</li> <li>15 まとめ：動物看護のための「人間と動物の関係学」</li> </ol>							
<b>履修上の注意</b>							
さまざまな資料や映像素材を用いて授業を行う。受講者には毎回、講義や資料などに関するコメント・質問の提出を求める（出席票を兼ねる）。							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
成績は、コメント・質問 40%、ミニ課題 30%、学期末レポート 30%の配分で評価する。							
<b>教科書</b>							
安藤・種市・金児（訳）『ペットと生きる—ペットと人の心理学—』（北大路書房）							
<b>参考書、教材等</b>							
桜井・長田（編）『「人と動物の関係」の学び方』（インターズー）							

授業科目	サイエンスイングリッシュ				担当教員	小黒 美枝子	
科目英名	Scientific English						
開講期間	3年次 前期	必/選	必修	単位	2	科目区分	専門基礎
<b>講義目的</b>							
<p>動物看護学はじめ、諸専門科目で要求されるサイエンス（科学）分野は、国際的で、学問進歩が急速である。英文参考書、資料、論文などの科学英語に抵抗なく読むことが要求されている。本授業では、基礎的な科学英文を読解するためのスキルを修得することを目標とする。卒業研究における英語資料、論文の読解のための基礎力修得もめざす。また、国際社会が身近になり、英語のリスニングも、動物学やその関連サイエンス分野においても必要になっている。そのために、英文読解力ばかりでなく、英語聞き取り能力なども修得することを目的とする。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>動物看護学はじめ、諸専門科目で要求されるサイエンス（科学）分野の英語文献、資料を理解するために基礎的な英文読解のスキルの修得を目標とする。基礎英語科目での既習内容を継続的に発展させ、サイエンス英語読解の基礎能力の確実な定着をめざす。動物看護学の専門的英語書の精読をめざす。サイエンス英語に特有な英文構造の把握、専門用語や関連語彙、用語の習熟を進めていく。あわせて、耳、口を使って英語を修得するために、CDなどによる listening を行い、専門分野の科学英語を修得する。</p>							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 Animal Biology, Cells &amp; Basic Tissues</li> <li>2 Blood. Listening: Lively</li> <li>3 Bone. Listening: Panting</li> <li>4 Muscle. Listening: Appetite</li> <li>5 Movement of Materials within the Body. Listening: Coat</li> <li>6 Body systems &amp; Functions. Listening: Shedding</li> <li>7 Basic Genetics (1). Listening: Nausea</li> <li>8 Basic Genetics (2). Listening: Vomit 1</li> <li>9 Body as a Whole. Listening: Vomit2</li> <li>10 Microbiology. Listening: Defecate</li> <li>11 Animal Health &amp; Husbandry. Listening: Feces</li> <li>12 Basic Nutrition (1). Listening: Stool</li> <li>13 Basic Nutrition(2). Listening: Urinate</li> <li>14 Monitoring Temperature, and Respiration. Listening: Spay</li> <li>15 まとめ、確認テスト</li> </ol>							
<b>履修上の注意</b>							
辞書を駆使すること。教科書の予習をしっかりとしてください。							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
授業時に実施する小テスト（授業への参加度を含む）、確認テストを総合的に評価する。評価基準は、それぞれ、40%、60%の割合とする。							
<b>教科書</b>							
VOA Science Briefs Joseph Benson / 鈴木 寛次 著 南雲堂 とプリント。							
<b>参考書、教材等</b>							
授業中に適宜紹介する。							

授業科目	動物臨床看護学（基礎）				担当教員	小方 宗次・花田 道子	
科目英名	Veterinary Technology-Basic						
開講期間	1年次 前期	必/選	必修	単位	2	科目区分	専門応用 [動物看護科目群]
<b>講義目的</b>							
<p>本科目は動物看護学の導入となる科目である。動物看護に必要な知識・技術について理解を深め、動物看護師として活動するための看護理論を学び、動物の看護を実施できる能力を養い、動物医療における看護師の役割と機能について説明できるよう学習する。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>動物に見られる病気の多くが内科疾患として分類されている。これらの病気の動物を正しく的確に措置・看護することは予後をも左右しかねない重要な任務である。罹患中の動物にもっとも大切なことは、その動物の管理である。正しい看護なくしては予後は不良となってしまう。ここでは主として一般身体検査、バイタルサイン、保定法、応急処置、薬剤の投与法、ペットロス相談、病院業務などについて学ぶ。さらに、動物医療に必要な臨床解剖学的な基礎知識について学ぶ。さらに、異常（病気）を発見した時の対応、飼い主とのコミュニケーションのとり方など基礎的事項を学習する。</p>							
<b>授業計画</b>						<b>担当教員</b>	
1 オリエンテーション						小方 宗次	
2 学生時代の学習法						花田 道子	
3 生命観						小方 宗次	
4 動物看護師の礼儀、マナー、倫理、知識						花田 道子	
5 イヌ・ネコの看護に大切な体の構造と働き（1）						花田 道子	
6 動物臨床看護学に関する法律						小方 宗次	
7 イヌ・ネコの看護に大切な体の構造と働き（2）						花田 道子	
8 イヌ、ネコの観察の仕方と看護						小方 宗次	
9 介在活動に関するイヌの看護						小方 宗次	
10 看護する立場と看護される立場						花田 道子	
11 内科疾患の看護と外科疾患の看護						小方 宗次	
12 イヌの行動とトレーニング						小方 宗次	
13 緊急時の看護						花田 道子	
14 新しい療法、東洋医学の知識						小方 宗次	
15 死と別れへの対面・まとめ						花田 道子	
<b>履修上の注意</b>							
<p>学ぶ事柄が広範で基本的な項目が多いので、高学年で学ぶ専門科目の教科書や参考書に目を通して、その科目に馴染んでおくよう勧める。</p>							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
<p>授業への参加度（50%）と学期試験成績（30%）、それにレポートの提出状況（20%）を加味し評価を行う。平均60点以上を合格とする。</p>							
<b>教科書</b>							
<p>特定の教科書は使用しない。授業に必要なプリントを適宜配付する。</p>							
<b>参考書、教材等</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 獣医看護学 上下巻、山村穂積訳、チクサン出版</li> <li>2. 動物看護学 各論・総論、日本動物看護学会教科書編集委員会編、インターズー</li> <li>3. 動物看護学全書、日本小動物獣医師会動物看護師委員会監修、日本小動物獣医師会出版</li> <li>4. くわしい犬の病気大図典、小方宗次編、誠文堂新光社</li> <li>5. くわしい猫の病気大図典、小方宗次編著、誠文堂新光社</li> <li>6. 乗馬療法で用いられる馬の飼育管理、株式会社アシストセンター</li> </ol>							

授業科目	動物臨床看護学（基礎）実習					担当教員	小方 宗次・花田 道子 川添 敏弘・鈴木 友子 尾崎 明恵・富田 幸子
科目英名	Veterinary Technology-Basic, Student Laboratory						
開講期間	1年次 通年	必/選	必修	単位	2	科目区分	専門応用 [動物看護科目群]
<b>講義目的</b>							
2年次と3年次で実施される動物看護学（内科および外科）実習の導入として基礎的で一般的な動物看護技術を修得する。							
<b>講義概要</b>							
動物看護学（基礎）の講義を受け、具体的な動物臨床看護について学ぶ。一般検査、採血法、投薬法、輸液法、保定法、検査器具の使用法などについて学ぶ。また、触診や望診などに必要となる局所解剖や表面解剖などの知識についても学ぶ。							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション：看護学についての説明。実習器具の取扱いの説明後、実際に触れてみる。</li> <li>2 病院業務の概要紹介：動物衛生看護師の心得についての講義。実際に消毒液を取り扱う。</li> <li>3 外貌名称とハンドリング：外貌名称の説明と、犬を用いて多くのハンドリングを経験する。</li> <li>4 保定法：立位・座位・横臥位など検査部位で変わる数種類の保定について犬を用いて覚えていく。</li> <li>5 望診結果の記録方法：望診について説明し、実際に犬を取り扱いながら記録をとっていく。</li> <li>6 聴診・打診・触診：一般身体検査の基本を説明、犬を用いて実際に聴診・打診・触診し記録する。</li> <li>7 眼・耳・鼻可視粘膜検査：眼・耳・鼻・可視粘膜についての説明。犬を観察し詳細を記録する。</li> <li>8 体幹、外部生殖器検査：体幹（乳腺や肛門等）外部生殖器について説明し、犬の観察記録をする。</li> <li>9 リンパ節および脱水検査：皮膚とリンパ節構造の説明後、犬を用いて脱水の検査を経験する。</li> <li>10 一般身体検査：復習として犬を用いて実技検査を行い、苦手なところやポイントを整理する。</li> <li>11 顕微鏡の取り扱い：顕微鏡の機能と取扱い、臨床現場での活用を意識させ、実際に操作させる。</li> <li>12 血液検査に用いる器具の取り扱い：血液検査の意義と検査器具の説明。実際に器具を扱ってみる。</li> <li>13 血液塗抹と血球検査：血球検査の方法の説明。血液塗抹をつくり鏡検し、血球のスケッチをする。</li> <li>14 血球計算法：血球計算盤、その他の方法で血球の計算法を説明し、実際にカウントしてもらう。</li> <li>15 技術チェック：これまで実施してきた実習での知識のチェックを行う。</li> <li>16 糞便検査：糞便についての説明と一般性状検査。実際に浮遊法と直接法で糞便を観察記録する。</li> <li>17 尿検査：泌尿器と尿についての説明。肉眼的所見、試験紙、比重、沈渣検査を行い記録する。</li> <li>18 耳の検査：検査一般と洗浄方法についての説明。細菌検出検査やミミヒゼンダニ検出検査を行う。</li> <li>19 眼の検査：眼についての説明と眼病について。シルマーテストとフルオレセインテストを行う。</li> <li>20 調剤器具の使用法：投薬について説明。薬剤器具の使用法について学び実際に使用する。</li> <li>21 投薬法：あらゆる投薬の方法について説明する。犬を用いて投薬を体験する。点眼も行う。</li> <li>22 フィラリア・ノミ：フィラリアのライフサイクルや予防薬について説明。検査キットを扱う。</li> <li>23 注射器と薬液の取り扱い：薬液量の計算、注射器の取扱い、バイアルとアンプルの取扱いを行う。</li> <li>24 留置針設置方法：粉バイアルの溶解の仕方。留置針設置の手順について説明後、実際に体験する。</li> <li>25 輸液セットの設置法：輸液の種類についての簡単な説明。輸液のセット手順を実際に体験する。</li> <li>26 自然落下輸液と輸液量：自然落下輸液の計算方法、三方活栓について。体液の分布について。</li> <li>27 血液型と交叉適合試験：血液型や輸血の目的についての説明。交叉適合試験について。</li> <li>28 ワクチン：ワクチンについての説明。証明書発行や意義について。実際に証明書を記入する。</li> <li>29 心電図検査：心電図検査の意義手技を説明。</li> <li>30 心音聴診：心音聴診の基礎知識を説明。</li> </ol>							
<b>履修上の注意</b>							
実習に参加する場合は指定の実習着を着用すること。							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
実習への参加度（50%）、実技試験結果（20%）、筆記試験（20%）、レポート成績（10%）							
<b>教科書</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. くわしい犬の病気大図典、小方宗次編、誠文堂新光社</li> <li>2. くわしい猫の病気大図典、小方宗次編著、誠文堂新光社</li> </ol>							
<b>参考書、教材等</b>							
特に指定しない。							

授業科目	動物臨床看護学（内科）				担当教員	小方 宗次・谷口 明子	
科目英名	Veterinary Technology-Internal Medicine						
開講期間	2年次 前期	必/選	必修	単位	2	科目区分	専門応用 [動物看護科目群]
<b>講義目的</b>							
適切な看護を行うため、臨床で遭遇する頻度の高い主要疾患の病因・病態を理解する。							
<b>講義概要</b>							
小方担当分：動物医療の現場で遭遇する代表的な疾患を器官ごとに解説し、動物看護で求められる看護対応の要点を2年次学生レベルに合わせ講義する。 谷口担当分：臨床現場で多く見られる循環器・泌尿器疾患、感染症、免疫異常を伴う疾患について講義する。代表的な疾患の特徴的な臨床所見や診断治療を含めた看護に必要な基礎知識について講義する。							
<b>授業計画</b>						<b>担当教員</b>	
1	循環器疾患の看護：胎児循環・血液の循環について・先天性心疾患				谷口 明子		
2	循環器疾患の看護：後天性心疾患				谷口 明子		
3	泌尿器疾患の看護：腎臓の基本構造と機能・腎不全				谷口 明子		
4	泌尿器疾患の看護：膀胱炎・尿路結石				谷口 明子		
5	感染症の看護：猫の感染症				谷口 明子		
6	感染症の看護：犬の感染症				谷口 明子		
7	免疫系の異常を伴う疾患の看護：免疫の基礎知識・アレルギー疾患				谷口 明子		
8	免疫系の異常を伴う疾患の看護：免疫介在性貧血				谷口 明子		
9	血液疾患と看護				小方 宗次		
10	感覚器疾患と看護				小方 宗次		
11	呼吸器疾患と看護				小方 宗次		
12	消化器疾患と看護				小方 宗次		
13	神経疾患と看護				小方 宗次		
14	皮膚疾患と看護				小方 宗次		
15	内分泌疾患と看護				小方 宗次		
<b>履修上の注意</b>							
毎回の講義に対して十分な予習と復習を行うことを希望する。							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
学期末試験（60%）、レポート（10%）、授業への参加度（30%）を考慮して総合的に評価する。							
<b>教科書</b>							
講義内容に添ったプリントを配付する。 「動物臨床に役立つやさしい免疫学」（谷口明子著）ファームプレス 「動物看護学テキスト」（谷口明子著）ファームプレス 「くわしい犬の病気大図典」（小方宗次編）誠文堂新光社 「くわしい猫の病気大図典」（小方宗次編）誠文堂新光社							
<b>参考書、教材等</b>							
「よく診る犬の疾患・猫の疾患60」（鈴木立雄著）インターズー 「イラストでみる犬の病気」（小野憲一郎他編）講談社 「イラストでみる猫の病気」（小野憲一郎他編）講談社							

授業科目	動物臨床看護学（内科）実習				担当教員 谷口 明子・花田 道子 鈴木 友子
科目英名	Veterinary Technology-Internal Medicine, Student Laboratory				
開講期間	2年次 通年	必/選	必修	単位 2	科目区分 専門応用 [動物看護科目群]
講義目的					
動物臨床看護学（内科）の講義によって、内科的疾患の基礎知識を身に付けながら、併行して内科疾患の看護に必要な実践的知識・技術を修得することを目的とする。					
講義概要					
動物の内科診療に看護師として必須の保定法、臨床検査、治療補助や、特殊動物の取り扱い等の技術を学ぶ。さらに、代表的な症状・所見について病態の理解と看護の観点からの対処方法を学習する。					
授業計画					担当教員
1	入院動物の一般的な看護Ⅰ：一般身体検査（バイタルサインなど）・動物の扱い方				谷口 明子
2	入院動物の一般的な看護Ⅱ：輸液準備および実施の補助・検査準備および実施の補助				谷口 明子
3	妊娠動物と新生子の看護				鈴木 友子
4	幼齢動物の看護				鈴木 友子
5	老齢動物の看護				鈴木 友子
6	疾病動物の栄養と給仕方法				谷口 明子
7	飼鳥の取り扱いと臨床検査				鈴木 友子
8	飼鳥の治療補助				鈴木 友子
9	エキゾチックアニマルの取り扱い方法				鈴木 友子
10	エキゾチックアニマルの臨床検査および治療補助				鈴木 友子
11	皮膚に異常を認める動物の看護				花田 道子
12	糞便に虫卵・虫体を認める動物の看護				鈴木 友子
13	神経症状示す動物の看護				谷口 明子
14	嘔吐、下痢を示す動物の看護				谷口 明子
15	黄疸を示す動物の看護				谷口 明子
16	処方箋と調剤補助				花田 道子
17	伝染性疾患の看護				鈴木 友子
18	眼、耳に異常を認める動物の看護				谷口 明子
19	尿に異常を認める動物の看護				花田 道子
20	呼吸、心拍に異常を認める動物の看護				花田 道子
21	血糖、尿糖に異常を認める動物の看護				花田 道子
22	貧血の鑑別検査				谷口 明子
23	再生・非再生性の貧血を認める動物の看護				谷口 明子
24	白血球増多を認める動物の看護				花田 道子
25	臨床検査総合				鈴木 友子
26	保定法および身体検査総合				谷口 明子
27	診療業務補助総合Ⅰ：電話対応・来院時対応・受付対応・問診の補助				花田 道子
28	診療業務補助総合Ⅱ：診療補助および飼い主への説明指導補助				花田 道子
29	看護総合1				花田 道子
30	看護総合2				花田 道子
履修上の注意					
都合により順序を変更することがある。					
評価方法（評価基準を含む）					
授業への参加度（60%）、レポート（10%）、実技試験ならびに筆記試験（30%）結果を総合的に判断して決める。					
教科書					
動物看護学テキスト（谷口明子 著）（ファームプレス）、くわしい犬の病気大図典（小方宗次編）（誠文堂新光社）、くわしい猫の病気大図典（小方宗次編）（誠文堂新光社） 実習内容に添ったプリントを配布する。					
参考書、教材等					
犬と猫の臨床テクニック（Susan M. Taylor 著 藤永 徹監訳）（インターズー）					

授業科目	動物臨床看護学（外科）					担当教員 武藤 眞・本田 三緒子	
科目英名	Veterinary Technology-Surgery						
開講期間	3年次 前期	必/選	必修	単位	2	科目区分	専門応用 [動物看護科目群]
講義目的							
<p>外科看護に必要な犬や猫が罹患する外科疾患を症例を示しながら解説し、その原因と受傷部位、およびその症状を示すと共に、必要な検査方法ならびに外科的治療法について講義する。同時に、これらの疾患に対してどのような看護が必要となるのかを解説し、実践的な内容を中心に教授する。</p>							
講義概要							
<p>担当教員がPCプロジェクター、VTR、黒板を用いて講義を行う。</p>							
授業計画							担当教員
1 犬と猫の身体的特徴と外科疾患（骨格系と内臓系について、炎症について定義）。							武藤 眞
2 循環器疾患と外科的処置（先天性心疾患、心筋症、血栓塞栓症、フィリア症について解説）。							武藤 眞
3 呼吸器疾患と外科的処置（気管虚脱、血胸、膿胸、肺腫瘍、横隔膜ヘルニアについて解説）。							武藤 眞
4 消化器疾患と外科的処置（食道疾患、胃捻転、腸閉塞、重積、巨大結腸症、肝臓、膵臓疾患の解説）。							武藤 眞
5 泌尿器疾患と外科的処置（膀胱炎、腫瘍、結石症、腎結石について解説）。							本田 三緒子
6 生殖器疾患と外科的処置（異常分娩、子宮蓄膿症、セルトリ細胞腫、前立腺疾患について解説）。							本田 三緒子
7 骨疾患と外科的処置（脱臼、骨折、股関節形成異常、骨肉種について解説）。							武藤 眞
8 皮膚疾患と外科的処置（火傷、凍傷、悪性皮膚腫瘍について解説）。							本田 三緒子
9 耳の疾患と外科的処置（外耳炎、耳血腫について解説）。							本田 三緒子
10 眼疾患と外科的処置（眼瞼、角膜疾患について解説）。							本田 三緒子
11 脳・神経疾患と外科的処置（脳圧の異常、脊髄損傷、椎間板障害について解説）。							武藤 眞
12 麻酔と鎮静の基礎（看護に必要な基本原理について解説）。							本田 三緒子
13 ショックとは（発生のメカニズム、種類、治療、看護について解説）。							武藤 眞
14 感染予防のための抗生物質の基礎知識（種類、使用法のポイントについて解説）。							本田 三緒子
15 外科総合、看護と管理、リハビリテーションについて。							武藤 眞
履修上の注意							
<p>外科看護学では、解剖学や生理学等の基礎学と同時に、内科学、病理学を中心とした疾病の基本知識を教授することが必要であることから、自ら進んで予習・復習を行い質の高い看護技術の習得をめざすこと。</p>							
評価方法（評価基準を含む）							
<p>筆記試験（60%）と授業への参加度（40%）も加味。</p>							
教科書							
<p>特に指定しないが、小動物獣医看護学（上・下）／インターZ o o 社、獣医看護学(上・下)/チクサン出版、JM. Bassert 著 Clinical Textbook for Veterinary Technicians/evolve 社、田中茂男 著 周術期の基本手技マニュアル／インターZ o o 社を参考。</p>							
参考書、教材等							



授業科目	動物臨床看護学（外科）実習				担当教員	武藤 眞・本田 三緒子 尾崎 明恵	
科目英名	Veterinary Technology-Surgery, Student Laboratory						
開講期間	3年次 通年	必/選	必修	単位	2	科目区分	専門応用 [動物看護科目群]
講義目的							
小動物の外科診断及び、治療における基本事項、特に器具、機材、消毒法、滅菌法の手技について実 際の技術ができるように実習を行う。術前～術後管理まで、麻酔、鎮静、鎮痛に関して修得する。							
講義概要							
術前準備、消毒法、滅菌操作、術中のモニター管理、補助業務、各種医療機器の保守・管理について より実践的な内容で実習を行う。							
授業計画						担当教員	
1	外科手術の術前準備①（術者の手洗い消毒、ドレープ準備）実習					本田 三緒子	
2	外科手術の術前準備②（小動物用一般外科器具の取扱方）実習					尾崎 明恵	
3	外科手術の術前準備③（外科手術器具の洗浄、滅菌、消毒）実習					武藤 眞	
4	外科手術の術前準備④（外科手術用リネンの取扱、滅菌、消毒）実習					尾崎 明恵	
5	外科手術の術前準備⑤（術前準備として、小動物の一般身体検査）実習					本田 三緒子	
6	外科手術の術前準備⑥（キャップ、マスク、手洗い、ガウン、グローブ装着）実習					尾崎 明恵	
7	外科手術の術前準備⑦（生体モニター装置、基本麻酔機器に関する）実習					武藤 眞	
8	外科手術の術前準備⑧（術野の消毒法、ドレーピング、輸液装置のセット）実習					武藤 眞	
9	外科手術の術前準備⑨（小動物特殊外科器具、手結び結紮法）実習					尾崎 明恵	
10	外科手術の術前準備⑩（気道確保、気管挿管の関する保定、準備）実習					尾崎 明恵	
11	外科手術の術前準備⑪（麻酔方法、麻酔薬に関する理解）実習					武藤 眞	
12	外科手術の術前準備⑫（縫合材料、方法の関する）実習					武藤 眞	
13	外科手術後管理（ドレッシング材、包帯法、腹帯法）実習					武藤 眞	
14	小動物外科手術見学（犬、猫の去勢手術、不妊手術の見学）実習					尾崎 明恵	
15	外科手術関連総合（トピックを選択し、復習をおこなう）実習					尾崎 明恵	
16	実技試験（手結び、器具結び、包帯法、輸液装置のセット、縫合法基本）					尾崎 明恵	
17	小動物歯科1（チャーティング1、歯科器具）実習					本田 三緒子	
18	小動物歯科2（チャーティング2、スケーリング、ポリッシング）実習					尾崎 明恵	
19	小動物歯科3（犬のスケーリング、ポリッシングの実際見学）実習					尾崎 明恵	
20	X線線の防護及び実務1（フィルム管理及び、関係事務）実習					本田 三緒子	
21	X線線の防護及び実務2（撮影のための保定法、ポジショニング）実習					本田 三緒子	
22	X線線の防護及び実務3（撮影後の現像、定着、フィルムの管理）実習					本田 三緒子	
23	特殊レントゲン（歯科及び、口腔に関するX線撮影、現像）実習					本田 三緒子	
24	超音波診断装置の取扱（原理、保守、管理）実習					本田 三緒子	
25	内視鏡装置の取扱（基本操作、保守、管理、洗浄法）実習					本田 三緒子	
26	剖検実習（食用として合格した健康な豚の内臓：観察）実習					本田 三緒子	
27	救命救急対応（エマージェントの対応、A B C D）実習					武藤 眞	
28	特殊外科疾患（整形外科疾患、腫瘍性疾患等）実習					武藤 眞	
29	外科対応の病院受付業務、入院動物の日常管理に関する実習					武藤 眞	
30	外科総合					武藤 眞	
履修上の注意							
服装及び、衛生面に注意すること。連絡事項に注意すること。							
評価方法（評価基準を含む）							
授業への参加度（50%）、課題レポート（10%）、実技試験（10%）、筆記試験（30%）のより総合的に評 価。							
教科書							
特に指定しないが、『小動物獣医看護学「第3版」上・下巻』著者D・R Lane・B・ Cooper 西田利穂監訳 出版：インターズー 『くわしい犬の病気大図典』誠文堂新光社 小方宗次編 『くわしい猫の病気大図典』誠文堂新光社 小方宗次編著を参考。							
参考書、教材等							
小動物外科看護 Diane L・Tracy編、安川明男監訳、出版：ファームプレス							

授業科目	動物臨床看護学（総合）				担当教員	若尾 義人・小方 宗次 菅野 晶子	
科目英名	Veterinary Technology-Comprehensive						
開講期間	4年次 前期	必/選	選択	単位	2	科目区分	専門応用 [動物看護科目群]
<b>講義目的</b>							
本講義は、3年次までに個々に教授されてきた動物臨床看護関連科目を1つにまとめ、実際の動物看護に必要な知識や考え方を総合的に教授することを目的とする。							
<b>講義概要</b>							
<p>（若尾）看護に必要な事項を、疾病の病態生理学的角度から解説し、疾病に移行する過程、重篤化した場合や年齢的な差を考慮した看護について理解させる。さらに、動物の生命とヒトの生命を同一視化する社会的背景の中で終末獣医療における看護師の役割の重要性について概説する。</p> <p>（小方）3年次までに教授された内容を土台に、より専門的に病態、臨床病理、診断、治療、看護を相互に関連づけて総合的に概説する</p> <p>（菅野）獣医臨床の現場で多く経験する症状についてアプローチの方法、必要とする検査項目、鑑別方法、診断、処置について総合的に概説する。</p>							
<b>授業計画</b>						<b>担当教員</b>	
1 発病の病態生理 2 病気の重篤度と看護 3 外傷性疾患と看護 4 若齢および老齢動物の看護 5 終末獣医療と看護師の役割 6 神経疾患に対する看護 7 皮膚疾患に対する看護 8 新生子に対する看護 9 老齢動物に対する看護 10 内分泌疾患に対する看護 11 下痢を示す疾患の特徴と看護 12 嘔吐を示す疾患の特徴と看護 13 血尿を示す疾患の特徴と看護 14 再生性貧血を示す疾患の特徴と看護 15 非再生性貧血を示す疾患の特徴と看護						若尾 義人 若尾 義人 若尾 義人 若尾 義人 若尾 義人 小方 宗次 小方 宗次 小方 宗次 小方 宗次 小方 宗次 菅野 晶子 菅野 晶子 菅野 晶子 菅野 晶子 菅野 晶子	
<b>履修上の注意</b>							
都合により順序を変更することがある。 講義の進行状況により前の時間に配付した資料を必要とすることがあるため持参すること。							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
授業への参加度（40%）、レポート（10%）、学期末試験結果（50%）を総合して評価する。							
<b>教科書</b>							
特に定めない。必要に応じて資料を配付し、資料に基づいて授業を進める。							
<b>参考書、教材等</b>							
よく診る犬の疾患・猫の疾患（鈴木立雄、interzoo）、獣医内科学・小動物編（日本獣医内科学アカデミー、文永堂出版）、獣医看護学・上、下巻（山村穂積監訳、チクサン出版社）、小動物の臨床病理学マニュアル（日本獣医臨床病理学会、学窓社）、Clinical Textbook for Veterinary Technicians (J. M. Bassert, et. al, Saunders)							

授業科目	動物臨床看護学（総合）実習				担当教員	若尾 義人・小方 宗次 菅野 晶子	
科目英名	Veterinary Technology-Comprehensive,Student Laboratory						
開講期間	4年次 前期	必/選	選択	単位	1	科目区分	専門応用 [動物看護科目群]
<b>講義目的</b>							
本講義は、3年次までに個々に教授された動物看護科目を1つにまとめ、実際の動物看護に必要な知識を総合的に教授することを目的に行う。							
<b>講義概要</b>							
看護に必要な事項を、生体の生理機能から解説し、疾病に移行する過程、さらにその患者を内科的あるいは外科的に看護する、一つの流れを理解させると同時に、看護に関わる関連項目の必要性について認識させる。							
<b>授業計画</b>						<b>担当教員</b>	
1 実験動物に対する看護師の役割						小方 宗次	
2 外科疾患症例に対する看護－特定疾患症例に対する看護－						若尾 義人	
3 外科疾患症例に対する看護－感染症例に対する看護－						若尾 義人	
4 内科疾患症例に対する看護－特定疾患症例に対する看護－						小方 宗次	
5 内科疾患症例に対する看護－感覚器疾患症例に対する看護－						小方 宗次	
6 皮膚疾患に対する看護						小方 宗次	
7 循環器疾患に対する看護						若尾 義人	
8 整形外科疾患に対する看護						若尾 義人	
9 動物看護と法律						小方 宗次	
10 各種モニターに対する看護師の役割						若尾 義人	
11 新生仔の看護						菅野 晶子	
12 高齢動物の看護						菅野 晶子	
13 リハビリテーションと看護						菅野 晶子	
14 ICUにおける動物看護						若尾 義人	
15 ターミナルケアと動物看護						菅野 晶子	
<b>履修上の注意</b>							
これまでの動物看護に関わる講義の総集としての意味を良く理解すること。							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
小テスト（10%）、レポート（10%）の提出と同時に、授業への参加度（50%）を考慮しながら各学期末に筆記試験（30%）を実施し、総合点60点以上を合格と評価する。							
<b>教科書</b>							
特に指定はしない							
<b>参考書、教材等</b>							
1) 山村穂積監修、動物看護学（上・下）、チクサン出版社							
2) 日本動物看護学会（編）、動物看護学（総論・各論）、日本動物看護学会							

授業科目	動物臨床検査学				担当教員	岡崎 登志夫・八木原 怜子	
科目英名	Animal Clinical Examination Study						
開講期間	3年次 前期	必/選	必修	単位	2	科目区分	専門応用 [動物看護科目群]
<b>講義目的</b>							
<p>動物病院では、動物の健康状態を把握したり、診断、治療を適切に行ったりするために、さまざまな臨床検査が実施される。各種検査項目の方法や臨床的意義などの基礎的事項を理解し、検査の目的を知った上で検査を実行し、得られたデータが適切なものであるかどうか、自ら判断できる能力を養う。さらに、動物の症状やその他の臨床検査データなどから、診断に必要な検査データが何であるか、自ら考えながら検査に取り組めるようにする。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>動物病院などで実施されるさまざまな種類の臨床検査項目の測定原理や方法、臨床的意義について学習する。さらに、実際に得られたさまざまな臨床検査データから、動物のからだの状態がどうなっているかを知るための解析法について学習する。</p>							
<b>授業計画</b>						<b>担当教員</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 動物臨床検査の目的</li> <li>2 動物臨床検査項目の種類</li> <li>3 検査試料の採取法</li> <li>4 血液検査 その1 血球</li> <li>5 血液検査 その2 凝固</li> <li>6 免疫血清学・生化学検査</li> <li>7 尿検査 その1 沈渣</li> <li>8 尿検査 その2 生化学検査</li> <li>9 糞便検査</li> <li>10 皮膚検査</li> <li>11 耳垢・膿垢検査</li> <li>12 微生物検査</li> <li>13 生検、細胞診</li> <li>14 その他の特殊検査（内分泌、薬毒物検査等）</li> <li>15 定期試験・レビュー</li> </ol>						岡崎 登志夫 岡崎 登志夫 八木原 怜子 岡崎 登志夫 岡崎 登志夫 岡崎 登志夫 岡崎 登志夫 岡崎 登志夫 岡崎 登志夫 八木原 怜子 八木原 怜子 八木原 怜子 八木原 怜子 岡崎 登志夫 岡崎 登志夫	
<b>履修上の注意</b>							
動物生理学や動物生化学等の基礎科目をきちんと理解しておく必要がある。							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
試験あるいはレポート、授業への参加度（小テストを含む）から総合的に評価する。それらの割合は、試験あるいはレポート 80%、授業への参加度（小テストを含む） 20%とする。							
<b>教科書</b>							
なし（プリント使用）。							
<b>参考書、教材等</b>							
適宜、授業中に紹介する。							

授業科目	動物臨床検査学実習					担当教員 岡崎 登志夫・菅野 晶子 宮井 紗弥香
科目英名	Animal Clinical Examination Study-Student Laboratory					
開講期間	3年次 通年	必/選	必修	単位	2	科目区分 専門応用 [動物看護科目群]
講義目的	<p>動物臨床検査学で学んだ検査を自分ひとりで実施できる技術を修得することを目標に指導していく。各検査項目を基礎から応用まで段階的な内容にし、理解を深めるとともに自分なりに工夫する意欲を持たせる。また、検査技術の修得だけでなく、臨床での検査に係わる器具器材の取扱いや正確な検査結果を得るための検体の取扱い、感染を防止の意識を持つことも重要であるため、これらの必要性を認識させることにも重点をおき指導していく。</p>					
講義概要	<p>近年、動物看護師には高度な臨床検査の知識や技術が求められている。このため、各検査についての目的や材料の採取方法と取扱い、試料作製方法、検査手技について解説するとともに、得られた検査結果から異常を見つけることができるよう参考正常値や臨床的意義についても指導する。</p>					
授業計画						担当教員
1	検査機器の基本操作					岡崎・宮井
2	血液検査（赤血球系）					岡崎・宮井
3	血液検査（白血球系）					岡崎・宮井
4	血液塗抹標本の観察方法					岡崎・宮井
5	血液塗抹標本における異常所見					岡崎・宮井
6	血液凝固系検査（血小板）					岡崎・宮井
7	血液凝固系検査（凝固系因子）					岡崎・宮井
8	血漿蛋白の検査					岡崎・宮井
9	輸血する際の検査（血液型、交差適合試験）					岡崎・宮井
10	血液化学検査					岡崎・宮井
11	尿検査					岡崎・宮井
12	糞便検査					岡崎・宮井
13	標本の観察（哺乳類の組織）					岡崎・宮井
14	標本の観察（寄生虫）					岡崎・宮井
15	皮膚科検査					岡崎・宮井
16	耳垢検査					岡崎・宮井
17	微生物検査（細菌）					岡崎・宮井
18	微生物検査（真菌）					岡崎・宮井
19	微生物検査（薬剤感受性試験）					岡崎・宮井
20	臨床での血液検査総論					岡崎・宮井
21	貯留液の検査					菅野・宮井
22	細胞診					菅野・宮井
23	スクリーニング検査					菅野・宮井
24	臨床での尿検査総論					菅野・宮井
25	臍垢検査					菅野・宮井
26	内分泌疾患の検査					菅野・宮井
27	臨床での糞便検査総論					菅野・宮井
28	検査センターへの検体の出し方					菅野・宮井
29	定期健康診断と術前検査					菅野・宮井
30	海外渡航に関する検査					菅野・宮井
履修上の注意	各検査の目的や手技、使用する機器の種類や特徴、臨床的意義等を整理し、理解しておく必要がある。					
評価方法（評価基準を含む）	実技試験 40%、実習レポート 40%、実習活動への参加度 20%の割合で総合的に評価する。					
教科書	なし（プリント使用）					
参考書、教材等	授業中に紹介する。					

授業科目	動物医療機器				担当教員	本田 三緒子・鈴木 友子	
科目英名	Equipment Theory for Veterinary Medicine						
開講期間	2年次 後期	必/選	必修	単位	2	科目区分	専門応用 [動物看護科目群]
講義目的							
<p>診断、検査、治療および予防に利用される動物医療機器はますます高度化しており、動物医療従事者である動物看護師が様々な医療機器に対して、原理や仕組みを理解し、使用方法を身につけておく必要があり、複雑かつ精密な機器類の点検管理を実行することも要求されている。これらを踏まえ、法令遵守のもと適性かつ安全に、種々の動物医療機器を取り扱えるようになることを目的とする。</p>							
講義概要							
<p>実際に動物医療の現場で使用されている主な機器類を紹介するだけでなく、具体的に学内の機器類を例に挙げ、使用前の準備から基本的な操作方法および使用後の片付け等一連の作業も学ぶとともに、他の授業や実習とも関連付けながら、動物医療機器の臨床応用を検討していく。</p>							
授業計画						担当教員	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 総論（医療機器の点検管理について）</li> <li>2 滅菌・消毒に関する機器類について</li> <li>3 循環器に関する機器類について</li> <li>4 呼吸器に関する機器類について</li> <li>5 モニター機器について</li> <li>6 手術用機器について</li> <li>7 麻酔機器について</li> <li>8 超音波診断装置について</li> <li>9 眼科検査機器について</li> <li>10 歯科機器について</li> <li>11 形成外科機器について</li> <li>12 内視鏡について</li> <li>13 血圧計、体温計について</li> <li>14 電気メス、レーザー治療器について</li> <li>15 医療機器と環境（バイオハザード対策）・関連法規</li> </ol>						本田 三緒子 鈴木 友子 本田 三緒子 鈴木 友子 鈴木 友子 本田 三緒子 本田 三緒子 本田 三緒子 本田 三緒子 本田 三緒子 本田 三緒子 鈴木 友子 鈴木 友子 本田 三緒子	
履修上の注意							
<p>医療機器の取り扱いには注意事項等を守り、十分注意すること。</p>							
評価方法（評価基準を含む）							
<p>授業への参加度（40%）および定期試験（60%）の総合評価</p>							
教科書							
<p>『医療機器の基礎知識 第2版』 薬事日報社 財団法人医療機器センター編          『わかって身につくバイタルサイン』 学研メディカル秀潤社 田中裕二編</p>							
参考書、教材等							
<p>特に指定なし</p>							

授業科目	動物歯科学				担当教員	林 一彦	
科目英名	Veterinary dentistry						
開講期間	3年次 前期	必/選	選択	単位	2	科目区分	専門応用 [動物看護科目群]
<b>講義目的</b>							
<p>動物の歯科基礎医学，歯科疾患ならびに口腔疾患について十分に習熟したうえで，それら疾患の治療法や処置方法ならびに治療に使用する器具や生体材料について理解する。また，歯科疾患や口腔疾患への理解に基づいて，歯科疾患に対する予防のための理論と実際の処置方法・手順や使用する器材に関する知識や技術を習得することを目的とする。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>口腔ならびに歯の発生，構造，機能について簡潔に説明し，口腔の疾患ならびに歯科疾患の種類と病態，それらの治療方法および使用する器材や生体材料について概説する。これらのことをよく理解したうえで，歯科予防処置の理論，使用する器具・器材の準備，実際の手技と手順，使用した器具・器材の後始末とメンテナンスなどの理論と実際の具体的な方法について講義を行う。</p>							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 動物歯科学概論</li> <li>2 動物の歯の発生，歯と口腔の構造と機能</li> <li>3 歯と歯周組織</li> <li>4 動物に認められる歯ならびに口腔の疾患</li> <li>5 動物と人の比較歯科医学</li> <li>6 動物の歯科疾患の治療および歯科予防処置と動物看護師。その補助と介助</li> <li>7 動物の歯科治療と歯科生体材料</li> <li>8 歯科生体材料の取り扱い方</li> <li>9 歯周病の発症・進展と歯周病予防の理論</li> <li>10 歯周病の予防と動物看護師の関わり方</li> <li>11 口腔ケア（プロフェッショナルケア）の種類と方法</li> <li>12 歯周病予防（スケーリング）に使用する器具・器材</li> <li>13 歯周病予防（スケーリング）の手技と手順</li> <li>14 スケーリングに使用する器具・器材の後始末とメンテナンス</li> <li>15 口腔ケア（ホームケア）の意義とその指導</li> </ol>							
<b>履修上の注意</b>							
<p>動物歯科学は基本的には臨床科目なので，口腔の構造（形態学，組織学）や機能（生理学）を十分に理解したうえで，受講することが望ましい。</p>							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
<p>授業への参加度（40％）を参考にし，学期末試験（60％）により評価することを原則とする。</p>							
<b>教科書</b>							
<p>なし（適宜プリントを配布する）</p>							
<b>参考書、教材等</b>							
<p>講義の際に紹介する。</p>							

授業科目	動物歯科学実習				担当教員	林 一彦	
科目英名	Practice of veterinary dentistry						
開講期間	3年次 後期	必/選	選択	単位	1	科目区分	専門応用 [動物看護科目群]
<b>目的</b>							
<p>歯科治療や歯科予防処置を行うときは、歯と口腔の構造および機能についてしっかりと認識したうえで、歯や口腔疾患の治療法や使用する器具についての知識を習得し、歯科治療後のナーシングや口腔のケアについて理解を深め役立てることが重要である。歯科治療や口腔ケアに関する器具等の準備とメンテナンス、ならびに治療に必要な生体材料使用の際の補助や歯科予防処置を行う際の介助等ができるようになることを目的とする。</p>							
<b>概要</b>							
<p>まず、歯と口腔の構造・機能について肉眼観察および顕微鏡観察により知識を深める。それらの知識に基づいて、歯科予防処置を行う際に歯、歯髄、その他の口腔組織に対して為害作用のない処置の仕方について学ぶ。一方、歯科予防処置に必要な器具や器材の準備、使用法、後始末、メンテナンスについて実技として学び、また、治療の際の歯科生体材料の取り扱いについて熟知してその補助ができるよう実地に学ぶ。</p>							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 犬・猫の歯列ならびに顎骨の観察</li> <li>2 犬・猫の歯牙，肉眼観察</li> <li>3 歯の組織構造（顕微鏡観察）</li> <li>4 口腔の組織構造（顕微鏡観察）</li> <li>5 歯の病理・病態学（顕微鏡観察）</li> <li>6 歯周病予防に使用する器具・器材の構造と理論</li> <li>7 歯周病予防（スケーリング）の手技と手順</li> <li>8 超音波スケーラーの構造，理論，使用方法</li> <li>9 マニュアルスケーラー（シクルタイプ）の構造と使用方法</li> <li>10 マニュアルスケーラー（キュレットタイプ）の構造と使用方法</li> <li>11 歯周病予防に使用する器材のメンテナンスとスケーラーのシャープニング</li> <li>12 口腔ケア（ホームケア）に使用する器材の構造と使用方法</li> <li>13 歯科治療に使用される器材とその使用方法</li> <li>14 歯科生体材料の使用法（セメント類の練和・混和）</li> <li>15 総合実習（まとめ）</li> </ol>							
<b>履修上の注意</b>							
<p>実習は授業で学んだことを実際に体得する教科である。理論に基づいて、実技・演習を行い実際に経験することにより理解度を深めることが重要である。</p>							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
<p>実習であるから、実習への参加度（40%）と実習試験（60%）で評価する。</p>							
<b>教科書</b>							
<p>毎回，プリントを配布する。</p>							
<b>参考書、教材等</b>							
<p>歯科治療 Q&amp;A, 林 一彦 監訳, インターズー</p>							



授業科目	ヒトと動物の共通感染症					担当教員	内田 明彦・鈴木 友子
科目英名	Zoonosis						
開講期間	3年次 後期	必/選	必修	単位	2	科目区分	専門応用 [動物看護科目群]
<b>講義目的</b>							
<p>愛玩動物は人々にとってかけがいのないものであり、ヒトを癒し介助まで差し伸べてくれる。しかし、時にはこれらの動物からヒトへの感染症（ヒトと動物の共通感染症）が起こることがある。この講義では重要なヒトと動物の共通感染症を理解し、動物看護師として適切な認識を深めることを目的とした講義を行う。ヒトと動物の共通感染症は寄生虫、細菌、ウイルスおよびプリオンまで多岐にわたり、それぞれの病因、疫学、診断、治療および予防について理解し、発生時に対処できるように理解を深めることを目標にする。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>総論ではヒトと動物の共通感染症の定義、種類と疫学などを学ぶと共に、環境の変化やグローバル化に伴って危惧されている新興・再興感染症についても解説する。各論では寄生虫、真菌、細菌、クラミジア、リケッチア、ウイルスおよびプリオンによるヒトと動物の共通感染症について、病因、感染様式、疫学、診断、治療および予防について講義を展開する。また、動物だけではなくヒトの症状や予防などについても医学的見地から講義を進めていく。</p>							
<b>授業計画</b>							<b>担当教員</b>
1 総論：ヒトと動物の共通感染症の定義、種類および新興・再興感染症について							内田 明彦
2 寄生虫：広東住血線虫症、犬糸状虫症、肺吸虫症、住血吸虫症など							内田 明彦
3 寄生虫：肝蛭症、肝吸虫症、包虫症、マンソン孤症虫、顎口虫症など							内田 明彦
4 寄生原虫：トキソプラズマ症、トリパノソーマ症、リーシュマニア症など							内田 明彦
5 真菌：カンジダ症、クリプトコックス症、アスペルギルス症など							内田 明彦
6 細菌：炭疽、ペスト、結核、パスツレラ症、サルモネラ症など							鈴木 友子
7 細菌：カンピロバクター症、レプトスピラ症、ライム病、豚丹毒など							鈴木 友子
8 細菌：鼠咬症、野兎病、鼠咬症、ブルセラ症など							内田 明彦
9 リケッチャなど：恙虫病、オウム病、猫ひっかき病など							鈴木 友子
10 ウイルス：狂犬病、サル痘、Bウイルス感染症など							鈴木 友子
11 ウイルス：日本脳炎、黄熱、動物由来インフルエンザ、ウエストナイル熱、ウマ脳炎など							内田 明彦
12 ウイルス：リフトバレー熱、エボラ出血熱、クリミア・コンゴ熱、ダニ脳炎など							鈴木 友子
13 ウイルス他：マールブルグ病、ラッサ熱、SARS、MERS、プリオン病など							内田 明彦
14 ヒトと動物の共通感染症を媒介する衛生動物							内田 明彦
15 ヒトと動物の共通感染症の防疫、検査および発生したときの対策と届け出							内田 明彦
<b>履修上の注意</b>							
寄生虫学、微生物学を履修しておくとう理解しやすい。							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
レポート提出（30%）と期末試験（70%）で評価する。							
<b>教科書</b>							
なし							
<b>参考書、教材等</b>							
勝部泰次監修 獣医公衆衛生学 学窓社							
神山著 これだけは知っておきたい人獣共通感染 地人書館							
岡部著 感染症から身を守る本 KAWADE 夢新書							

授業科目	動物公衆衛生学					担当教員	本田 三緒子
科目英名	Animal Public Health						
開講期間	2年次 前期	必/選	必修	単位	2	科目区分	専門応用 [動物看護科目群]
<b>講義目的</b>							
<p>将来、動物に関連する職業を選択する際に公衆衛生の向上をめざす社会的な役割を率先して果たせる人材育成を目標として学ぶ。動物の健康に影響を与える要因についてヒトの公衆衛生と対比しながら、予防衛生に関する実践力を養う。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>伴侶動物との生活が密接さを増す現代、「ヒトと動物の共生をめざす」公衆衛生学的なアプローチとして、集団の抱える問題や問題発生予防について、観察、推量する能力を求める。わが国を取り巻く物流や市場の急速なグローバル化はヒトのみならず伴侶動物の飼育環境にも大きく影響しているため、最新のデータをもとに、ヒトと動物が安心して生活できる知識を身につける。</p>							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 公衆衛生とは</li> <li>2 動物公衆衛生学と公衆衛生の歴史</li> <li>3 疫学と予防衛生（動物集団における感染と流行、予防について具体的に学ぶ）</li> <li>4 食品と衛生 1（飲食に起因する危害とは）</li> <li>5 食品と衛生 2（食品の安全性、表示、包装に関する）</li> <li>6 食中毒と食品媒介感染症（食中毒と食品媒介感染症、慢性中毒）</li> <li>7 食品添加物、飼料添加物、食品の保存について</li> <li>8 畜産物と加工品（残留汚染物質、農薬、殺虫剤、抗生物質等）</li> <li>9 環境衛生について（健康を守り、快適な生活をおくるには）</li> <li>10 水の衛生（安全でおいしい水）</li> <li>11 下水・廃棄物（水質汚濁防止、一般廃棄物と産業廃棄物について）</li> <li>12 公害（大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音、振動、地盤沈下、悪臭：動物関連苦情）</li> <li>13 放射線汚染（環境汚染や被爆事故の動物集団への影響について）</li> <li>14 衛生害虫と衛生動物（不快害虫、衛生害虫、鼠属、へび、蜘蛛等）</li> <li>15 関連法規（狂犬病予防法、家畜伝染病予防法、動物愛護に関する法令、特定外来生物被害防止法等）</li> </ol>							
<b>履修上の注意</b>							
なし							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
授業への参加度（30%）、課題レポート（10%）、試験（60%）により総合的に評価する。							
<b>教科書</b>							
獣医公衆衛生学（監修 勝部泰次）学窓社							
<b>参考書、教材等</b>							
なし							

授業科目	微生物学				担当教員	池田 純子	
科目英名	Microbiology						
開講期間	3年次 前期	必/選	選択	単位	2	科目区分	専門応用 [動物看護科目群]
<b>講義目的</b>							
微生物とは何か、細菌、真菌、ウイルスなどの特徴を知るだけでなく、衛生学にもつなげるべく、病原微生物による感染の成り立ちを把握し、様々な感染症を予防するためにどのような対策が実際になされているのかを知り、また、臨床において重要な消毒や滅菌方法も学び、微生物コントロールに対する動物看護師の役割も考える。							
<b>講義概要</b>							
教科書を利用し、講義を行う。また、随時プリント等資料を配布したり、視聴覚教材も利用し、新たな知見を付加する。							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 はじめに</li> <li>2 微生物とは（微生物の生物界における位置・病原微生物とは）</li> <li>3 感染と発症（感染症の経過・感染症の種類）</li> <li>4 感染の成り立ち（感染源・感染経路・感染防御能）</li> <li>5 細菌① 細菌の性状・構造（細菌の大きさ・細菌の基本構造・細菌の特殊構造）</li> <li>6 細菌② 細菌の観察・増殖（染色法・細菌の栄養素・細菌の培養）</li> <li>7 細菌③ 細菌の分類（グラム陽性球菌・桿菌、グラム陰性球菌・桿菌、その他）</li> <li>8 真菌（真菌の形態・真菌の増殖様式・真菌の分類）</li> <li>9 原虫（原虫の形態・原虫の分類）</li> <li>10 ウイルス① ウイルスの性状（ウイルスの形態と構造・ウイルスの分類・ウイルスの増殖）</li> <li>11 ウイルス② ウイルス感染の予防法（ワクチン）</li> <li>12 化学療法・各種動物の感染症（抗菌剤・薬剤耐性、犬猫鳥兎猿の感染症）</li> <li>13 洗浄、消毒、滅菌（消毒方法・消毒剤の種類と特徴・滅菌方法・院内感染とその対策）</li> <li>14 感染症の診断（病原微生物の分離と同定・血清免疫学診断）</li> <li>15 感染症の予防と防疫</li> </ol>							
<b>履修上の注意</b>							
微生物学の講義の前に、細菌・ウイルスの生物界での位置づけ、生態、形態学的な特徴を理解しておくこと。また、微生物学は生物学、生理・生化学および免疫学などがベースとなるので、2年生までの授業を履修しておくこと。							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
授業への参加度（10%）および定期試験あるいはレポート提出（90%）での総合評価							
<b>教科書</b>							
動物看護のための小動物衛生学 著者/岡本有史 ファームプレス							
<b>参考書、教材等</b>							
獣医微生物学 第2版 監修/見上彪 文永堂出版							

授業科目	血液学				担当教員	岡崎 登志夫	
科目英名	Hematology						
開講期間	3年次 後期	必/選	選択	単位	2	科目区分	専門応用 [動物看護科目群]
<b>講義目的</b>							
動物の臓器や組織の維持にとって必要な血液の成分や血球の特徴、その機能や役割を学習し、血液データと疾病とのかかわり、血液データ変動の臨床的意義などについて理解を深め、これら血液に関する科学的知識を基礎とした適切な動物看護能力の育成を目的とする。							
<b>講義概要</b>							
血液に対する人々の認識の歴史的変遷や動物血液の起源や特徴について学習し、血液を構成する血漿成分や血球の種類と役割、血液凝固と線溶などの果たす役割やそのメカニズムを理解する。これら血液に関する基礎的理解のうえに、疾患と血液データの関係について学習し、診断の根拠について明らかにする。							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 血液に関する認識の歴史的変遷やさまざまな動物の血液の起源や特徴</li> <li>2 血液循環</li> <li>3 血液成分：血漿蛋白質成分の種類と役割</li> <li>4 血液細胞の種類と役割</li> <li>5 赤血球形態の特徴と赤血球の成熟過程</li> <li>6 赤血球成分・ヘモグロビンの構造、代謝、機能</li> <li>7 白血球形態の特徴と白血球の成熟過程</li> <li>8 白血球の機能、白血球の接着機構・セレクチンとセレクチンリガンド</li> <li>9 血小板形態の特徴と血小板の成熟過程</li> <li>10 血栓形成と血液凝固のメカニズム</li> <li>11 線溶のメカニズム</li> <li>12 血液疾患と血液学の進歩</li> <li>13 貧血の原因と診断</li> <li>14 白血病の原因と診断</li> <li>15 血小板異常と凝固異常</li> </ol>							
<b>履修上の注意</b>							
動物看護には動物の健康状態を科学的に把握することが不可欠であるが、血液が各臓器や組織を結びつけるターミナルの役割を担っており、血液が健康のバロメーターであることを理解してもらいたい。							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
試験あるいはレポート（80%）、授業への参加度（20%）から総合的に評価する。							
<b>教科書</b>							
「血液検査学」古沢新平、磯部淳一（医学書院）。							
<b>参考書、教材等</b>							
「動物看護のための小動物臨床検査」笠原和彦（ファームプレス） 教材は講義ごとにプリントを配布する。							

授業科目	寄生虫学				担当教員	内田 明彦	
科目英名	Parasitology						
開講期間	3年次 前期	必/選	選択	単位	2	科目区分	専門応用 [動物看護科目群]
<b>講義目的</b>							
<p>動物看護学における寄生虫学（parasitology）は、コンパニオンアニマルの健康に関わる寄生虫を扱い、それらが関与する疾病の発生機序を明らかにすることを目的とする。体内に寄生する原虫、吸虫、条虫、線虫、さらに体表に寄生するノミやダニなどを扱い、免疫学など医学的ベースをもとに講義を展開していく。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>身近なコンパニオンアニマルの寄生虫および人獣共通寄生虫を中心に、その形態、発育環、検査法などについて講述し、疾病の発生機序を明らかにする。予防や診断治療などにも言及し、実践に役立つような講義を行う。</p>							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 総論（1）（寄生虫とは、寄生虫と宿主の関係、寄生虫の生活史）</li> <li>2 総論（2）（寄生虫の感染経路、寄生部位と病害作用、寄生虫と免疫）</li> <li>3 原虫類の概要</li> <li>4 原虫（トリパノソーマ、トキソプラズマ、ランブル鞭毛虫、アメーバ、トリコモナス等）</li> <li>5 蠕虫類の概要</li> <li>6 吸虫（総説、肝吸虫、肺吸虫、住血吸虫等）</li> <li>7 条虫（総説、裂頭条虫、包虫、囊虫等）</li> <li>8 線虫（総説、回虫、鞭虫、鉤虫、糸状虫等）</li> <li>9 イヌ、ネコの寄生虫（バベシア、イヌネコ回虫、瓜実条虫、イヌ糸状虫等）</li> <li>10 ウサギ等ペットおよびエキゾチックアニマルの寄生虫</li> <li>11 人獣共通寄生虫症（クリプトスポリジウム、アメーバ赤痢、幼虫移行症、有鉤条虫、疥癬等）</li> <li>12 衛生動物（蚊、ダニ、ノミ、ヘビ等）</li> <li>13 寄生虫の診断</li> <li>14 寄生虫検査法（I）</li> <li>15 寄生虫検査法（II）</li> </ol>							
<b>履修上の注意</b>							
<p>基礎的な内容があるので生物学、生化学、免疫学などの勉強をしておくこと講義が理解しやすい。</p>							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
<p>レポートでの評価（30%）と、学期末の定期試験の成績（70%）により評価する。</p>							
<b>教科書</b>							
<p>内田他 動物寄生虫学 インターズー</p>							
<b>参考書、教材等</b>							
<p>内田明彦・黄鴻堅 図説獣医寄生虫学 改訂第3版（Mac/Win 対応 CD-ROM）メディカグローブ</p>							

授業科目	小動物放射線学				担当教員	谷口 明子	
科目英名	Small Animal Radiology						
開講期間	3年次 後期	必/選	必修	単位	2	科目区分	専門応用 [動物看護科目群]
<b>講義目的</b>							
<p>動物看護師は放射線を扱う現場で獣医師の補助を行う機会が多い。しかしながら放射線は肉眼で見えない、少量被曝では全くその被害を体感しないという特性を持つ。安全にかつ不要な不安感を持たずに作業を補助するため、基本的な知識を身につけさせ、放射線は使い方しだいでは非常に有用な治療方法にもなっているという獣医療の現状も多数の臨床例を示して理解させる。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>放射線についての基本的な性質を学び、診断に適したレントゲン写真を撮影するため、その原理や、諸条件が写真に及ぼす影響について学ぶ。同時に、放射線取扱者として安全に作業するため、放射線が生体に及ぼす影響、また効果的な被曝量減少の方法について学ぶ。基本的知識を身につけた上で現在多様化している放射線を使用した診断・治療装置の扱い方をメンテナンスも含め学ばせる。学生の興味を持続・学ぶ目的の明確化をはかるため、多数の実症例・動画を交えて学ぶ。</p>							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 レントゲン写真の原理Ⅰ：日常の中の放射線の仲間と一般的な性質</li> <li>2 レントゲン写真の原理Ⅱ：獣医療における放射線の性質の利点と問題点</li> <li>3 レントゲン写真の原理Ⅲ：放射線照射により被写体が可視像になる理由</li> <li>4 レントゲン写真の原理Ⅳ：良いレントゲン写真（診断に適した）の条件</li> <li>5 生体に及ぼす影響Ⅰ：臓器による感受性の違い、胎児の感受性など</li> <li>6 生体に及ぼす影響Ⅱ：放射線従事者の安全管理、関連法規、</li> <li>7 生体に及ぼす影響Ⅲ：感受性の高い器官、晩発障害</li> <li>8 生体に及ぼす影響Ⅳ：環境・体内被曝など：国内外の放射線関連事故を例に挙げて。</li> <li>9 生体に及ぼす影響Ⅴ：免疫系に及ぼす影響</li> <li>10 撮影技術Ⅰ：撮影に用いる道具の基本構造と機能・取り扱い上の注意点</li> <li>11 撮影技術Ⅱ：撮影条件、現像法：用手現像の方法とその利点と欠点</li> <li>12 撮影技術Ⅱ：撮影条件、自動現像機の扱い方とその利点と欠点</li> <li>13 撮影技術Ⅲ：撮影条件—保定法—正しい保定法と不適切な保定法の実例</li> <li>14 撮影技術Ⅲ：造影法—造影剤、陽性造影、陰性造影、二重造影</li> <li>15 特殊撮影法Ⅰ：器官別造影法：消化管造影・膀胱造影・脊髄造影など</li> </ol>							
<b>履修上の注意</b>							
特に無							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
授業への参加の程度（20%）、課題レポートおよび定期試験（80%）により総合的に評価する							
<b>教科書</b>							
配布プリント							
<b>参考書、教材等</b>							
<p>獣医臨床X線と超音波の撮影技術マニュアル（インターズー）  実証例のレントゲン写真や作業手順の動画を多数使用</p>							

授業科目	動物臨床繁殖学				担当教員	川上 静夫	
科目英名	Theriogenology I						
開講期間	3年次 後期	必/選	選択	単位	2	科目区分	専門応用 [動物看護科目群]
<b>講義目的</b>							
臨床繁殖の基礎的領域である繁殖生理学に重点をおき、各種動物の生殖器の発生、分化から分娩までの生殖現象について学習する。							
<b>講義概要</b>							
動物の生殖の仕組みや生殖現象を理解し、飼養管理や臨床面の問題に少しでも対処、応用できるようにすることは重要である。担当者が野外で多く遭遇した臨床応用的な事例や問題など講義の中に多く取り入れ、動物看護師の臨床に繋がる学習をする。							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 生殖器の発生と分化 性腺の発生、分化と副生殖器の発生</li> <li>3 雄性生殖器（精巣、副生殖器、副生殖腺）</li> <li>4 雌性生殖器（卵巣、副生殖器、副生殖腺）</li> <li>5 精子、卵子形成と卵胞の発育</li> <li>6 乳腺（基本構造）</li> <li>7 精子と卵子の構造</li> <li>8 精子の生理、精液の性状と成分</li> <li>9 生殖機能のホルモン支配、生殖機能系のホルモン、発情周期のホルモン支配</li> <li>10 性成熟と発情（生殖）周期</li> <li>11 発情周期に伴う生殖器の変化と性行動</li> <li>12 人工授精、胚移植と季節外繁殖</li> <li>13 受精</li> <li>14 着床</li> <li>15 妊娠の生理、分娩</li> </ol>							
<b>履修上の注意</b>							
一回一回の授業の積み重ねで理解力も増すので、欠席せずに、授業に臨んでほしい。授業中、無駄口は聞かないことです。							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
授業への参加度ならびに授業態度とレポート提出（50%）および定期試験（50%）による総合評価とする。							
<b>教科書</b>							
教科書の代わりとして担当者作成の講義資料を配布する。適宜、スライドも使用する。							
<b>参考書、教材等</b>							
必要に応じて適宜、追加資料を配布する。							

授業科目	小動物栄養学				担当教員	大島 誠之助	
科目英名	Small Animal Nutrition						
開講期間	3年次 前期	必/選	必修	単位	2	科目区分	専門応用 [動物看護科目群]
<b>講義目的</b>							
<p>本講義では主に犬と猫の栄養について考える。犬と猫は同じ食肉目に属するが、犬は長い進化の過程で雑食化し、人間との共生によって雑食化は一層進んだ。一方、家畜化の歴史が浅い猫は今に至るまで厳格な肉食性を維持している。したがって、犬と猫の栄養を学ぶことは雑食動物と肉食動物の栄養を学ぶことでもあるが、伴侶動物には兎やハムスターのような草食動物もいる。そこで、本講義では単に犬や猫に留まらず、あらゆる食性の動物に共通する普遍的知識を涵養するよう心がける。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>栄養とは新陳代謝、すなわち古いものと新しいものを置き換える営みである。古いものとは老廃物、新しいものとは栄養素であるが、本講義では栄養素に関する基本的な問題と、犬・猫に栄養素を供給する食餌について検討する。さらに、水やエネルギーは栄養素ではないが、ある意味では栄養素以上に重要といえる。そこで、前半では五大栄養素について解説し、後半は水とエネルギーの重要性、およびペットフードの栄養価や安全性に関する問題について講義していく。</p>							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 栄養学の歴史</li> <li>2 栄養素とその働き：炭水化物（単糖類、少糖類、多糖類、食物繊維、動物性多糖）</li> <li>3 栄養素とその働き：脂肪と脂肪酸（飽和脂肪酸、不飽和脂肪酸、必須脂肪酸）</li> <li>4 栄養素とその働き：機能性脂質（複合脂質、エイコサノイド、ステロイド、プロビタミン）</li> <li>5 栄養素とその働き：アミノ酸（種類と分類、必須アミノ酸、準必須アミノ酸、生体アミン）</li> <li>6 栄養素とその働き：タンパク質（構造と機能、合成と分解）</li> <li>7 栄養素とその働き：脂溶性ビタミン（ビタミンA,D,E,Kの生理作用、欠乏症と過剰症）</li> <li>8 栄養素とその働き：水溶性ビタミン（ビタミンB群と補酵素、欠乏症と過剰症）</li> <li>9 栄養素とその働き：ミネラル（主要ミネラルと微量ミネラルの生理機能、欠乏症と過剰症）</li> <li>10 水とエネルギーの必要性（体水分、水分出納、動物体内におけるエネルギーの分配）</li> <li>11 エネルギー評価法（総エネルギー、可消化エネルギー、代謝エネルギー、正味エネルギー）</li> <li>12 エネルギー要求量（食餌のME含量推定法、犬・猫のME要求量推定法）</li> <li>13 ペットフード：歴史・種類・製法、家庭用食材の注意点</li> <li>14 ペットフード：栄養価および安全性の保証制度(米国)</li> <li>15 ペットフード：栄養価および安全性の保証制度(日本)</li> </ol>							
<b>履修上の注意</b>							
<p>栄養学は基礎を生化学に置いているが、本講義の理解に生化学や大学受験レベルの化学は必要ない。しかし、1年次に開講する「基礎生化学（2単位選択）」を受講している方が解りやすいとはいえる。</p>							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
<p>試験（70%）、授業への参加度（30%）を基に総合的に評価する。</p>							
<b>教科書</b>							
<p>【改訂3版】動物看護のための小動物栄養学、阿部又信著、(株)ファームプレス（2008）</p>							
<b>参考書、教材等</b>							
<p>参考書；ペット栄養学事典、日本ペット栄養学会、(株)ファームプレス（2011）  教材；主にスライドを随時使用する。</p>							



授業科目	小動物臨床栄養学				担当教員	大島 誠之助	
科目英名	Small Animal Clinical Nutrition						
開講期間	3年次 後期	必/選	選択	単位	2	科目区分	専門応用 [動物看護科目群]
<b>講義目的</b>							
<p>本講義は3年次前期科目の「小動物栄養学」の、いわば続編として実施する。臨床栄養学とは病気の治療と予防を目的とした栄養学であるが、ここでは対象を犬と猫に限定する。人医学の背後には栄養士や保健士などの幅広いパラメディカル分野が控えているが、獣医学では動物看護師がその役目を一手に引き受けなければならない。本講義だけでは臨床栄養学の全体をカバーしきれないにしても、本講義が将来における自助努力の手がかり・足がかりとなることを期待している。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>前半6回の講義は犬と猫の食性、消化管構造、捕食行動、採食パターン等の違いや、犬・猫それぞれのライフステージ（妊娠期、泌乳期、成長期、維持期、老齢期）別の栄養と養分要求量についての学習に当てる。その後の9回分で各種疾病や不健康状態（過栄養性肥満、糖尿病、心不全、栄養不均衡性皮膚病、食物アレルギーまたは過敏症、消化器疾患、肝臓疾患、慢性心不全、尿石症、歯周病など）と栄養との関連、および食事療法等について講義する。</p>							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 犬と猫の違い：食性など</li> <li>2 犬と猫の違い：嗜好と嗜好性</li> <li>3 犬と猫の違い：代謝と養分要求量</li> <li>4 ライフステージと栄養：母犬・母猫</li> <li>5 ライフステージと栄養：子犬・子猫</li> <li>6 ライフステージと栄養：成犬・成猫および老犬・老猫</li> <li>7 疾病と栄養：過栄養性肥満の予防と減量法</li> <li>8 疾病と栄養：肥満関連の疾患</li> <li>9 疾病と栄養：アレルギー反応と栄養不均衡性皮膚疾患</li> <li>10 疾患と栄養：食物アレルギー（食物過敏症）と食事管理</li> <li>11 疾患と栄養：消化器疾患と非経口栄養法</li> <li>12 疾患と栄養：肝臓疾患と食事管理</li> <li>13 疾患と栄養：慢性腎不全と食事管理</li> <li>14 疾患と栄養：尿石症と食事管理</li> <li>15 疾患と栄養：歯周疾患ほか</li> </ol>							
<b>履修上の注意</b>							
<p>本講義を理解するには栄養学についての基本的知識が必要である。したがって、本科目を履修する者は全員が3年次前期配当の必修科目「小動物栄養学」の単位を取得したものとみなす。</p>							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
<p>試験（70%）、授業への参加度（30%）を基に総合的に評価する。</p>							
<b>教科書</b>							
<p>【改訂3版】動物看護のための小動物栄養学、阿部又信著、(株)ファームプレス（2008）</p>							
<b>参考書、教材等</b>							
<p>参考書；ペット栄養学事典、日本ペット栄養学会、(株)ファームプレス（2011）  教材；主にスライドを随時使用する。</p>							

授業科目	リハビリテーション論				担当教員	潮見 泰藏	
科目英名	An Introduction to Medical Rehabilitation						
開講期間	3年次 前期	必/選	選択	単位	2	科目区分	専門応用 [動物看護科目群]
<b>講義目的</b>							
リハビリテーションの概念，内容と方法（医学的，社会的，職業的，教育的），リハビリテーション関連法，リハビリテーション関連職種，チーム医療，リハビリテーションの流れ，地域保健と福祉などについて基本的な概念を習得する。							
<b>講義概要</b>							
本講義では，リハビリテーションの理念と目的を理解し，障害の理解とリハビリテーションの各アプローチの方法について学ぶことを目標とする。障害者や高齢者の方々に対し「全人間的復権」を目指したケアが提供できるように，障害（加齢に伴う障害を含む）の理解及び障害の評価を学ぶとともに，作業療法や理学療法を中心としたリハビリテーションの理論と実際について学習する。さらに，動物看護を学ぶ学生という点を考慮して，人間をモデルとして動物に対しリハビリテーションの概念を導入することの意義や重要性についても学ぶ。							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 リハビリテーションの概念・歴史</li> <li>2 リハビリテーションの対象，リハビリテーションの諸段階</li> <li>3 障害論（障害とは，障害分類，国際生活機能分類，等）</li> <li>4 障害論（廃用症候群，誤用症候群，過用症候群，等）</li> <li>5 障害者と心理（障害者心理，防衛機制，障害受容の過程）</li> <li>6 ADLとQOL（分類，評価とアウトカム）</li> <li>7 リハビリテーション関連職種とチーム医療</li> <li>8 医学的リハビリテーション(1) 理学療法・作業療法・言語療法，他</li> <li>9 医学的リハビリテーション(2) 義肢・装具，車いす，歩行補助具，リハビリテーション機器</li> <li>10 教育的・職業的・社会的リハビリテーション</li> <li>11 福祉制度と住環境整備</li> <li>12 地域連携と維持期のリハビリテーション（訪問リハビリ・通所リハビリ・介護予防）</li> <li>13 動物とリハビリテーション</li> <li>14 リハビリテーションに関連した最近のトピックス</li> <li>15 まとめ</li> </ol>							
<b>履修上の注意</b>							
予備知識がなくとも受講は可能であるが，できるだけ興味を持って臨んでいただきたい。自分なりのリハビリテーション観を持てるよう主体的な学習を期待する。							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
授業への参加度 10点，レポート 20点，定期試験 70点							
<b>教科書</b>							
・学生のためのリハビリテーション医学概論 栢森良二 医歯薬出版							
<b>参考書，教材等</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中村隆一：入門リハビリテーション概論。医歯薬出版，2006。ISBN4263212940</li> <li>・石鍋圭子，他編：リハビリテーション専門看護。医歯薬出版，2001。ISBN426323264</li> <li>・中村美知子，他編：リハビリテーションとケア。インターメディカ，2004。ISBN4899961022</li> </ul>							

授業科目	動物リハビリテーション				担当教員	井上 留美	
科目英名	Veterinary Rehabilitation and Physical Therapy						
開講期間	4年次 前期	必/選	選択	単位	2	科目区分	専門応用 [動物看護科目群]
<b>講義目的</b>							
<p>動物リハビリテーションは動物医療において、近年、関心が高まっており、その施術者として動物看護師の役割へ期待が集まっている。また、家庭動物の高齢化を背景に、動物の QOL（生活の質）の向上が重要視されている。今後の臨床現場で需要が見込まれる動物理学療法、基本的な技術と理論の理解を深めることは、良質な動物看護を提供するために必須である。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>動物リハビリテーションの要である解剖学や神経学を基盤として学び、実際の動物リハビリテーション療法治療プログラムへの理解を深め、さらに治療計画が立案できることを目標とする。また、リハビリテーションにおける動物の正しい扱いや、機能回復に有効とされるさまざまな運動器具の使用方法を修得し、小動物臨床でのリハビリテーションにおける動物看護師の役割の多様性について可能性を探り発展させていく。</p>							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 動物リハビリテーション概論</li> <li>2 評価①（検査各種）</li> <li>3 評価②（可動域測定法、等）</li> <li>4 犬の解剖学</li> <li>5 徒手療法（マッサージ、ストレッチ、等）</li> <li>6 運動療法</li> <li>7 物理療法</li> <li>8 水治療法（UWT、等）</li> <li>9 電気療法</li> <li>10 補完療法</li> <li>11 理学療法の適用①（パフォーマンスの最適化、等）</li> <li>12 理学療法の適用②（肥満、老齢、等）</li> <li>13 理学療法の適用③（痛み、関節炎、等）</li> <li>14 治療計画の作成</li> <li>15 まとめと復習</li> </ol>							
<b>履修上の注意</b>							
「リハビリテーション論」を履修していることが望ましい。							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
授業への参加度（50%）と試験（50%）による総合評価とする。							
<b>教科書</b>							
「Canine Rehabilitation」－BASIC LEVEL－ HELEN NICHOLSON 著 株式会社教育アシストセンター							
<b>参考書、教材等</b>							
<p>犬のリハビリテーション Darry L. Millis 他著 インターズー  リハビリテーションと理学療法 David Levine 他著 インターズー</p>							

授業科目	動物病院実習				担当教員	二宮 博義・今村 伸一郎 花田 道子・川添 敏弘	
科目英名	Animal Hospital Practice						
開講期間	3年次 前後期	必/選	必修	単位	1	科目区分	専門応用 [動物看護科目群]
<b>講義目的</b>							
動物病院実習は、小動物臨床現場において、学内で学んだ動物看護の知識・基礎技術をもとに、実務を通して様々なケースに対応できる実践的能力を身に付けることを目的とする。							
<b>講義概要</b>							
講義を通じて学んだ基礎知識をもとに、学外の動物病院で臨床現場を体験する。 動物病院の仕事を、病院受付業務補助（来院対応、問合せ、カルテ取り扱い）、診療関係業務補助（保定、一般身体検査補助、記録）、臨床検査（検体の取り扱い、準備、後片付け、記録）、入院動物や預かり動物の看護補助（バイタルサインの観察、日常管理）、院内外管理（清掃・消毒）、クライアントエデュケーション補助（投薬方法、療法食・処方食、一般食）などを通じ総合的に学ぶ。							
<b>授業計画</b>							
動物病院実習前後にオリエンテーション等を実施する。 オリエンテーションでは、動物病院実習の心得、到達目標、実習内容、留意事項について、説明する。また、各実習施設への配置に当たっては、学生個々の希望、学生の所在地と通院手段など、総合的判断の上で決定し、効果的な実習が行えるように配慮する。なお、学生の中には、重度の動物アレルギーを持ち動物病院実習を課すことが出来ない学生等も在籍している。こうした学生に対し、学生と協議の上、担当教員の判断で動物病院実習に替わる特別な実習を課し、単位を認定することもある。							
<b>履修上の注意</b>							
実習前後にオリエンテーション等の掲示、連絡があるので注意すること。							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
事前授業および事後授業への参加度 30% 動物病院実習評価表 40% 実習レポート 30%							
<b>教科書</b>							
なし							
<b>参考書、教材等</b>							
なし							

授業科目	コンパニオンアニマルケア(グルーミング)論				担当教員	福山 貴昭・早田 由貴子	
科目英名	Study of Companion Animal Care(Grooming)						
開講期間	1年次 前期	必/選	必修	単位	2	科目区分	専門応用 [動物応用科目群]
講義目的							
<p>家畜の心身の健康状態を整え、労役を効率よく遂行させるために牧畜家により家畜へ実地していたケア作業が、19世紀前半にヨーロッパを中心としてコンパニオン・アニマルにも実地されるようになった。現在、家畜とは異なる専門性を兼ね備えたケア内容は技術・器具・目的・効果等、獣医療や動物の理美容、コンパニオン・アニマルへの日常の手入れ作業として必要とされている。</p> <p>イヌやネコの飼養と管理についての知識を学修することを目的とする。</p>							
講義概要							
<p>(早田 由貴子/3回)</p> <p>愛くるしい容姿の中に潜む野性的な性格こそがコンパニオン・アニマルとしてのネコの最大の魅力であり、ネコと楽しく暮らすには本能や習性、生理を理解し、適正な飼養管理を行うことが大事になる。ネコを飼育する上で知っておきたい基礎的な知識や心得など、多角的観点から学習する。</p> <p>獣医学の基礎となる馬についても基礎から解説する。</p> <p>(福山 貴昭/12回)</p> <p>動物をハンドリング、ケアする際に使用する専門器具の名称、種類、選定法、使用法、保存法等を学ぶ。現在400種類以上が存在しているイヌ品種の中から代表的な品種について作出目的や、選択育種により備わった毛色パターン、毛状、形態について解説する。</p>							
授業計画						担当教員	
1 器具 シザーの各部名称、種類と保持。						福山 貴昭	
2 ケアに関連する犬体名称 (前軀)。						福山 貴昭	
3 ケアに関連する犬体名称 (中・後軀)。						福山 貴昭	
4 ブラッシング・ケア方法。						福山 貴昭	
5 ブラッシング・ケア目的、効果、関連器具。						福山 貴昭	
6 グルーミングの歴史						福山 貴昭	
7 イヌの皮膚						福山 貴昭	
8 イヌの被毛						福山 貴昭	
9 器具の手入れと保存法						福山 貴昭	
10 ケアに伴うハンドリング						福山 貴昭	
11 犬種標準書の読み方とイヌの品種解説						福山 貴昭	
12 ドッグショウの意義とシステム						福山 貴昭	
13 ネコの品種						早田 由貴子	
14 ネコの機械的特徴、体のメカニズム、運動神経および行動学						早田 由貴子	
15 ネコの飼育管理、健康管理、ネコのグルーミングについて						早田 由貴子	
履修上の注意							
授業内容により持ち物が変わります(授業内・掲示にて告知)							
評価方法 (評価基準を含む)							
総合評価 (授業への参加度・学修態度 (30%)、課題レポート等 (70%))							
教科書							
『THE COMPLETE DOG GROOMING』福山英也 教育アシストセンター出版部							
『全犬種標準書』ジャパンケネルクラブ							
『猫の教科書』高野八重子・高野賢治著 発行：ペットライフ社							
『THE COMPLETE DOG GROOMING BASIC TECHNICAL MANUAL』 教育アシストセンター 福山貴昭著							
『犬の解剖カラーリングアトラス』学窓社							
『 THE COMPLETE DOG GROOMING BASIC TECHNICAL MANUAL DVD』							
教育アシストセンター 福山貴昭							
参考書、教材等							
The Video Guide to American pedigreed Cats,by CFA,Inc							
National Geographic Video Feline							
Westminster Kennel Club Dog Show							

授業科目	コンパニオンアニマルケア（グルーミング基礎）実習				担当教員	福山 貴昭・早田 由貴子	
科目英名	Practice of Companion Animal Care(Basic Grooming)						
開講期間	1年次 前後期	必/選	必修	単位	1	科目区分	専門応用 [動物応用科目群]
<b>講義目的</b>							
<p>基礎実習ではヒトが動物を取り扱う「アニマルハンドリング」の基本となる、ヒトと動物の安全確保に必要な知識、技術、経験を取得することを目的とする。</p> <p>ハンドリングを実施する動物の健康状態の観察法から始まり、ボディーランゲージの観察と解釈の仕方、保定方法、専門器具の保持等を実際のグルーミングケア作業の中で実習教材に触れながら修得する。毎授業にテーマとなるケア作業を設定し、各部位の確実なケア施術の修得に勤める。</p> <p>実習は2名で1頭の取り扱いを基本とし、在学中に本実習において40頭、20品種以上のケア経験を目標とする。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>イヌは人為的な選択繁殖により他の家畜にない種類の多さや、同種内での形態の大差を持ち合わせている。その中には人為的なグルーミングケアなしには、スムーズな換毛、聴覚や視覚の確保、皮膚の健康を保つことが不可能な品種も多く存在している。</p> <p>本実習ではイヌ（ネコも含む）の形態、ライフステージ、飼育環境、飼育目的、健康状態等を考慮した、家庭内飼育において健康管理上必要なグルーミング手技を学修し、コンパニオンアニマルのグルーミング需要に即応できる人材の育成を行う。</p> <p>・実施グルーミングケア工程：健康チェック（体重、体温、脈拍数、呼吸数計測。口腔内、皮膚観察）⇒耳道処置⇒ブラッシング⇒ベイジング（洗浄）・肛門腺絞り⇒ドライイング（乾かし）⇒耳道処置⇒爪切り⇒クリッピング（バリカン刈り）⇒カット</p>							
<b>授業計画</b>						<b>担当教員</b>	
1 実際のグルーミングケア作業を見学。工程、注意事項等を学修。						福山 貴昭	
2 イヌのボディーランゲージの観察とケージからの出し入れ、テーブル上の取り扱い。						福山 貴昭	
3 イヌのリーシュでのコントロール、リーシュの結束。イヌの抱上げ法（大、小型犬）						福山 貴昭	
4 グルーミング器具の保持と取り扱い。コーム、ブラシを使用してのブラッシングケア。						福山 貴昭	
5 検温とそれに伴う保定。同時に肛門関連のケア。						福山 貴昭	
6 脈拍、呼吸数の計測とそれに伴う保定。ブラッシングケア（長毛種）。						福山 貴昭	
7 耳道ケアと保定。外耳道の被毛の処置方法と耳道洗浄。鉗子の保持と取り扱い。						福山 貴昭	
8 クリッピングケア。クリッパーを使用しての被毛の処理。						福山 貴昭	
9 キャットグルーミング（短毛種）。爪切り、ブラッシング、ベイジング、ドライイングケア。						早田 由貴子	
10 ベイジング、ドライイングケア。イヌに最適な湯温度の設定。洗浄方法とシャンプー剤の選定法。						福山 貴昭	
11 ベイジング、ドライイングケア。ブローの温度、風量の設定。						福山 貴昭	
12 爪切り。器具の保持と保定。						福山 貴昭	
13 足底部のケア。						福山 貴昭	
14 外陰部周辺のケア。						福山 貴昭	
15 グルーミング基礎総合。						福山 貴昭	
<b>履修上の注意</b>							
ユニフォーム着用し、実習器具は各自毎回持参すること							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
総合評価（授業への参加度・学修態度(45%)、実技試験(50%)、他(5%)							
<b>教科書</b>							
「THE COMPLETE DOG GROOMING BASIC TECHNICAL MANUAL」 「THE COMPLETE DOG GROOMING BASIC TECHNICAL MANUAL」(DVD)							
<b>参考書、教材等</b>							
『全犬種標準書』ジャパンケネルクラブ 等							

授業科目	コンパニオンアニマルケア（グルーミング応用）実習				担当教員	福山 貴昭	
科目英名	Practice of Companion Animal Care (Advanced Grooming)						
開講期間	2年次 前後期	必/選	必修	単位	1	科目区分	専門応用 [動物応用科目群]
<b>講義目的</b>							
<p>コンパニオンアニマルケア（グルーミング基礎）実習で修得した手技を様々なイヌ（品種、被毛、サイズ、年齢、性質別）に実施し、応用力を修得することを目的とする。</p> <p>コンパニオンアニマルケア（グルーミング応用）実習では家畜化と選択育種によりイヌ種が持つ多様な皮膚と被毛の種類に対応できる応用力を修得することを目的として、実習を展開していく。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>コンパニオンアニマルケア（グルーミング基礎）実習で学んだイヌの健康と管理に加え、多様化する育種の保定法、皮膚の健康ケアの方法を解説する。</p> <p>イヌのもつ多様な行動パターンへの応用力を修得するため、ハンドリングが多少困難な性質をもつイヌも使用し、イヌのライフステージ、飼育環境、飼育目的に沿ったグルーミングケア方法について解説する。</p>							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 グルーミングケア。薬浴。</li> <li>2 グルーミングケア。聴覚や視覚の確保、皮膚の健康ケア。</li> <li>3 グルーミングケア。毛玉ケア。</li> <li>4 グルーミングケア。ベイジング、ドライグケア。</li> <li>5 グルーミングケア。季節別。</li> <li>6 グルーミングケア。季節別。</li> <li>7 グルーミングケア。飼育環境別。</li> <li>8 グルーミングケア。飼育環境別。</li> <li>9 グルーミングケア。飼育環境別。</li> <li>10 グルーミングケア。ドライケア。</li> <li>11 グルーミングケア。ライフステージ別ケア。</li> <li>12 グルーミングケア。ライフステージ別ケア。</li> <li>13 グルーミングケア。ライフステージ別ケア。</li> <li>14 グルーミングケア。ライフステージ別ケア。</li> <li>15 グルーミングケア応用総合。</li> </ol>							
<b>履修上の注意</b>							
ユニフォーム着用し、実習器具は各自毎回持参すること。							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
総合評価（授業への参加度・学修態度(45%)、実技試験(50%)、他(5%)）							
<b>教科書</b>							
「THE COMPLETE DOG GROOMING BASIC TECHNICAL MANUAL」 「THE COMPLETE DOG GROOMING BASIC TECHNICAL MANUAL」(DVD)							
<b>参考書、教材等</b>							
『全犬種標準書』ジャパンケネルクラブ 等							

授業科目	コンパニオンアニマルケア（グルーミング総合）実習				担当教員	福山 貴昭	
科目英名	Practice of Companion Animal Care (Comprehensive Grooming)						
開講期間	4年次 前後期	必選	選択	単位	1	科目区分	専門応用 [動物応用科目群]
<b>講義目的</b>							
<p>コンパニオンアニマルケア（グルーミング基礎）実習、コンパニオンアニマルケア（グルーミング応用）実習で修得した技術を持って、グルーミング工程のカットを重点的に指導することで、グルーマーに求められる飼い主が求めるグルーミング手技や幅広い知識・経験を身につけさせることとする。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>各血統登録団体が発行する犬種標準書（イヌの審査基準）に定められた、品種（犬種）ごとのイヌの作業効率と美的表現を考慮したカットケアスタイルに対応すべく手技の獲得を目標に実習を展開していく。</p>							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 グルーミングケア。ライフステージ別（幼犬）。</li> <li>2 グルーミングケア。ライフステージ別（老犬）。</li> <li>3 グルーミングケア。マタニティーカット。</li> <li>4 グルーミングケア。開立毛種ケア。</li> <li>5 グルーミングケア。毛種別総合。</li> <li>6 グルーミングケア。品種別応用。</li> <li>7 グルーミングケア。品種別応用。</li> <li>8 グルーミングケア。美的表現。</li> <li>9 グルーミングケア。美的表現。</li> <li>10 グルーミングケア。季節別応用。</li> <li>11 グルーミングケア。季節別応用。</li> <li>12 グルーミングケア。季節別応用。</li> <li>13 グルーミングケア。実演実習総復習。</li> <li>14 グルーミングケア。実演実習総復習。</li> <li>15 グルーミングケア。実演実習総復習。</li> </ol>							
<b>履修上の注意</b>							
ユニフォーム着用し、実習器具は各自毎回持参すること。							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
総合評価（授業への参加度・学修態度(45%)、実技試験(50%)、他(5%)）							
<b>教科書</b>							
「THE COMPLETE DOG GROOMING BASIC TECHNICAL MANUAL」 「THE COMPLETE DOG GROOMING BASIC TECHNICAL MANUAL」(DVD)							
<b>参考書、教材等</b>							
『全犬種標準書』ジャパンケネルクラブ 等							



授業科目	イヌの特性論					担当教員 山崎 薫・福山 貴昭
科目英名	Characteristics of Domestic Dogs					
開講期間	3年次 前期	必/選	必修	単位	2	科目区分 専門応用 [動物応用科目群]
講義目的						
<p>本講義はイヌに共通した特性を学修することにより、イヌ品種の多種多様な形態、能力、行動特性を総合的に理解するために必要な基礎知識を教授する。またヒトの価値観を主体とした品種改良の結果、イヌが健康上の不利益を被っている現状をふまえ動物観についても検討していく。</p>						
講義概要						
<p>イヌは最古の家畜としてヒトとの共生の中で人為的な選択繁殖を続け、他の家畜にはない 800 種を超える種類の多さと、同種内での形態の差異を持ち合わせてきた。イヌへの理解を深めるため、その計画的選択繁殖の目的や、歴史、文化の背景、動物観等についても多用な視点から捉えるとともに、イヌ品種の現状を解説する。また、主要なイヌ品種を例にイヌの特性について知識と理解を深める。</p>						
授業計画						担当教員
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 イヌの起源・歴史。</li> <li>2 体躯各部名称の解剖学名称と犬体名称の比較。</li> <li>3 前躯体躯構成と前肢の役割。形状の違いに関連する能力の違い。</li> <li>4 中躯体躯構成と腰部の役割。脊椎形状の違いに関連する能力の違い。</li> <li>5 後躯体躯構成と後肢の役割。尾の形状の違い。</li> <li>6 体躯構成と歩様の種類。</li> <li>7 頭部形状と頭部各部名称。頭部形状に関連する咬合の種類。</li> <li>8 頭部形状に関連する歯列。歯牙の種類と役割。</li> <li>9 感覚器とその能力。</li> <li>10 繁殖特性。繁殖周期と繁殖兆候。品種による違い。</li> <li>11 繁殖特性。交配・交尾。品種による違い。</li> <li>12 繁殖特性。受精卵の発育から分娩。</li> <li>13 繁殖特性。授乳と出生児の発育。品種による違い。</li> <li>14 特に家庭犬としての適性を備えたイヌ品種について。</li> <li>15 日本アキタとアメリカアキタの違い。</li> </ol>						福山 貴昭 福山 貴昭 福山 貴昭 福山 貴昭 福山 貴昭 福山 貴昭 福山 貴昭 福山 貴昭 福山 貴昭 福山 貴昭 福山 貴昭 福山 貴昭 福山 貴昭 山崎 薫 山崎 薫
履修上の注意						
<p>イヌの約 100 品種については、予習を前提で授業を進行する。なお予習に必要な資料は事前に配布する。</p>						
評価方法 (評価基準を含む)						
総合評価 (レポート課題(60%)、授業への参加度・学習態度(20%)、他(20%))						
教科書						
『日本アキタとアメリカアキタの違い』山崎 薫 著 (株)教育アシストセンター出版部 『イヌ品種特性の理解』福山 貴昭 著 (株)教育アシストセンター出版部 『犬の解剖カラーリングアトラス』学窓社						
参考書、教材等						
『家庭犬に向くイヌ品種』 山崎 薫 著 (株)教育アシストセンター出版部						

授業科目	イヌの行動学					担当教員	堀井 隆行
科目英名	Canine Behavior						
開講期間	4年次 前期	必修	選択	単位	2	科目区分	専門応用 [動物応用科目群]
<b>講義目的</b>							
<p>動物の行動は、その動物の健康状態や心理状態、身体的能力や知的能力など様々な情報を含んでいる。これらの情報を正確に読取ることは、人と動物が良好な関係性を築く上で不可欠である。そのため本講義では、コンパニオンアニマルとして代表的なイヌの行動について、基礎的知識を習得し理解を深め、実際にイヌを取り扱う場面においてフィードバックできる考察力・応用力を修得することを目標とする。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>イヌの行動原理を知り、行動に含まれる情報を理解するために、動物行動の基礎概念から個体行動・社会行動、維持行動・生殖行動・失宜行動といった行動分類に沿って体系的にイヌの行動について学ぶ。また、学習理論や行動発達などにも着目し、ドッグトレーニングとの関連性、成長過程におけるイヌの行動、問題行動との関連性についても学ぶ。</p>							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 動物行動学入門①：動物行動の基礎概念と特性について学ぶ。</li> <li>2 動物行動学入門②：家畜化による行動変化と行動分類について学ぶ。</li> <li>3 イヌの個体維持行動①：摂食行動、飲水行動、休息行動、排泄行動について学ぶ。</li> <li>4 イヌの個体維持行動②：護身行動、身繕い行動、探査行動、遊戯行動について学ぶ。</li> <li>5 イヌの社会行動①：イヌの集団と社会の概念について学ぶ。</li> <li>6 イヌの社会行動②：イヌの知覚能力とコミュニケーションシグナルについて学ぶ。</li> <li>7 イヌの社会行動③：イヌの敵対行動と親和行動について学ぶ。</li> <li>8 イヌの生殖行動：イヌの繁殖行動と母子行動について学ぶ。</li> <li>9 イヌの失宜行動：ストレス負荷時のイヌの行動について学ぶ。</li> <li>10 学習理論①：古典的条件付け、オペラント条件付け、馴化、消去、脱感作等について学ぶ。</li> <li>11 学習理論②：古典的条件付け、オペラント条件付け、馴化、消去、脱感作等について学ぶ。</li> <li>12 学習理論③：学習理論とドッグトレーニングとの関連性について学ぶ。</li> <li>13 イヌの行動発達①：子イヌの各成長過程における行動発達について学ぶ。</li> <li>14 イヌの行動発達②：子イヌの社会化について学ぶ。</li> <li>15 イヌの問題行動入門：問題行動の発生とその予防・治療について、これまでに学んだ内容と関連付けながら入門的に学ぶ。</li> </ol>							
<b>履修上の注意</b>							
<p>「物言わぬ動物」と関わり、扱う上で、動物の行動に常に興味を持ってもらいたい。興味を持ち、感じ取り、疑問を持つところから動物の行動理解は始まる。</p>							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
定期試験（60%）・課題レポート（10%）・授業への参加度（30%）による総合評価。							
<b>教科書</b>							
<p>『動物看護学全書 - 05 動物看護のための動物行動学』  森裕司・武内ゆかり 著 日本小動物獣医師会 動物看護師委員会 監修 ㈱ファームプレス  『ドッグトレーニング パーフェクトマニュアル』太田光明・大谷伸代 著 チクサン出版</p>							
<b>参考書、教材等</b>							
<p>『犬の行動学入門』鹿野正頭・中村広基 著 森裕司 監修 IBS出版株式会社  『ドッグトレーナーに必要な深読み・先読みテクニック』  ヴィベケ.S. リーセ 著 藤田りか子 編集 誠文堂新光社  教材には、Microsoft Power Point で作成したスライドに具体的事例の画像や動画を盛り込んだものを使用。</p>							

授業科目	イヌの行動学演習					担当教員	堀井 隆行
科目英名	Canine Behavior-Student Laboratory						
開講期間	4年次 後期	必/選	選択	単位	1	科目区分	専門応用 [動物応用科目群]
<b>講義目的</b>							
<p>イヌの行動から様々な情報を読み取るためには、行動観察法および行動解析法を修得する必要がある。観察法・解析法には研究的な手法と実践的な手法が存在するため、双方について学ぶ。実際にイヌを取り扱う場面においてイヌの行動に対する正確な状況判断ができるスキルを修得することを目標とする。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>イヌの行動学で学んだ知識をより活用できるようにするために、生体やビデオなどを用いて行動観察法・行動解析法を解説する。各手法の基礎を解説し、その後に様々な状況におけるイヌの行動観察・解析を実践し、周辺環境刺激や生体の解剖的・生理的状态など様々な要因から行動の意図を考察する。</p>							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 行動観察と行動研究：研究的手法と実践的手法それぞれの意義と特徴について学ぶ。</li> <li>2 行動研究のステップ：動物看護学における行動研究の一連の流れについて学ぶ。</li> <li>3 調査・実験計画（プロトコール）の立て方：計画を立てる際に留意すべき点について学ぶ。</li> <li>4 研究的行動観察法①：演習課題を用いながら行動の測定・記録方法について学ぶ。</li> <li>5 研究的行動観察法②：演習課題を用いながら行動の測定・記録方法について学ぶ。</li> <li>6 研究的行動観察演習：実際にイヌの行動を測定・記録する。</li> <li>7 研究的行動解析法①：演習課題を用いながら統計学とデータ解析について学ぶ。</li> <li>8 研究的行動解析法②：演習課題を用いながら統計学とデータ解析について学ぶ。</li> <li>9 研究的行動解析演習：行動観察演習で得たデータを実際に統計処理し、考察する。</li> <li>10 実践的行動観察・解析①：映像を用いてイヌのボディランゲージの読み取り方を学ぶ。</li> <li>11 実践的行動観察・解析②：生体を用いてイヌのボディランゲージを観察し、考察する。</li> <li>12 実践的行動観察・解析③：引っ張り・排泄に関する問題行動の原因と対処を考える。</li> <li>13 実践的行動観察・解析④：分離関連障害の原因と対処を考える。</li> <li>14 実践的行動観察・解析⑤：かみつき・吠えに関する問題行動の原因と対処を考える。</li> <li>15 まとめ</li> </ol>							
<b>履修上の注意</b>							
<p>いくら知識があっても実際の観察力と考察力が伴わなければ、何の役にも立たない。研究的手法と実践的手法の差をしっかりと理解して、活用の場面に合わせた観察力と考察力を身につけてほしい。</p>							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
<p>課題レポート（50%）・授業への参加度（50%）による総合評価。</p>							
<b>教科書</b>							
<p>『ドッグトレーナーに必要な深読み・先読みテクニック』          ヴィベケ.S. リーセ 著 藤田りか子 編集 誠文堂新光社</p>							
<b>参考書、教材等</b>							
<p>『行動研究入門 動物行動の観察から解析まで』          P.マーティン・P.ベイトソン 著、粕谷英一・近雅博・細馬宏通 訳 東海大学出版会          教材には、Microsoft Power Point で作成したスライドや観察用動画・生体などを使用。</p>							

授業科目	コンパニオンドッグトレーニング				担当教員	山本 央子	
科目英名	Companion Dog Training						
開講期間	4年次 後期	必/選	選択	単位	2	科目区分	専門応用 [動物応用科目群]
<b>講義目的</b>							
<p>長い歴史の中で、最も人と近い位置で暮らし続け、人の手による品種改良を繰り返し、「人工動物」と化してきた犬。しかし、人の伴侶として暮らす家庭犬も、人を傷つける鋭い犬歯を持つ動物である。人の社会に受け入れられる理想的なコンパニオン・ドッグとは？理論と実践能力を持つ専門家としての、犬との適切なコミュニケーション技術から育成論を学ぶことが講義の目的である。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>人と暮らす犬、犬と暮らす人、双方の幸せと福祉を踏まえて、理想的なコンパニオンドッグの定義とは？犬種特性の行動や、社会とコンパニオンドッグの相互関係を基本に、犬に何を、どのようにして習得させるか？様々な犬具からトレーニング方法まで、より効果的、かつ倫理に叶う適切な用い方。理想的なコンパニオンドッグの育成方法を追究する。</p>							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 コンパニオンドッグ・トレーニングの定義と歴史</li> <li>2 人の社会で暮らす犬の幸せ～人は犬に何を望むのか？</li> <li>3 犬に教える～人と犬・行動の原理</li> <li>4 レスポンドとオペラント</li> <li>5 行動と環境 ～ 吠えない、咬まない、汚さない犬に育てる～</li> <li>6 子犬のトレーニング～叱らない、排泄、クレート、社会化トレーニング</li> <li>7 行動の強化、弱化、消去～強化子の種類と用い方～誘導と報酬</li> <li>8 新しい行動を教える～行動の獲得</li> <li>9 シェイピング～成功するためのトレーニング工程／行動の観察と記録</li> <li>10 ターゲット～キャッチング</li> <li>11 問題行動1～問題行動の定義と原因の分析</li> <li>12 問題行動2～問題行動の適切な対処</li> <li>13 刺激制御～行動に合図をつける</li> <li>14 おすわり～呼び戻しまで、「良い子だね！」</li> <li>15 老犬との暮らしを豊かに～感謝と喜びのトレーニング</li> </ol>							
<b>履修上の注意</b>							
<p>可能な限り、臨床現場における応用能力の高い知識と技術を習得できるように進めて行く。犬へのトレーニングではなく、飼い主への教育が重要であることを学ぶ。</p>							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
<p>講義に対する理解の度合いを把握するために、毎回小レポート提出形式をとる。 レポート提出と授業への参加度（30%）、定期試験（70%）</p>							
<b>教科書</b>							
<p>スライド資料の配布と随時必要に応じた最新の資料の配布</p>							
<b>参考書、教材等</b>							
<p>「行動分析学入門」 杉山尚子著  「加速する学習」 パメラ・リード  「カルチャー・クラッシュ」 ジーン・ドナルドソン  「学習の心理」 実森正子、中島定彦共著  そのほか随時</p>							

授業科目	ジェロントロジーとドッグウォーキング					担当教員 岡 浩一朗・山羽 教文	
科目英名	Gerontology and Dog Walking						
開講期間	3年次 後期	必/選	選択	単位	2	科目区分	専門応用 [動物応用科目群]
<b>講義目的</b>							
本講義の目的は、老年学の視点から、超高齢社会におけるわが国の様々な健康課題に関する基礎的・専門的知識を修得できるようにするとともに、イヌを飼うことやイヌを散歩させることが、それらの健康課題の解決にどのような役割を果たすことができるのかについて学ぶ。							
<b>講義概要</b>							
授業で扱うテーマは、健康寿命の重要性や介護予防の考え方、エイジズムの問題、ドッグウォーキングの健康効果、ドッグウォーキングによるソーシャルキャピタルの醸成等とし、各テーマで基礎的・専門的知識について学ぶ。また、ヒトとイヌの絆において、ドッグウォーキングを捉え、ヒトの心理学、イヌの生理・解剖学、獣医学の観点からも取り上げ、講義を展開する。							
<b>授業計画</b>							<b>担当教員</b>
1 ガイダンス・超高齢社会日本の未来							岡 浩一朗
2 エイジングとジェロントロジーとその概念 何故エイジングを学ぶか (そのトピックスとベネフィット)							山羽 教文
3 健康寿命と平均寿命							岡 浩一朗
4 エイジズムの問題							岡 浩一朗
5 介護予防と疾病予防							岡 浩一朗
6 ドッグウォーキングの効用							岡 浩一朗
7 ドッグウォーキングの動向							岡 浩一朗
8 高齢者の社会参加							岡 浩一朗
9 ソーシャルキャピタルとドッグウォーキング							岡 浩一朗
10 高齢者のペットロス							岡 浩一朗
11 加齢と健康学 ～ドッグウォーキングの可能性を探る～							山羽 教文
12 加齢と心理学 ～ドッグウォーキングの可能性を探る～							山羽 教文
13 加齢と教育学 ～ドッグウォーキングの可能性を探る～							山羽 教文
14 イヌのロコモーション							山羽 教文
15 イヌの健康管理 (リハビリテーション含む)							山羽 教文
<b>履修上の注意</b>							
特になし							
<b>評価方法 (評価基準を含む)</b>							
レポート 40% (評価基準: レポート内容 40%) 平常点評価 60% (評価基準: 授業への参加度 60%)							
<b>教科書</b>							
使用しない							
<b>参考書、教材等</b>							
講義中に適宜紹介する							

授業科目	ネコの特性論				担当教員	早田 由貴子	
科目英名	Characteristics of Domestic Cats						
開講期間	4年次 前期	必/選	選択	単位	2	科目区分	専門応用 [動物応用科目群]
<b>講義目的</b>							
<p>ネコの習性,特性を理解し、より良いコミュニケーションをはかる。野生の血を深く残しつつ現代社会に繁栄している愛らしい生き物を勉強することで多くの学生が猫に魅せられ、癒されることを目指します。各純血猫種のスタンダード（審査基準）を習得します。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>コンパニオンアニマルである猫と楽しく暮らすにはネコの特性、習性、生理を知ることから始まります。5000年もの長い間、人間とともに暮らしてきた猫、しかしこれだけの時間をかけても人間は猫を完全に家畜化することは出来ませんでした。彼らの野生の血こそが彼らの魅力なのでしょう。人間と猫との係わりあいを勉強し、正しく猫を理解することによって猫と人間が快適に生活できるようになります。</p>							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 猫の起源、進化、分類</li> <li>2 外部形態（体の構造—骨格、各部位の名称）</li> <li>3 ネコの毛色とパターン、目色、ボディータイプ</li> <li>4 ネコ種（長毛種 ペルシャ、メインクーンキャット他）</li> <li>5 ネコ種（短毛種Ⅰ）</li> <li>6 ネコ種（短毛種Ⅱ）</li> <li>7 猫の感覚器官各部位の機能と特性（嗅覚、味覚、聴覚、視覚）</li> <li>8 猫の習性「行動学」</li> <li>9 飼育管理（猫の飼い方、居住環境）</li> <li>10 栄養、消化器系の主な疾患</li> <li>11 呼吸器系 循環器系の主な疾患</li> <li>12 泌尿器系 内分泌系の主な疾患</li> <li>13 猫の繁殖</li> <li>14 遺伝学</li> <li>15 キャットショー、血統書</li> </ol>							
<b>履修上の注意</b>							
<p>上記に示す各講義項目のうち、それぞれ独立して1—2回の講義で行う場合と、内容によっては総合的に講義を行うこともある。</p>							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
<p>授業への参加度（10%）とペーパーテスト（筆記試験、90%）</p>							
<b>教科書</b>							
<p>猫の教科書 高野八重子 他 ペットライフ社</p>							
<b>参考書、教材等</b>							
<p>イラストでみる猫学 林良博 講談社 プリント</p>							

授業科目	コンパニオンバードの特性論				担当教員	島森 尚子・小嶋 篤史	
科目英名	Characteristics of Companion Birds						
開講期間	4年次 前期	必/選	選択	単位	2	科目区分	専門応用 [動物応用科目群]
<b>講義目的</b>							
<p>一口に飼鳥と言ってもその種類は千差万別であり、鳥を飼う目的も様々だが、近年では、コンパニオンバードとして鳥を飼う人たちが増えてきており、同時に、病気や問題行動で悩む飼い主も増加している。本講義では、動物看護職を目指す諸君が必要とするコンパニオンバードに関する知識の習得を目的に、2名の教員がオムニバス形式で講義する。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>(島森尚子)家禽化した飼鳥を例にとって飼養の歴史などを学んだ後、飼鳥として人気の高い幾つかの種を取上げてその特質を学び、さらに適正飼養について考えてゆく。授業では、必要に応じてビデオを見たり実際の鳥を見たりしながら、鳥という生き物についての認識を深めてもらう。</p> <p>(小嶋篤史)今まで勉強してきた食肉目(犬、猫)の看護学と鳥類の看護がどのように異なるのか、鳥類の分類学的位置、生理学的特徴、解剖学的特徴の基礎を学び、いくつかの病気を紹介する中で理解を進めてゆく。</p>							
<b>授業計画</b>						<b>担当教員</b>	
1	ガイダンス・コンパニオンバード概論	1	鳥類学概論			島森 尚子	
2	コンパニオンバード概論	2	鳥の文化史			島森 尚子	
3	コンパニオンバード概論	3	一般的飼育法			島森 尚子	
4	カナリア		歴史と品種			島森 尚子	
5	その他のフィンチ類					島森 尚子	
6	セキセイインコ		歴史と品種			島森 尚子	
7	オカメインコ		とその他の小型・中型インコ類			島森 尚子	
8	大型インコ		・オウム類			島森 尚子	
9	巣引き		と育雛			島森 尚子	
10	人間と鳥の関係					島森 尚子	
11	鳥類の進化と分類					小嶋 篤史	
12	鳥類の骨の解剖と疾患、その看護					小嶋 篤史	
13	鳥類の消化器の解剖と疾患、その看護					小嶋 篤史	
14	鳥類の生殖器の解剖と疾患、その看護					小嶋 篤史	
15	まとめと復習					島森 尚子	
<b>履修上の注意</b>							
やむを得ない事情により、講義の順序を変更する場合がある。その場合、掲示およびガイダンス等で案内する。							
<b>評価方法 (評価基準を含む)</b>							
平常点 (小課題など) 30%、定期試験 70%として計算する。							
<b>教科書</b>							
『小鳥図鑑』誠文堂新光社 『コンパニオンバードの病気百科』誠文堂新光社							
<b>参考書、教材等</b>							
教場で指示する。							

授業科目	保全生物学				担当教員	天野 卓	
科目英名	Conservation Biology						
開講期間	4年次 前期	必/選	選択	単位	2	科目区分	専門応用 [動物応用科目群]
<b>講義目的</b>							
<p>生物は地球誕生以来、様々な環境に適応して進化し、その多様性を維持してきた。しかし近年、人間の生活による環境破壊はこれらの生物多様性のバランスを崩し、多様性の持続が困難な状況を生み出している。本講義は、生物多様性保全の意義、環境破壊の現状、希少動物保全活動の具体例等を講義することにより、生物多様性保全や地球環境保全に資するために必須となる基礎知識の修得を目的とする。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>近年、環境の劣化が世界的に問題視され、人間と動物を取り巻く状況も変化しつつある。人間は現在、地球規模で生物の多様性とそれを支える環境を保護することを責務とする時代に入ったことを解説し、保全生物学が生物多様性の意義、生体系破壊の現状と要因、希少種の保全と管理等について学ぶための総合的学問であることを教示する。本講義は、特に希少動物を取り巻く現況と問題点に焦点をあてて、保全活動の具体例と今後のあり方についても詳述する。</p>							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 保全生物学とは何か：その目的と特色</li> <li>2 生物多様性とは何か：基本となる3レベル</li> <li>3 生物多様性とは何か：多様性の進化</li> <li>4 保護と保全：保護とは何か、保全とは何かを考える</li> <li>5 生体系破壊の現状と要因 (1) 自然環境の人為的破壊</li> <li>6 生体系破壊の現状と要因 (2) 生物相の攪乱</li> <li>7 生体系破壊の現状と要因 (3) 地球規模の環境破壊</li> <li>8 希少種の保全</li> <li>9 保全活動の具体例：アホウドリ、マナヅル、ナベヅル、コウノトリ、トキ</li> <li>10 保全活動の具体例：ヤンバルクイナ、イリオモテヤマネコ、ツシマヤマネコ</li> <li>11 保全活動の具体例：ヒグマ、エゾシカ</li> <li>12 希少種の管理：体制と技術</li> <li>13 遺伝子の保存と個体復元：最新技術に見る遺伝子の保存と個体復元の可能性</li> <li>14 生物多様性の保全に対する取り組み：世界の例</li> <li>15 生物多様性の保全に対する取り組み：日本の例</li> </ol>							
<b>履修上の注意</b>							
保全生物学は合わせて、動物遺伝学、野生動物学を受講していることが望ましい。							
<b>評価方法 (評価基準を含む)</b>							
試験 (60%)、授業への参加度 (40%) により総合的に評価する。							
<b>教科書</b>							
特に指定しない。							
<b>参考書、教材等</b>							
<p>保全生物学 樋口広芳編 東京大学出版会          保全遺伝学 小池裕子・松井正文編 東京大学出版会          教材としてプリント、スライド等を随時使用する。</p>							



授業科目	実験動物学				担当教員	二宮 博義・今村 伸一郎	
科目英名	Laboratory Animal Science						
開講期間	4年次 後期	必修	選択	単位	2	科目区分	専門応用 [動物応用科目群]
<b>講義目的</b>							
動物実験はなぜ必要なのか、動物実験の現状（動物実験擁護論と反対論）、倫理的かつ科学的動物実験、各種実験動物の特性、適正な動物実験、動物実験における危害防止などについて学ぶ。							
<b>講義概要</b>							
実験動物は生命科学の研究には欠くことのできないものである。これまでに、様々な生命現象の解明や有益な薬の開発が、実験動物を用いて行われてきた。動物実験は単に科学的であるだけでなく、実験動物の福祉を十分配慮した倫理的な実験でなければならない。本講義で、各種実験動物の利用特性、動物実験を取り巻く社会情勢、適正な動物実験のあり方と「科学的かつ倫理的動物実験」を行うための知識について概説する。							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 実験動物学概説：動物実験の意義、動物実験を取り巻く社会情勢、科学的かつ倫理的動物実験</li> <li>2 動物実験と法規制： <ul style="list-style-type: none"> <li>動物の愛護および管理に関する法律、実験動物の飼養、保管ならびに苦痛の軽減に関する基準、動物実験指針、動物実験に対する国際指導原則</li> </ul> </li> <li>3-7 各種実験動物の比較生物学： <ul style="list-style-type: none"> <li>マウス、ラット、ハムスター、スナネズミ、モルモット、ウサギ、ネコ、イヌ、ブタ、サル等</li> </ul> </li> <li>8 実験動物の育種：遺伝制御、遺伝モニタリング</li> <li>9 実験動物の繁殖学：生殖器の解剖学、生殖生理、実験動物の人工生殖</li> <li>10 実験動物の環境制御：ストレス、環境制御の基準値</li> <li>11 実験動物の病気と衛生：消毒と滅菌、微生物制御、微生物モニタリング</li> <li>12 実験動物の感染症：感染症の制御、ウイルス病、細菌病、原虫病</li> <li>13 動物実験とバイオハザード：人獣共通感染症、バイオハザード対策</li> <li>14 動物実験代替法：動物実験と3R原則、動物実験代替法のメリット・デメリット</li> <li>15 動物実験と外挿：</li> </ol>							
<b>履修上の注意</b>							
動物実験に関しては賛否両論があるので、動物実験の是非について反対意見の人々と十分な議論ができるよう自分の意見を常に明確にしておく必要がある。その上で授業に出席してほしい。							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
授業参加度（20%）、学期末試験（60%）、レポート（20%）により成績評価を行う。							
<b>教科書</b>							
特に指定しない。適宜プリントを配布する。							
<b>参考書、教材等</b>							
最新実験動物学 前島一淑、笠井憲雪編 朝倉書店							

授業科目	産業動物学				担当教員	鎌田 壽彦	
科目英名	Farm Animal Science						
開講期間	4年次 前期	必/選	選択	単位	2	科目区分	専門応用 [動物応用科目群]
<b>講義目的</b>							
<p>わが国で飼育されている主な産業動物は牛・豚・鶏である。これらの動物の役割は食料の生産にあり、我々の生活と密接に関係している。これら動物の存在意義について理解してもらうとともに、生物を利用した食料生産の仕組みを理解してもらう。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>産業動物は家畜と言われるものの中でも人々の衣食住、特に今日では食に大いに貢献している動物である。これらの動物は野生種から人が改良を加えてきたものであり、その成立の歴史、役割の変遷をまず説明し、次に各種動物の品種とその特徴、能力の改良方法、繁殖と増殖方法、栄養給与方法などを紹介する。また、生産に重要な影響を与える病気と防疫対策、排泄物の処理方法などについても述べる。</p> <p>最後に農業の中での産業動物の位置づけや産業動物を用いる経営と、現在産業動物に生じている問題点をあげ、今後の産業動物のあり方について考える。</p>							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 産業動物とは、産業動物のなりたち</li> <li>2 産業動物が人の生活に果たす役割</li> <li>3 産業動物飼育の世界と日本における状況</li> <li>4 豚について</li> <li>5 鶏について</li> <li>6 肉牛について</li> <li>7 乳牛について</li> <li>8 我が国では少数が飼育されている、あるいは全く飼育されていない産業動物について</li> <li>9 産業動物の改良について</li> <li>10 産業動物の繁殖について</li> <li>11 産業動物の栄養と飼料について</li> <li>12 産業動物の衛生について</li> <li>13 産業動物の排泄物について</li> <li>14 産業動物の生産物と飼育経営について</li> <li>15 産業動物の問題点と将来について</li> </ol>							
<b>履修上の注意</b>							
<p>動物生理学、動物形態学、動物生化学、動物遺伝学等で得た知識が関係するので、これらを復習しておくことが望ましい。</p>							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
<p>授業への参加度とミニレポート（50%）、および定期試験（50%）で評価する。</p>							
<b>教科書</b>							
<p>教科書は特に指定しない。講義時に資料を配布する。</p>							
<b>参考書、教材等</b>							
<p>授業時に指示する。</p>							

授業科目	野生動物学				担当教員	天野 卓	
科目英名	Wild Animal Science						
開講期間	4年次 後期	必/選	選択	単位	2	科目区分	専門応用 [動物応用科目群]
<b>講義目的</b>							
<p>野生動物学を学ぶためには、野生動物が現在に至る過程、そしてそれらが現在日本や世界にどのように生息し、どのような環境でどのような生活様式を持ち、どのように人と関わっているのかを知っておかなければならない。講義前半では動物の系統進化と分類、野生動物の形態、行動、社会的構造を、後半では人間の社会経済活動と野生動物との関連を学び、野生動物に対する豊富な知識の修得と、社会が求める野生動物の保全や行動管理技術に必要な知識の教授を目的とする。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>動物の系統進化から始まり、現世哺乳類の分類、動物地理、野生動物の形態、生態、行動、社会構造等についての基本並びに生息地との関わりについて講義する。また、全ての伴侶動物や産業動物が野生動物から生じた事実も教示する。また、野生動物の調査法についても具体的に教授する。対象動物は哺乳類を中心とし、人との関連性が深い動物、保全上の問題を抱える動物、外来動物等を取り上げる。さらに日本と世界における野生動物保護の取組みについても講義する。</p>							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 野生動物学で学ぶべきこと：講義の目的、展開内容ならびにガイダンス</li> <li>2 動物の系統進化と分類：分類区分、種の定義</li> <li>3 動物の系統進化と分類：機能形態進化</li> <li>4 現世哺乳類の分類体系</li> <li>5 世界の動物地理、日本の動物地理</li> <li>6 野生動物調査法：調査設計、生息域、生息密度</li> <li>7 野生動物調査法：捕獲法</li> <li>8 野生動物の保護・管理：個体数管理・生息環境管理・被害管理</li> <li>9 野生動物医学、傷病鳥獣の救護、看護学</li> <li>10 絶滅危惧種、外来生物：要因、現状、対策</li> <li>11 食肉目：イヌ科の生活史</li> <li>12 食肉目：ネコ科、長鼻目：ゾウ科、鯨偶蹄目：キリン科の生活史</li> <li>13 鯨偶蹄目：ウシ、ヤギ等の生活史</li> <li>14 奇蹄目：ウマ、ロバ等の生活史</li> <li>15 野生動物に関わる職業：関連職業としてどのような職種があるのか</li> </ol>							
<b>履修上の注意</b>							
<p>野生動物学は合わせて、動物遺伝学、保全生物学を受講していることが望ましい。</p>							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
<p>試験（60%）、授業への参加度（40%）により総合的に評価する。</p>							
<b>教科書</b>							
<p>特に指定しない。</p>							
<b>参考書、教材等</b>							
<p>獣医学・応用動物科学系学生のための 野生動物学 村田浩一 坪田敏男編 文永同出版  野生動物学概論 田名部雄一、他著 朝倉書店  日本列島の野生動物と人 池谷和信編 世界思想社  動物大百科 D.W. マクドナルド編 今泉吉典監修 平凡社  教材としてプリント、スライド等を随時使用する。</p>							

授業科目	生物統計学				担当教員	天野 卓	
科目英名	Biostatistics						
開講期間	4年次 前期	必/選	選択	単位	2	科目区分	専門応用 [動物応用科目群]
<b>講義目的</b>							
<p>生物の量的および質的形質に関する実際の実験結果を用いて、その統計学的分析方法をできる限り平易に解説する。すなわち動物を対象として行った比較的少数個体での実験結果から、全体の傾向を把握し、また種々の外的および内的要因によって起こる実験の誤差を取り除き、あるいはその誤差を補正して一つの正しい推論を導き出す最適な統計手法を活用できるようにする。本講義は推計学解析に関する基礎的な方法を修得させることを目的とし、具体的には以下の授業計画に従って進められる。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>ある集団の傾向や性質、集団現象を数量的かつ客観的に把握するための最適な統計手法を、卒業論文や学術論文の論証方法として理解し活用できるよう解説し、研究主題に関連する文献・調査・実験などから得られた様々な情報やデータを解析するための技術を講義する。具体的には、分散・標準偏差・相関係数などの基礎統計量や、平易で多用性のある統計検定を教科書の例題、演習問題を用い具体的に教授する。</p>							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 動物の計測部位・計測方法</li> <li>2 統計学の基礎的事項 (1) 生物統計学とは、母集団と標本抽出、仮説の設定と信頼限界</li> <li>3 統計学の基礎的事項 (2) 各種平均値の算出方法</li> <li>4 統計学の基礎的事項 (3) 分散と自由度、偏差と誤差</li> <li>5 平均値の差の検定法 (1) 対応のない2組の標本数が等しい場合</li> <li>6 平均値の差の検定法 (2) 対応のない2組の標本数が異なる場合</li> <li>7 平均値の差の検定法 (3) 対応のある場合</li> <li>8 特殊な変量の取扱法：飛び離れた変量の棄却検定、パーセントで示された変量の取扱い</li> <li>9 分散分析法 (1) 要因が単一の場合 (一元配置法)</li> <li>10 分散分析法 (2) 要因が2種類の場合 (二元配置法)</li> <li>11 分散分析法 (3) 要因が3種類の場合 (三元配置法)</li> <li>12 カイ二乗検定法 (1) 標本度数と理論度数との比較</li> <li>13 カイ二乗検定法 (2) 複数個の標本度数の比較</li> <li>14 カイ二乗検定法 (3) 標本分布の適合検定</li> <li>15 相関と回帰：相関係数、回帰係数、有意性検定</li> </ol>							
<b>履修上の注意</b>							
<p>受講に際しては、平方根並びに10桁以上の計算可能な電卓を持参すること。</p>							
<b>評価方法 (評価基準を含む)</b>							
<p>試験及びレポート (60%)、授業への参加度 (40%) により総合的に評価する。</p>							
<b>教科書</b>							
<p>計量生物学 生物統計の基礎と演習 田中一栄 (監修) 天野 卓、野村こう、横濱道成編著 三共出版</p>							
<b>参考書、教材等</b>							
<p>特に指定しない。</p>							

授業科目	バイオテクノロジー				担当教員	小黒 美枝子	
科目英名	Biotechnology						
開講期間	4年次 後期	必/選	選択	単位	2	科目区分	専門応用 [動物応用科目群]
<b>講義目的</b>							
<p>生物がどのようなシステムで動くかを調べることは、バイオサイエンスと呼ばれている。そのシステムが解明されれば、そのシステムの修理、補助、作成ができる。バイオテクノロジー（遺伝子工学）は、その技術であり、生物を分子の集合体として理解し、化学の知識、技術を応用したバイオサイエンスと深い関係がある。将来、動物看護の専門分野や実生活において、膨大なバイオテクノロジーが利用され、バイオの問題に直面あるいは、判断を迫られる状況が増えるだろう。このような場面に的確に対応できる能力を養うことを目的とする。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>動物看護の分野では、幅広い総合的なサイエンスの知識を必要とする。動物看護学にも、最近では、DNA 鑑定や遺伝子などの言葉が頻繁に使用され、分子生物学やバイオテクノロジーの内容を理解することが必要である。本授業では、このような時代に不可欠なバイオの基礎知識を、生物に関する基礎知識を踏まえながら修得する。1.遺伝情報の発見、概念 2.動物の生命現象を分子レベルで見する方法 3.バイオテクノロジーの応用利用 4.バイオテクノロジー技術がもたらす光と影の 2 面性、以上をまとめ、バイオテクノロジーに対する正しい理解を修得する。</p>							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 バイオテクノロジー科目の紹介、遺伝子の不思議</li> <li>2 遺伝子とは何か。</li> <li>3 ヒトのゲノム、動物のゲノム</li> <li>4 遺伝子情報からタンパク質をつくる仕組み</li> <li>5 遺伝子組み換え技術の基礎</li> <li>6 PCR 法</li> <li>7 電気泳動、ブロットイング法など</li> <li>8 遺伝子診断</li> <li>9 DNA 鑑定</li> <li>10 遺伝子組み換え作物</li> <li>11 クローン動物</li> <li>12 毛色を決める遺伝子 (1) イヌ</li> <li>13 毛色を決める遺伝子 (2) ネコ等</li> <li>14 バイオテクノロジーが社会にもたらすこと</li> <li>15 基礎知識のまとめと確認試験</li> </ol>							
<b>履修上の注意</b>							
なし。							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
<p>定期試験、授業中に実施する小テスト（授業への参加度含む）により、総合的に評価する。評価基準は、それぞれ、60%、40%の割合とする。</p>							
<b>教科書</b>							
コア講義 分子生物学 田村隆明著							
<b>参考書、教材等</b>							
授業の中で紹介する。							

授業科目	動物愛護と関連法規の歴史				担当教員	会田 保彦・渋谷 寛	
科目英名	History of Act on Animals Welfare and Management						
開講期間	3年次 後期	必/選	必修	単位	2	科目区分	専門応用 [動物応用科目群]
講義目的							
<p>21世紀のキーワードは「環境問題」と言われ、その一環として世界的にも動物愛護の気風が高まっている。しかし、極めて耳に心地よい「動物愛護」なる言葉も、人が動物に対して抱く気持ちは千差万別であり、その本質的な意を理解することは難しい。</p> <p>本講義は、その高邁な理念をゆるやかに解きほぐして、基本的な考え方を示唆するとともに、普遍的で客観性の高い社会的規範としての法律とからめながら、あらましき実態を普及啓発する。</p>							
講義概要							
<p>悠久の歴史を有する人と動物の関わりは、ある種の文化の歴史でもある。このことをマクロの観点からとらまえ、人と動物が共有する生態系（地球）における温暖化、オゾン層破壊、砂漠化、野生動物の絶滅等の問題点とその原因や対策を論じながら、人と動物の共存こそが地球の将来を救う方策であることを検討する。</p> <p>そのために、動物の命を尊重する考え方を確立するとともに、特に家畜として人間社会に取り込まれた身近な動物たちを適切に管理し、社会的な責任を果たす必然性や法律との連係に理解を深めていく。</p>							
授業計画						担当教員	
1 生命の同一性：38億年前に海で生物が誕生し、3億年前に地上で進化を遂げる。						会田 保彦	
2 人類1万年の歩み：大海の一滴に等しい期間で、石器時代から原子力時代を迎える。						会田 保彦	
3 動物と人間の文化史：狩猟採集時代から現代までの人と動物の関わる歴史を探る。						会田 保彦	
4 動物愛護の変遷：原始宗教的なアニミズムから今日のアニマルライツまでをたどる。						会田 保彦	
5 宗教と動物観：キリスト教、仏教、イスラム教における動物観の相違と背景をみる。						会田 保彦	
6 日本人の動物観：古代より花鳥風月を愛で、仏教の影響もあり極めて情緒的である。						会田 保彦	
7 人類繁栄の陰で：宇宙船地球号は、なにも人類だけの占有物ではありません。						会田 保彦	
8 野生動物種の絶滅：生物多様性における連鎖を断ち切り、自然の摂理を破壊する。						会田 保彦	
9 ファームアニマルたちの窮状：全て経済効率が優先され、生物の尊厳が無視される。						会田 保彦	
10 自然との乖離：人間社会と自然界がバランスを取り、初めて正しい発展が期せる。						会田 保彦	
11 動物はメッセンジャー：動物は人類と自然界を結ぶ懸け橋である。						会田 保彦	
12 諸外国の「動物保護法」：英国、米国など欧米の動物愛護先進国の法律を学ぶ。						会田 保彦	
13 「動物愛護管理法」：人と動物の関わりについて国内唯一の立法処置である。						会田 保彦	
14 法律の現状と課題：業務や治療方法等を知っておく観点から獣医師法について学ぶ						渋谷 寛	
15 二本柱の構築：動物愛護の推進には、公権力による規制と動物観の向上が必要だ。						会田 保彦	
履修上の注意							
なし							
評価方法（評価基準を含む）							
試験（70%）、授業への参加度（30%）を基に総合的に評価する。							
教科書							
なし							
参考書、教材等							
教材としてプリント、スライド等を随時使用する。							

授業科目	社会調査法				担当教員	新島 典子	
科目英名	Social Research Methods						
開講期間	3年次 後期	必/選	選択	単位	2	科目区分	専門応用 [動物応用科目群]
<b>講義目的</b>							
動物看護師として、クライアント（飼い主）の状況やニーズを的確に把握し、よりよい診療につなげるための調査能力を養成することを目的とする。							
<b>講義概要</b>							
クライアントの希望する診療につなげるために、動物看護師は日常的に病状の聞き取りや飼い主とのコミュニケーションを密に行うことになる。これらの実践に直結する、インタビューなどを中心とした質的調査法の基礎およびアンケート調査のための量的調査法の基礎を学習する。							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 社会調査法とは何か</li> <li>2 社会調査の基礎知識</li> <li>3 質的調査の基礎Ⅰ： 質的調査の全体像と各手法の特徴</li> <li>4 質的調査の基礎Ⅱ： 質的調査の具体的方法</li> <li>5 質的調査の基礎Ⅲ： インタビュー調査の方法</li> <li>6 質的調査の実践Ⅰ： インタビュー調査の計画</li> <li>7 質的調査の実践Ⅱ： インタビュー調査の実践</li> <li>8 質的調査の実践Ⅲ： インタビュー調査の分析</li> <li>9 量的調査の基礎Ⅰ： 量的調査の全体像と各手法の特徴</li> <li>10 量的調査の基礎Ⅱ： 量的調査の具体的方法</li> <li>11 量的調査の基礎Ⅲ： アンケート調査の方法</li> <li>12 量的調査の実践Ⅰ： アンケート調査の計画</li> <li>13 量的調査の実践Ⅱ： アンケート調査の実践</li> <li>14 量的調査の実践Ⅲ： アンケート調査の分析</li> <li>15 社会調査法のまとめ： 調査研究発表</li> </ol>							
<b>履修上の注意</b>							
録音機器の貸出は行わない。ICレコーダー、あるいは、1時間半程度までの録音、再生、テープ起こしに利用出来る何らかの機器を各自で準備しておくこと。また、Microsoft Excel の操作に習熟しておくことが望ましい。							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
授業への参加度 40%、課題レポート 30%、発表 30%を総合的に評価。 課題レポートや発表が一定レベルに到達しない者には単位が出ないので注意すること。							
<b>教科書</b>							
初回講義内で紹介するので各自で準備すること。必要なときにはプリントで配布する。							
<b>参考書、教材等</b>							
『すぐわかる EXCEL によるアンケートの調査・集計・解析 第2版』内田治（著）出版社：東京図書 授業初回に紹介する。							

授業科目	動物災害・危機管理				担当教員	会田 保彦	
科目英名	Animal Health Emergency Management						
開講期間	4年次 後期	必/選	選択	単位	2	科目区分	専門応用 [動物応用科目群]
<b>講義目的</b>							
<p>近年、緊急不測の事態において、人命・財産はもとより生活をともにしている動物たちもまた大事な救護の対象とすることは自明の理である。</p> <p>なぜならば、動物を救うことは、とりもなおさず被災者（飼い主）の精神的なケアの上から欠かせない要素となっているからである。</p> <p>過去の震災等における被災動物救援の事例を基に、その救助体制（フレームワーク）の構築や救助方法の手立ての他、重要な位置付けとなるボランティア活動のありかた等を検証するとともに、危機管理の一環として平時における動物の適正な飼養こそが、最重要な課題であることを理解する。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>現代社会における動物たちの位置づけにつき、政府の調査ではそのおよそ 60%を超える飼い主が「家族の一員」と回答し、それが実際の災害時においても反映されてきた。この結果、災害で精神的経済的にダメージを受けた被災者のケアの上、動物もまた人と同様に救護の対象とすべきとの認識が高まってきたのである。即ち、動物を救うことは人を救うことでもあることを理解する。</p> <p>そのために内容は、未曾有の被害を発生させた平成23年の東日本大震災をケーススタディーとして、不測の事態におけるあらまほしき救援体制のフレームワークにおいて、ボランティアが貴重な人材として、十分な役割を果たすべく理解を深める。</p>							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 災害時における動物救援事例：近年の動物救援活動ケーススタディを検証</li> <li>2 動物救護の必然性：改正「動物愛護管理法」に裏付けられた根拠について</li> <li>3 東日本大震災に特化した動物救援：特徴・現状・今後の課題・将来の課題</li> <li>4 同行避難の原則：被災者（飼い主）と動物は必ず一緒に避難することが原則</li> <li>5 ボランティア総論：活動・立ち位置・欧米の事情・日本の実態・ボランティア社会への導入</li> <li>6 ボランティア各論：米国の超大型緊急車両・バイアス現象・燃え尽き症候群</li> <li>7 ボランティア総括：作業の優先順位・個人行動の順位・遵法精神の理解と実践</li> <li>8 ボランティアの種類：特化した役割を担う動物看護師と一般ボランティアの分業体制</li> <li>9 災害に備えよう：もう一人の家族を守るために何をすべきか（災害の事前と事後）</li> <li>10 動物救援マニュアル：マニュアルの必然性・基本編の作成・法的根拠の拡充</li> <li>11 動物救援のための必需品：飼い主・救援本部・シェルター用地の確保・今後の課題</li> <li>12 予防は治療に勝る：平時の適正な飼養こそが全ての基本原則</li> <li>13 災害多発時代の減災：地域特性・個人・地方自治体・減災の普及啓発</li> <li>14 飼い主責任：大事な家族の一員を最終的に救うことができるのは飼い主の心がけ</li> <li>15 震災のシュミレーション：天災の周年サイクル・メディアの警告・備えあれば憂い無し</li> </ol>							
<b>履修上の注意</b>							
なし。							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
試験（70%）、授業への参加度（30%）を基に総合的に評価する。							
<b>教科書</b>							
緊急災害時動物支援マニュアル 発行：財団法人日本動物愛護協会							
<b>参考書、教材等</b>							
教材としてプリント等を随時使用する。							



授業科目	ペットビジネスマネジメント				担当教員	赤羽根 和恵・前原 晴彦	
科目英名	Pet Business Management						
開講期間	4年次 後期	必/選	選択	単位	2	科目区分	専門応用 [動物応用科目群]
<b>講義目的</b>							
<p>本講義は、動物病院やペットショップなどの経営と開業に必要な専門知識の修得を目的とする。近年のペット関連市場の成長は鈍化しておりそれに伴い競争の激化も招いている。その中でペットとの共生環境の整備、飼い主のニーズに合う商品・サービスの創出をし、ビジネスチャンスを探求していく。ペット関連市場で即戦力となる専門知識を具体的に修得する。さらに将来役立つマネジメント（経営）の手法を学び、わが国のペットビジネスについての理解を深めていく。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>ペット関連市場の概況に関するデータを読み解き分析を行う。実践例を用いてわかりやすく解説し、実務に役立つ専門知識と技術が身に付くよう講義を進める。講義後半でビジネスプラン（事業計画書）の作成を行い、ペットビジネスの起業をシミュレーションする。本講義を通じ、仕入・販売計画、財務管理、接客マナー、法律と手続き等、ビジネスに必要なエッセンスを学んでいく。起業に関心のある学生はもちろん、就職を控えた4年生のビジネススキルの修得も図られる。本講義は2名の教員で担当するオムニバス方式で開講する。</p>							
<b>授業計画</b>						<b>担当教員</b>	
1 事例研究（1）：商いの原点(顧客と売買成立)						赤羽根 和恵・前原 晴彦	
2 ペット関連市場の概況（1）：日本経済の状況とコンパニオアニマルの市場						前原 晴彦	
3 ペット関連市場の概況（2）：動物病院の市場と患者傾向						前原 晴彦	
4 ペット関連市場の概況（3）：犬種流行分析						前原 晴彦	
5 ペットビジネスマネジメント（1）：経営理念						前原 晴彦	
6 ペットビジネスマネジメント（2）：商圏と店舗展開						前原 晴彦	
7 事例研究（2）：ストアマネジメント(売場の作り方)						前原 晴彦	
8 ペットビジネスマネジメント（3）：MDとストアオペレーション						前原 晴彦	
9 ペットビジネスマネジメント（4）：計数(売上と利益、率と額)						前原 晴彦	
10 ビジネスプラン（1）：事業計画の立て方・必要な法知識、許認可手続き						赤羽根 和恵	
11 ビジネスプラン（2）：SWOT分析・ケーススタディ						赤羽根 和恵	
12 ビジネスプラン（3）：資金計画、借入・返済計画						赤羽根 和恵	
13 ビジネスプラン（4）：損益分岐点分析						赤羽根 和恵	
14 ビジネスプラン（5）：ビジネスプラン報告会						赤羽根 和恵・前原 晴彦	
15 ビジネスプラン（6）・総括：ビジネスプラン報告会および総括						赤羽根 和恵・前原 晴彦	
<b>履修上の注意</b>							
<p>授業の後半で、ビジネスプラン（事業計画書）の作成を行なっていく。止むを得ない欠席の際は、事前に届け出るか後日担当教員の指示を仰ぎ、次回の講義までにプリントの作成をし持参すること。</p>							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
<p>授業への参加度を40%、ビジネスプランの作成と報告、試験を60%とし、総合的に評価する。</p>							
<b>教科書</b>							
<p>なし（適宜、資料を配布する）。</p>							
<b>参考書、教材等</b>							
<p>講義中に紹介する。電卓を使用する回がある。</p>							

授業科目	社会福祉論					担当教員	秋元 弘子
科目英名	Social Welfare						
開講期間	3年次 前期	必/選	選択	単位	2	科目区分	専門応用 [動物介在福祉科目群]
<b>講義目的</b>							
<p>動物介在福祉を学ぶ学生として、また一人の社会人として理解しておくべく我が国の社会福祉の現状や課題、特に少子超高齢社会に関連する実情や問題点を学び、社会福祉の現代的意義を理解し、社会福祉の関連領域に社会的実践が結びつくような講義を目指す。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>社会福祉の現代的意義や現状、課題を体系的に学ぶ。利用者本位、人権擁護、人間の尊厳の現代福祉の理念を基本に据えて、講義を中心に行うが、具体的にわかりやすい授業にしていくため、DVD鑑賞やテーマごとのグループワーク等を取り入れ、テーマごとに学生諸君が自分の意見を主張できるような授業を展開する。</p>							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション 授業の進め方・評価方法等</li> <li>2 戦後の我が国の福祉政策の変遷①</li> <li>3 戦後の我が国の福祉政策の変遷②</li> <li>4 社会福祉の対象分野</li> <li>5 高齢者福祉①現状</li> <li>6 高齢者福祉②介護保険制度</li> <li>7 高齢者福祉③認知症</li> <li>8 高齢者福祉④看取り</li> <li>9 所得保障（年金制度・雇用保険等）</li> <li>10 低所得者福祉②高齢者</li> <li>11 低所得者福祉②若者</li> <li>12 低所得者福祉③女性等</li> <li>13 社会福祉援助の担い手と従事者の資格制度</li> <li>14 社会福祉の国際的動向・少子超高齢社会の展望</li> <li>15 まとめ</li> </ol>							
<b>履修上の注意</b>							
<p>今日の社会福祉の問題について、学生間・講師との積極的な議論・討論により、今後の我が国の福祉のあり方を模索・探求していく意欲を期待します。</p>							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・採点基準：授業への参加状況（60%）と試験（40%）。</li> <li>・試験方法：授業の中で示す。</li> </ul>							
<b>教科書</b>							
<p>・「新・プリマーズ／保育／福祉 社会福祉 第2版」石田慎二、山縣文治編著 ミネルヴァ書房</p>							
<b>参考書、教材等</b>							
<p>・『国民福祉の動向』 財団法人厚生統計協会 2013/2014 また、講義中に随時紹介していく。</p>							

授業科目	障害者福祉論					担当教員 濱田 清吉・山川 伊津子	
科目英名	Social Services for The Disabled						
開講期間	3年次 後期	必/選	選択	単位	2	科目区分	専門応用 [動物介在福祉科目群]
<b>講義目的</b>							
<p>障害福祉を学ぶにあたり、障害福祉とは何か、障害の概念と実態を把握させていくと同時に、理念、目的、歴史、法・制度、サービス体系、国際的動向、教育と雇用等を理解させる。昨年、障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律「障害者差別禁止法」が成立し、28年に施行。今日、支援費制度から自立支援法、障害者総合支援法へと障害者福祉制度の新しい動向をふまえ、また、障害の重症、重度化に伴い、ニーズの複雑多様化への福祉サービス供給体制の充実が求められている。そのためにも、障害者福祉を学ぶにあつて、法制度、支援サービス体系、その方法、内容等について、実践方法と理論の構成、具体的支援の検討を行い、講義を展開し、理解させる。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>具体的にはサービスの受けてある障害者の生活に関連する法制度やサービス体系、内容などを取り上げ、講義を中心に、具体的な授業にしていくことに重点を置いていく。事例紹介、検討、グループワーク、当事者の話を聞き、施設見学等を随時取り入れていく。</p>							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 障害福祉とは ・人権尊重と権利擁護・ノーマライゼーション・自立とリハビリテーション</li> <li>2 障害の概念と障害の実態 ・障害の構造的理解の意味 ・障害者の法的定義</li> <li>3 障害者福祉の歴史 ・社会福祉構造改革の意義 ・法制度の変遷 ・セルフヘルプグループ</li> <li>4 わが国の障害者福祉サービスの体系 ・福祉サービスと自立支援法、その発展と概要</li> <li>5 障害者福祉の国際的動向 ・世界の変容と障害 ・障害者権利条約</li> <li>6 障害者の教育と就労支援 ・教育、雇用の実態</li> <li>7 障害者と居住環境 ・福祉の街づくりからノーマライゼーションの具現化</li> <li>8 障害者と社会保障制度,社会資源 ・保健,医療、年金、手当て、介護について</li> <li>9 障害者とソーシャルワーク ・専門職と援助相談</li> <li>10 相談援助活動事例の検討 1) 身体障害（高次脳機能障害）のある人への援助</li> <li>11 相談援助活動事例の検討 2) 知的障害のある人への援助</li> <li>12 相談援助活動事例の検討 3) 精神障害のある人への援助</li> <li>13 相談援助活動事例の検討 4) 難病を抱えた人への医療ソーシャルワーカー（MSW）の援助</li> <li>14 相談援助活動事例の検討 5) 重複障害（重症心身障害）のある人への援助</li> <li>15 相談援助活動事例の検討 6) 生活困窮、無年金障害者の実態</li> </ol>							
<b>履修上の注意</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的な意見、討論を期待する。</li> </ul>							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席確認 出欠重視</li> <li>・試験方法 授業の中で試験（レポート）題目を示す</li> <li>・採点基準 授業への参加度（30%）、試験（レポート）（70%）</li> </ul>							
<b>教科書</b>							
講義時にレジュメ、資料等を配布する。							
<b>参考書、教材等</b>							
『障害者白書』 内閣府 編 財務省印刷局発行 『福祉の思想』 糸賀一雄 NHKブック 『国民福祉と介護の動向』 財団法人厚生統計協会 『新版 障害者福祉』 学文社出版 成瀬美治、伊東葉子、青木聖久編著							

授業科目	児童福祉論				担当教員	宮武 正明	
科目英名	Social Welfare for Children						
開講期間	3年次 後期	必/選	選択	単位	2	科目区分	専門応用 [動物介在福祉科目群]
<b>講義目的</b>							
<p>少子化社会という、今日のおが国の社会、経済、文化的背景をふまえて、多様な家庭形態のなかで生じる児童家庭問題に関して子どもの育ちと子育ての援助・制度について現状を把握し、児童福祉の理念・制度・方法について理解することを目的とする。</p> <p>授業内容のポイントとしては、1. 児童福祉の法律・制度・福祉機関・施設を体系的に理解する。2. 児童福祉サービスの現状と課題を把握する。3. 子ども・家族に対する援助内容と方法について学ぶ。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>本講義では、講師作成のレジュメを使用しての通常の講義形式のほか、講義内容に即した生活記録やビデオなどを利用した授業を行っていく。学生からのリアクションも取りながら、基礎的知識をさらに発展させ、実践的な「児童福祉」のあり方を学生が主体的に学べるように授業を展開していきたい。</p>							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション、児童福祉の理念</li> <li>2 現代社会における子どもと家庭</li> <li>3 児童福祉の歴史</li> <li>4 児童・家庭福祉の法律</li> <li>5 児童福祉の実施のしくみ 児童相談所、子ども家庭支援センター</li> <li>6 母子の健康、母子保健 保健所・保健センター</li> <li>7 保育に関するサービス 保育所</li> <li>8 子育て支援施策と児童健全育成</li> <li>9 児童虐待対策の概要と社会的養護 児童養護施設</li> <li>10 障害児者の進路保障</li> <li>11 ひとり親家庭の福祉</li> <li>12 非行問題と児童福祉施策 児童自立支援施設</li> <li>13 児童福祉サービスの担い手</li> <li>14 児童福祉の相談援助</li> <li>15 まとめ</li> </ol>							
<b>履修上の注意</b>							
<p>毎回、授業中にリアクションペーパーを記入してもらいます。積極的な授業参加を望んでいますが、疑問、質問は紙上でもよいので必ず確認してください。児童福祉についてさらに学びを深め、実践的な力がつくよう、双方向な授業にしていきたいと思います。</p>							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
<p>毎講義後のリアクションペーパーによる平常点 20%、および中間レポート 30%と学期末試験 50%を目安に総合的に評価する。</p>							
<b>教科書</b>							
<p>レジュメ・資料は講義時間に配布します。</p> <p>『新・エッセンシャル児童家庭福祉論 [第2版]』 (株)みらい 千葉茂明編</p>							
<b>参考書、教材等</b>							
<p>『子どもの貧困—貧困の連鎖と学習支援—』 (株)みらい、26.3 新刊 宮武正明著</p> <p>各講義で子どもの作文などの生活記録やビデオなどの視聴覚教材も紹介する。</p>							

授業科目	臨床心理学				担当教員	小倉 啓子	
科目英名	Clinical Psychology						
開講期間	3年次 前期	必/選	選択	単位	2	科目区分	専門応用 [動物介在福祉科目群]
<b>講義目的</b>							
心理学の立場から人間の心の理解を深め、心理的問題の解決や改善を図るための基礎知識を学び、日常生活にも役立てていく。							
<b>講義概要</b>							
心理的にみて、人間は子ども期、思春期・青年期、成人期、老年期の各時期に特有の問題に出会うことになり、人間関係や勉強、進路、仕事のことなどの問題で悩むことがある。このような時に、人はどんなことになぜ悩みむのか、どのようにして問題を解決したら良いのかを勉強しておくことは、自分らしく伸び伸びと生きていくうえで大きな力になるだろう。また、臨床心理学では、心理的な視点から自分の性格や行動の特徴をとらえ、対人関係やストレスと効果的に取り組むことが出来るような知識を学ぶ。							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 臨床心理学とは：臨床心理学の歴史、現代社会の心理的環境の問題</li> <li>2 子ども期・思春期の心の成長と課題</li> <li>3 青年期の心の成長と課題</li> <li>4 成人期の心の成長と課題</li> <li>5 性格 性格とは何か 性格のとらえ方①</li> <li>6 性格 性格のとらえ方②</li> <li>7 心の課題・病理</li> <li>8 心の課題・病理</li> <li>9 心の課題・病理</li> <li>10 ストレスとその対処</li> <li>11 より自分らしく、より良い人間関係へ</li> <li>12 より自分らしく、より良い人間関係へ</li> <li>13 より自分らしく、より良い人間関係へ</li> <li>14 援助者としての姿勢 医療現場での人間関係</li> <li>15 まとめ</li> </ol>							
<b>履修上の注意</b>							
授業中の発表や作業、ワークシート作成、レポート提出などがある。集中して積極的に参加する。							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
評価方法 授業への参加度・授業態度 30% レポート・試験 70%							
<b>教科書</b>							
プリント配布の予定							
<b>参考書、教材等</b>							
授業中に知らせる							

授業科目	障害者心理ケア論				担当教員	西村 信子	
科目英名	Psychology of Persons with Disabilities and The Psychological Care						
開講期間	4年次 前期	必/選	選択	単位	2	科目区分	専門応用 [動物介在福祉科目群]
<b>講義目的</b>							
<p>障害とは何か、障害に関する基礎的な事項である各障害の用語、定義、原因、分類、発達とその特性について知識を深める。また、人の発達を誕生から死までというロングスパンで捉えた生涯発達の視点から、障害をもつ人々とその家族が抱える問題の共通性と個別性について考察していく。さらに、実際の事例を用いて障害をもつ人々とその家族への心理ケアのあり方について検討を行い、実践的能力の習得を図る。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>本講義では、障害をもつ人々と共に暮らす社会の実現に向け、これまでの福祉政策の変遷と障害をもつ人々の発達特性について解説し、彼らが抱える心理社会的な問題と各問題に応じた心理ケアについて検討していく。</p>							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 障害者心理ケアとは</li> <li>2 障害者福祉施策の変遷</li> <li>3 障害と喪失感：段階説と慢性的悲哀概念</li> <li>4 身体面に見られる障害①：視覚障害</li> <li>5 身体面に見られる障害②：聴覚障害</li> <li>6 身体面に見られる障害③：その他の障害</li> <li>7 精神面に見られる障害①：発達障害</li> <li>8 精神面に見られる障害②：統合失調症</li> <li>9 精神面に見られる障害③：気分障害</li> <li>10 精神面に見られる障害④：不安障害</li> <li>11 精神面に見られる障害⑤：そのほかの障害</li> <li>12 障害をもつ人々の心理社会的発達と心理ケア（事例検討①）：視覚・聴覚障害</li> <li>13 障害をもつ人々の心理社会的発達と心理ケア（事例検討②）：発達障害</li> <li>14 障害をもつ人々の心理社会的発達と心理ケア（事例検討③）：気分障害</li> <li>15 障害をもつ人々の心理社会的発達と心理ケア（事例検討④）：不安障害</li> </ol>							
<b>履修上の注意</b>							
<p>障害をもつ人々やその家族への適切な支援とはどのようなものか、自らが当事者の立場を想定しながら日常生活を送るよう心がけてみましょう。</p>							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
<p>授業におけるディスカッションへの参加や小レポート提出等授業への取り組み（40%）、学期末試験（60%）をもとに評価する。</p>							
<b>教科書</b>							
なし（レジュメ使用）							
<b>参考書、教材等</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中田洋二郎（2003）子どもの障害をどう受容するか 大月書店</li> <li>・中司利一（2005）障害者心理 ミネルヴァ書房</li> <li>・伊藤智佳子・徳田茂（2003）障害をもつ人の家族の心理 一橋出版</li> <li>・山内弘継・橋本幸（監修）岡市廣成・鈴木直人（編）（2006）心理学概論 ナカニシヤ出版</li> </ul>							

授業科目	障害者心理ケア論演習				担当教員	西村 信子	
科目英名	Advanced Reading and Research in Psychology of Persons with Disabilities and The Psychological Care						
開講期間	4年次 後期	必/選	選択	単位	1	科目区分	専門応用 [動物介在福祉科目群]
<b>講義目的</b>							
<p>障害をもつ人々とその家族の発達特性、直面する様々な心理社会的問題および現状における心理ケアに関する文献(英語文献を含む)を講読し、最新の知見とそこで用いられている研究手法(質問紙、インタビュー、実験等)について学ぶ。また、自らが関心をもった研究テーマに沿う文献についてはレジュメとしてまとめ発表を行うとともに、卒業論文を見据えた研究計画書の作成を試みる。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>本講義では、障害をもつ人々とその家族に関する研究計画書の作成を最終目標とし、国内外の関連文献を講読し、自らが障害をもつこと、また家族が障害をもつことによる心理社会的発達への影響や心理ケアの効果について理解を深める。また、各自が関心をもつ研究テーマを絞り、関連文献については発表およびディスカッションを行い、互いの情報と問題を共有していく。</p>							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 障害者心理ケアとは</li> <li>2 障害をもつ人々とその家族の心理社会的発達と心理ケア①：乳児期・幼児期</li> <li>3 障害をもつ人々とその家族の心理社会的発達と心理ケア②：児童期・青年期</li> <li>4 障害をもつ人々とその家族の心理社会的発達と心理ケア③：成人初期・成人中期・成人後期</li> <li>5 障害者心理ケアに関連する文献の集め方</li> <li>6 障害者心理ケアに関連する研究の方法①：質問紙調査・インタビュー調査</li> <li>7 障害者心理ケアに関連する研究の方法②：フィールド調査・行動観察調査・実験調査</li> <li>8 テキストクリティークについてのディスカッション①：乳児期</li> <li>9 テキストクリティークについてのディスカッション②：幼児期</li> <li>10 テキストクリティークについてのディスカッション③：児童期</li> <li>11 テキストクリティークについてのディスカッション④：青年期</li> <li>12 テキストクリティークについてのディスカッション⑤：成人期</li> <li>13 研究計画についてのプレゼンテーション①：乳児期・幼児期</li> <li>14 研究計画についてのプレゼンテーション②：児童期・青年期</li> <li>15 研究計画についてのプレゼンテーション③：成人初期・成人中期・成人後期</li> </ol>							
<b>履修上の注意</b>							
<p>障害をもつ人々やその家族への適切な支援とはどのようなものか、自らが当事者の立場を想定しながら日常生活を送るよう心がけてみましょう。</p>							
<b>評価方法(評価基準を含む)</b>							
<p>授業におけるディスカッションへの参加や研究計画内容についての発表等授業への取り組み(40%)とテキストクリティークと研究計画書の提出(60%)をもとに評価する。</p>							
<b>教科書</b>							
なし(レジュメ使用)							
<b>参考書、教材等</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中田洋二郎(2003)子どもの障害をどう受容するか 大月書店</li> <li>・中司利一(2005)障害者心理 ミネルヴァ書房</li> <li>・伊藤智佳子・徳田茂(2003)障害をもつ人の家族の心理 一橋出版</li> <li>・岡市廣成・鈴木直人(編)(2006)心理学概論 ナカニシヤ出版</li> <li>・戸田山和久(2006)論文の教室：レポートから卒論まで 日本放送出版協会</li> </ul>							

授業科目	高齢者心理ケア論					担当教員	小倉 啓子
科目英名	Study of Mental Care for The Aged						
開講期間	3年次 後期	必/選	選択	単位	2	科目区分	専門応用 [動物介在福祉科目群]
<b>講義目的</b>							
<p>少子高齢社会のなかで重要な課題である高齢者の理解とケアについて、心理学の立場から理解すると同時に、身近な高齢者との関わり方や自分の将来に関して考える機会とする。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>今 20 歳前後の青年が 65 歳になる時には、3 人に 1 人以上が高齢者であると予測されている。このような社会では介護が必要な高齢者、認知症患者の増加は重要な社会的課題であり、誰でもが出会う問題である。そこで、高齢者心理ケアでは、高齢者の健康の課題・家族関係、幸福感や生きがい、孤独や病気など多様な角度から高齢者の心を学び、高齢者理解やケアのあり方を取り上げる。認知症の理解とケアは重要なテーマであり、回想法などの心理療法の実習を行う。</p>							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 高齢社会とは：高齢者の増加・老化のメカニズム・老性自覚</li> <li>2 高齢によって衰える部分と維持される部分・発達する部分</li> <li>3 高齢者が生きてきた時代背景</li> <li>4 高齢者のパーソナリティとその変化</li> <li>5 高齢者の幸福感と生きがい・生き生きと暮らす高齢者</li> <li>6 高齢者の心理的な問題：ストレスと孤独・うつ病とその予防</li> <li>7 高齢者の心理的な問題：妄想と異常な行動</li> <li>8 認知症とは何か・認知症の検査</li> <li>9 認知症患者が生きている世界</li> <li>10 高齢者の心の健康のために 福祉と医療</li> <li>11 高齢者の心の健康のために 回想法</li> <li>12 高齢者の心の健康のために 回想法の実習</li> <li>13 高齢者の心の健康のために アニマルセラピー</li> <li>14 生活と家族への支援</li> <li>15 レビュー</li> </ol>							
<b>履修上の注意</b>							
<p>授業では、発表・発言・作業、ワークシート提出が求められる。授業に積極的に参加し、欠席・遅刻、私語をしないこと。特別講師招聘の場合、授業の順序が入れ替わることもある。</p>							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
<p>授業への参加度・授業の参加態度 30% レポート・試験 70%</p>							
<b>教科書</b>							
<p>適宜プリントを配布。</p>							
<b>参考書、教材等</b>							
<p>授業中に知らせる。</p>							



授業科目	子どもの発達と心理ケア				担当教員	西村 信子	
科目英名	Child Development and the Psychological Care						
開講期間	3年次 後期	必/選	選択	単位	2	科目区分	専門応用 [動物介在福祉科目群]
<b>講義目的</b>							
<p>乳児期、幼児期、児童期、青年期にある子どもの心と身体の発達について理解を深めることを目的とする。また、面接事例を通して、各発達段階の子どもにみられる心理臨床学的な問題を理解するとともに、その問題解決に用いられる心理臨床プロセスにおける心理アセスメントや心理療法について概観していく。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>本講義では、乳児期から青年期の子どもの成長・発達について、心理社会的発達理論・愛着理論・認知発達理論の三つの理論の視点から概観していく。また、子どもと呼ばれる人々への心理ケアについても、心理アセスメントや心理療法を中心に解説する。さらに、近年注目されている子どもたちの引き起こす様々な問題行動についても、事例を用いて検討していく。</p>							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 エリクソンの心理社会的発達理論：乳児期</li> <li>2 エリクソンの心理社会的発達理論：幼児期</li> <li>3 ボウルビイの愛着理論</li> <li>4 ピアジェの認知発達理論：感覚運動期</li> <li>5 ピアジェの認知発達理論：前操作期・具体的操作期</li> <li>6 エリクソンの心理社会的発達理論：児童期</li> <li>7 エリクソンの心理社会的発達理論：青年期</li> <li>8 子どもの抱える問題と心理ケア（事例検討①）：児童虐待</li> <li>9 子どもの抱える問題と心理ケア（事例検討②）：いじめ</li> <li>10 子どもの抱える問題と心理ケア（事例検討③）：不登校・ひきこもり</li> <li>11 エリクソンの心理社会的発達理論：成人前期</li> <li>12 エリクソンの心理社会的発達理論：成人中期</li> <li>13 エリクソンの心理社会的発達理論：成人後期</li> <li>14 子どもの周囲にいる大人の抱える問題と心理ケア（事例検討①）：ハラスメント</li> <li>15 子どもの周囲にいる大人の抱える問題と心理ケア（事例検討②）：加齢</li> </ol>							
<b>履修上の注意</b>							
<p>自らの成長・発達について振り返ってみましょう。また、家族やその他あなたをよく知る方々へのインタビューを通して、他者から見た自分についても考察してみましょう。</p>							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
<p>授業におけるディスカッションへの参加や小レポート提出等授業への取り組み（40%）、学期末試験（60%）をもとに評価する。</p>							
<b>教科書</b>							
なし（レジュメ使用）							
<b>参考書、教材等</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・坂井朗・青木紀久代・菅原ますみ（編）（2007）子どもの発達危機の理解と支援 - 漂流する子ども 金子書房</li> <li>・山口勝己（2007）子ども理解と発達臨床 北大路書房</li> <li>・長崎勤・古澤頼雄・藤田継道（編）（2004）臨床発達心理学概論 - 発達支援の理論と実際 ミネルヴァ書房</li> <li>・柏木恵子・古澤頼雄・宮下孝広（2004）発達心理学への招待 ミネルヴァ書房</li> </ul>							

授業科目	カウンセリング論				担当教員	小倉 啓子・岡藤 円春	
科目英名	Study of Counseling						
開講期間	4年次 前期	必/選	選択	単位	2	科目区分	専門応用 [動物介在福祉科目群]
<b>講義目的</b>							
<p>カウンセリングとは人間を理解し、その成長を働きかけ、促していくものである。こうしたカウンセリングの考え方は、日常生活や社会生活における人間関係およびコミュニケーションにおいても重要であると言える。カウンセリング論ではカウンセリングとは何か、カウンセラーの基本的態度や人間理解の方法、さまざまなカウンセリングの方法などの基本を学ぶ。また、他者を理解し、援助するためには自分自身を理解することが非常に重要である。そのため、ワーク等を通して、人の心の理解とそれを踏まえた人への適切な接し方を知ることが目的とする。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>カウンセリングとは何か、またクライアントはどのような問題をもって来るのか、カウンセラーはどのような人間理解の理論と技法に応じてクライアントの対するのか。クライアントはカウンセリングによってどのような過程を経て変化していくのか。また、自分自身を知り、自身の対人間関係の持ち方を振り返るにはどのような方法があるのか。このような課題を視聴覚資料、実習、講義を通して学習する。</p>							
<b>授業計画</b>						<b>担当教員</b>	
1 授業の説明・カウンセリングとは						小倉 啓子	
2 カウンセリングの歴史						小倉 啓子	
3 カウンセリングの方法：約束事、導入、展開						小倉 啓子	
4 カウンセリングの過程						小倉 啓子	
5 カウンセラーの応答						小倉 啓子	
6 カウンセリングの理論						小倉 啓子	
7 カウンセリングの実際：子どもの問題						岡藤 円春	
8 カウンセリングの実際：子どもの問題						岡藤 円春	
9 カウンセリングの実際：青年期の問題						岡藤 円春	
10 カウンセリングの実際：精神科における問題						岡藤 円春	
11 カウンセリングの実際：精神科における問題						岡藤 円春	
12 カウンセリングの実際：家族の問題						小倉 啓子	
13 カウンセリングの実際：職場の問題						小倉 啓子	
14 カウンセリングの実際：喪失・死別の問題						小倉 啓子	
15 まとめ						小倉 啓子	
<b>履修上の注意</b>							
<p>授業では、講義の他にワークも行うため、積極的にワークに取り組むことを求める。また、受講者には小レポートの提出を求める。</p>							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
<p>授業への参加度・授業への参加態度 30%、小レポート・課題レポート 70%</p>							
<b>教科書</b>							
<p>適宜、プリントを配布</p>							
<b>参考書、教材等</b>							
<p>適宜、プリントを配布</p>							

授業科目	ペットロス論				担当教員	新島 典子・山川 伊津子	
科目英名	Theories of Pet Loss and Bereavement						
開講期間	4年次 前期	必/選	選択	単位	2	科目区分	専門応用 [動物介在福祉科目群]
<b>講義目的</b>							
動物看護の現場でよき理解者、支援者となれるよう、本講義では様々な観点からペットロス（ペットの喪失およびそれにより引き起こされる悲嘆）について学習する。							
<b>講義概要</b>							
ペットロスとは、愛着対象のペットを喪失する体験およびその際に生じる飼い主の悲嘆である。飼い主にとり、家族同様に飼育するペットとの別れは深刻で悲痛な体験となる。調査等で収集した具体的な実例や学外ゲストの講演等も含め、ペットを喪失した飼い主がどのような過程を辿るか、周囲の他者はどのように対応できるのかについて、喪失原因や人間関係等の諸要因をふまえ、人との死別体験にも応用可能な死生学の知見も入れて分析する。講義全15回中10回は新島が、5回は山川が担当する。							
<b>授業計画</b>						<b>担当教員</b>	
1 ペットロス論とはなにか						新島 典子	
2 ペットロスの基礎知識Ⅰ：ペットロスの定義、ヒトと動物の絆、愛着とは						山川 伊津子	
3 ペットロスの基礎知識Ⅱ：心と体の変化（通常の悲嘆反応）						山川 伊津子	
4 ペットロスの基礎知識Ⅲ：立ち直りのプロセス						山川 伊津子	
5 ペットロスの基礎知識Ⅳ：ペットロスの背景要因						山川 伊津子	
6 ペットロスの基礎知識Ⅴ：ペットロスに対する予防策と対処法						山川 伊津子	
7 ペットと飼い主の関係性Ⅰ：先行研究紹介など						新島 典子	
8 ペットと飼い主の関係性Ⅱ：時事的問題ほか						新島 典子	
9 ペットの喪失Ⅰ：先行研究紹介など						新島 典子	
10 ペットの喪失Ⅱ：時事的問題ほか						新島 典子	
11 ペットの喪失に影響を及ぼす要因Ⅰ：先行研究紹介など						新島 典子	
12 ペットの喪失に影響を及ぼす要因Ⅱ：時事的問題ほか						新島 典子	
13 ペットの喪失への対処Ⅰ：先行研究紹介など						新島 典子	
14 ペットの喪失への対処Ⅱ：時事的問題ほか						新島 典子	
15 ペットロス論のまとめ						新島 典子	
<b>履修上の注意</b>							
履修予定者は2・3年次開講の「生活と社会」を履修しておくことが好ましい。							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
授業への参加度 35%、課題レポート 25%、試験 40%を総合的に評価。							
<b>教科書</b>							
講義内で適宜紹介する。必要なときにはプリントを配布する。							
<b>参考書、教材等</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・Lagoni, Butler 他著,1994.<i>The Human-Animal Bond and Grief</i>, W.B.Saunders Company.=2000. 鷲巢月美監訳・山崎恵子（訳）『ペットロスと獣医療』チクサン出版社.</li> <li>・Stewart, Mary F.著,1999.<i>Companion Animal Death: A Practical and Comprehensive Guide for Veterinary Practice</i>, Butterworth Heinemann.=2000.永田正訳『コンパニオンアニマルの死：獣医療のための実際的、包括的ガイド』学窓社.</li> </ul>							
その他講義内で適宜紹介する。必要なときにはプリントを配布する。							

授業科目	動物福祉とボランティア				担当教員	会田 保彦	
科目英名	Animal Welfare and Volunteers						
開講期間	4年次 前期	必/選	選択	単位	2	科目区分	専門応用 [動物介在福祉科目群]
<b>講義目的</b>							
<p>ヒトと動物が仲良く上手に暮らせる社会の実現を目指すためには、動物の愛護及び福祉に関する諸施策を推進する必要がある。即ち、前者は動物虐待を防止するための予防措置であり、後者は動物を適正に管理するための治療措置として、その両面のバランスが求められる。中でも、動物福祉におけるわが国の現状は残念ながら欧米の動物愛護先進国に比べおくられている。</p> <p>ここでは、広く国際的に認知されている五つの動物福祉基準（自由）を学ぶとともに、その現場においては専門ボランティアとしていかに力を発揮して動物福祉活動の中心的な役割を担えるよう指導する。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>人と動物が共生するところ豊かな社会を実現するためには、動物の命を尊重するとともにその習性生理生態を考慮して適切に取り扱うようにしなければならない。しかし、ペットブームの陰では虐待や遺棄が引きも切らずに動物たちに犠牲を強いている現実を理解するとともに、すでに国際的に認められている動物の福祉基準である「5つの自由」の理論を学ぶことを目的とする。</p> <p>そのために内容は、平素は動物の適正飼養の普及啓発に勤しむ一方、劣悪な飼育現場やシェルターワークの実践においては、貴重な専門ボランティアとして動物たちのケアにあたりるとともに、併せてリーダーとして活動すべく心構えを培うことを検討する。</p>							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 愛護と福祉：感情等をベースに正しい理解か一定水準の生存状態の維持が目的か</li> <li>2 二つの大きな流れ：人道教育の手段（AHA）か虐待防止が目的（SPCA）か</li> <li>3 福祉施策の選択肢：全て行政にゆだねるか官と民の連係体制を構築するのか</li> <li>4 シェルターワーク：動物のケア対応として動物看護師の参加は不可欠</li> <li>5 諸外国の現状：民間が主体となりコストの一部は行政の委託費や寄付金で賄う</li> <li>6 五つの自由：動物福祉の基本としてペット・産業動物を対象に国際的に認知</li> <li>7 飢えと渇きからの自由：健康維持のために適切な食餌と給水を確保</li> <li>8 不快からの自由：不潔な飼養設備、多湿、騒音等を避け快適な生活環境を整備</li> <li>9 痛み、負傷、疾病からの自由：ケガや病気から動物を守り病気の際は獣医師が施術</li> <li>10 恐怖や抑圧からの自由：恐怖心や精神的苦痛（不安）を与えない</li> <li>11 正常な行動をする自由：本能・習性にならな行動パターンが行える施設に収容</li> <li>12 日本のシェルター現状：法律（狂犬病予防法・動物愛護管理法）により行政が運営</li> <li>13 将来のシェルター構想：日本の風土にあったオリジナルな動物シェルターを展開</li> <li>14 東京都三宅島噴火災害事例：三位（行政・愛護団体・獣医師会）が一体で対応</li> <li>15 ボランティア体制の構築：学校教育の充実、リーダーとして動物看護師を育成、社会の支援と理解</li> </ol>							
<b>履修上の注意</b>							
なし。							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
試験（70%）、授業への参加度（30%）を基に総合的に評価する。							
<b>教科書</b>							
アニマルウェルフェア ―動物の幸せについての科学と倫理（単行本） 佐藤 衆介(著) 発行所:東京大学出版会							
<b>参考書、教材等</b>							
教材としてプリント等を随時使用する。							

授業科目	アニマルアシステッドセラピー論					担当教員 山崎 薫・川添 敏弘 山崎 恵子	
科目英名	Theory of Animal Assisted Therapy						
開講期間	3年次 前期	必選	必修	単位	2	科目区分	専門応用 [動物介在福祉科目群]
<b>講義目的</b>							
<p>都市化に伴い人と物たちとの関わりが深くなってきていることを指摘できる。そして、福祉や医療、教育の分野でもこのような「人と動物の絆」は注目され続けている。ボランティア・ベースで行われているこれらの活動は、これから、より専門性を持った動物の専門家による活躍が求められている。そこで本講義では、この新しい分野において教育研究に携わる人材の育成を目的にアニマル・セラピーの基礎理論について抗議する。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>アニマル・セラピーを実践していくためには、最初に、基礎概念と歴史、活動方法を学ぶ必要がある。さらに、動物の特徴や、老人や知的障害者、精神疾患を持つ人の特徴を知っておく必要がある。また、施設や病院、学校のシステムも理解しておかなければならない。講義では、これらの基礎的な知識を得ていくことを目的とする。</p>							
<b>授業計画</b>							<b>担当教員</b>
1 アニマル・アシステッド・セラピーの歴史と定義							山崎 薫
2 介在動物の適正審査及びイヌ飼育にかかわる経費について							山崎 薫
3 日本動物病院福祉協会（JAHA）の理念と活動について学ぶ							山崎 恵子
4 施設での活動で必要となる動物の衛生管理と訓練について学ぶ							川添 敏弘
5 動物の福祉と倫理について学ぶ							山崎 恵子
6 老人介護施設におけるアニマル・セラピーについて学ぶ①理論の視点から							山崎 恵子
7 老人介護施設におけるアニマル・セラピーについて学ぶ②活動の視点から							山崎 恵子
8 医療施設におけるアニマル・セラピーについて学ぶ							川添 敏弘
9 精神疾患とアニマル・セラピーについて学ぶ							川添 敏弘
10 知的障害者支援施設におけるアニマル・セラピーについて学ぶ①理論の視点から							川添 敏弘
11 知的障害者支援施設におけるアニマル・セラピーについて学ぶ②活動の視点から							川添 敏弘
12 幼稚園・保育所、小学校におけるアニマル・セラピーについて学ぶ①理論と実践							川添 敏弘
13 幼稚園・保育所、小学校におけるアニマル・セラピーについて学ぶ②介在教育							川添 敏弘
14 ボランティアの役割と施設で働く人たちとの連携についてのまとめ							川添 敏弘
15 アニマル・セラピーのまとめ							山崎 恵子
<b>履修上の注意</b>							
<p>アニマル・セラピーを実践できる専門家を養成するために、理論を中心として授業を展開していく。得なければならない知識は多く、各分野の専門知識も学習していくことになる。学問としてのアニマル・セラピーであることを意識し、しっかりと関心をもって取り組んでもらいたい。</p>							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
試験あるいはレポート（60%）、授業への参加度（40%）から総合的に判断する。							
<b>教科書</b>							
『家庭犬に向くイヌ品種』 山崎 薫 著 (株)教育アシストセンター出版部							
『乗馬療法で用いられる馬の飼育管理』 川添 敏弘 著 (株)教育アシストセンター出版部							
<b>参考書、教材等</b>							
参考書は講義中に紹介する。教材は実践的な事例を PowerPoint やビデオで紹介する。							

授業科目	アニマルアシステッドセラピー演習				担当教員 川添 敏弘・山川 伊津子		
科目英名	Study of Animal Assisted Therapy-Student Laboratory						
開講期間	3年次 後期	必/選	選択	単位	1	科目区分	専門応用 [動物介在福祉科目群]
講義目的							
<p>アニマルアシステッドセラピーをより深く理解し、実践的な能力を身につけるために講義することを目的とする。そのためには、人と動物の関わり方を十分に学ぶことができる内容を中心に授業を展開させる。また、理論や事例検証、ロールプレイなどを通して、人と動物がお互いに影響し合うということを解説していく。</p>							
講義概要							
<p>セラピーに関わる者が知っておかなければならないことを、ロールプレイや研究発表、ディスカッション等を交えて理解を深めていくようにする。つまり、知識が理論に偏らないような演習形式の授業を多く取り入れていく。さらに、セラピー活動における動物の健康と適正な審査など、ハンドラーとして必要な知識を身につけてもらう。</p>							
授業計画						担当教員	
1 授業説明、概論						川添 敏弘・山川 伊津子	
2 ヒトと動物の絆 (Human Animal Bond) ,愛着について						山川 伊津子	
3 アニマル・アシステッド・セラピー (Animal Assisted Therapy)						山川 伊津子	
4 アニマル・アシステッド・アクティビティ (Animal Assisted Activity)						山川 伊津子	
5 アニマル・アシステッド・エデュケーション (Animal Assisted Education)						山川 伊津子	
6 施設評価 (Sight Assessment) と適正評価 (Evaluation)						山川 伊津子	
7 ロールプレイ①：老人福祉施設における活動について						川添 敏弘・山川 伊津子	
8 ロールプレイ②：重度心身障害者施設における活動について						川添 敏弘	
9 ロールプレイ③：動物介在教育として、学校における活動について						川添 敏弘	
10 セラピーに用いる動物の健康管理と審査について。						川添 敏弘	
11 報告会①：各グループにテーマを与え、それらのレポートを作成する。						川添 敏弘	
12 報告会②：レポートを 20 枚のスライドにまとめ、プレゼンテーションする。						川添 敏弘	
13 発表会：報告会でのレポートを用いてポスター発表を行い、自由討論する。						川添 敏弘	
14 活動で使える動物の訓練の方法を学習理論を用いて考える。						川添 敏弘	
15 アニマルアシステッドセラピー演習のまとめ。						川添 敏弘・山川 伊津子	
履修上の注意							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義の際の私語は厳禁とする。</li> <li>・グループごとに話し合いをする機会が多くなるので、状況に合わせた行動を求める。</li> <li>・授業態度に問題がある学生、およびグループ活動に積極的に参加しない学生は退場を命じる。</li> <li>・演習科目であるが、基礎理論などを繰り返し講義していく予定である。</li> <li>・遅刻に対しては厳しい評価を行う。</li> </ul>							
評価方法 (評価基準を含む)							
<p>授業内に取り扱うレポートやプレゼンテーション、ポスターなどを中心に評価する。 (授業への参加度 60%、レポートやプレゼンテーション、ポスター20%、授業に対する積極性 20%)</p>							
教科書							
特になし。							
参考書、教材等							
<p>『乗馬療法で用いられる馬の飼育管理』 川添 敏弘・著 (株)教育アシストセンター出版部 『アニマル・セラピー』川添敏弘・著 駿河台出版</p>							

授業科目	アニマルアシステッドセラピー実習					担当教員	川添 敏弘・堀井 隆行
科目英名	Practice of Animal Assisted Therapy-Student Laboratory						
開講期間	3年次 後期	必/選	選択	単位	1	科目区分	専門応用 [動物介在福祉科目群]
<b>講義目的</b>							
アニマルアシステッドセラピー論、アニマルアシステッドセラピー演習で学んだことを基に、実際にどのように計画し活動するのか、考える力と実践力を身につけることを目的とする。							
<b>講義概要</b>							
アニマルアシステッドセラピー（以下AAT）演習で方法論は身に付いていると考えられる。そこで、個別の事例を取り上げ、どのように連携を取り、治療計画を立てていけばよいのか実際に計画を立てていく。そのためには、老人や子どもに関する知識や、知的障害や認知症、小児癌などに対する専門知識も必要となる。幅広い専門知識を応用しながら、「治療」を意識した実習を行うこととする。							
<b>授業計画</b>							<b>担当教員</b>
1	概要説明、他：説明後、AAT活動の計画を立案してもらおう。数人の計画について議論を行う。						堀井 隆行
2	行動計画の検討①：3人程度のグループで活動計画を合わせ、よりよいものへとまとめ上げる。						堀井 隆行
3	行動計画の検討②：優秀と考えられる活動計画を、実際に活動するための計画へと修正する。						堀井 隆行
4	衛生管理：AAT前の設定で、動物病院のスタッフの立場で、実際に犬を用いて衛生検査を行う。						堀井 隆行
5	行動制限：AATで必要な行動制限について説明し、犬を用いて行動制限の訓練を体験する。						堀井 隆行
6	シェイピング：AATで有効な犬の行動について説明し、その訓練を体験する。						川添 敏弘
7	犬のストレス：ストレスや動物愛護、活動倫理についての講義とその対策について議論する。						川添 敏弘
8	老人介護施設におけるAAT：老人の生理や特徴について説明する。さらに、話し方の理論とテクニックについて学び、ロールプレイを行う。						川添 敏弘
9	発達障害者施設におけるAAT：障害者に関する特徴を説明する。さらに、障害者との関わり方の理論とテクニックについて学び、ロールプレイを行う。						川添 敏弘
10	発達障害の子どもたちに対するAAT：発達障害者に関する特徴を説明する。さらに、発達障害者との関わり方の理論とテクニックについて学び、ロールプレイを行う。						川添 敏弘
11	ホスピス・小児病棟におけるAAT：ホスピス患者や小児癌患者とその家族に関して説明する。さらに、患者やその家族との関わり方の理論とテクニックについて学び、ロールプレイを行う。						川添 敏弘
12	日本動物病院福祉協会CAPP活動の実際：CAPP活動を参考に、プログラムを分析していく。						川添 敏弘
13	施設におけるAATを見学する。課題として、それらをプレゼンテーションとしてまとめる。						川添 敏弘
14	プレゼンテーションの発表会を行う。振り返りとして感想や反省点についてまとめていく。						川添 敏弘
15	レポート提出と実習のまとめ。						川添 敏弘
<b>履修上の注意</b>							
遅刻や課題の遅れは厳禁とする。							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
授業への参加度（60%）、課題レポート（20%）、授業に対する積極性（20%）による総合評価。							
<b>教科書</b>							
特になし。随時プリントを配布。							
<b>参考書、教材等</b>							
『乗馬療法で用いられる馬の飼育管理』川添敏弘・著（株）教育アシストセンター出版部 『アニマル・セラピー』川添敏弘・著 駿河台出版							

授業科目	アシスタンスドッグ論				担当教員	高柳 友子	
科目英名	Theory of Assistance Dog						
開講期間	4年次 前期	必/選	選択	単位	2	科目区分	専門応用 [動物介在福祉科目群]
<b>講義目的</b>							
障害者福祉における補助犬の位置付け、医療・福祉分野との関わり、補助犬育成、普及啓発活動、社会での受け入れにおける、専門家（医療・福祉・動物関係者）の役割とは何かを考えます。							
<b>講義概要</b>							
障害者の自立と社会参加を促進することを目的に訓練された、身体障害者補助犬の我が国における現状と課題、盲導犬・聴導犬・介助犬の役割と補助犬の展望等を概説し、障害者福祉における補助犬の位置づけ、医療・福祉分野と動物の関わり、補助犬育成、普及啓発活動、受け入れ態勢整備等における、医療・福祉関係者の役割とは、動物関係者の役割とは、を考える。							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 身体障害者補助犬とは 介助犬</li> <li>2 身体障害者補助犬とは 盲導犬</li> <li>3 身体障害者補助犬とは 聴導犬</li> <li>4 身体障害者補助犬法とは</li> <li>5 身体障害者補助犬の現状と課題</li> <li>6 補助犬育成の現状と課題</li> <li>7 身体障害者の自立と社会参加の現状と課題 1</li> <li>8 身体障害者の自立と社会参加の現状と課題 2</li> <li>9 身体障害者補助犬と公衆衛生</li> <li>10 身体障害者補助犬とリハビリテーション</li> <li>11 身体障害者補助犬と作業療法</li> <li>12 身体障害者補助犬と理学療法</li> <li>13 身体障害者補助犬と獣医学</li> <li>14 動物介在療法・動物介在活動</li> <li>15 我が国における身体障害者補助犬育成の展望</li> </ol>							
<b>履修上の注意</b>							
特になし							
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>							
授業への参加度（60%）と課題レポート（40%）							
<b>教科書</b>							
介助犬を知る 高柳哲也編 名古屋大学出版会							
<b>参考書、教材等</b>							
特に指定なし							



授業科目	アシスタンスドッグ演習				担当教員	山川 伊津子・堀井 隆行	
科目英名	Theory of Assistance Dog-Student Laboratory						
開講期間	4年次 後期	必/選	選択	単位	1	科目区分	専門応用 [動物介在福祉科目群]
講義目的							
<p>「アシスタンスドッグ論」の授業で得た知識をさらに発展させ、身体障害者補助犬とその使用者に対する理解を深めることを目的とする。社会で補助犬を受け入れ、補助犬使用者である身体障害者の社会参加と自立を促進するには、何が必要かを考え、さらに補助犬と障害者の両者に対する理解をもつ動物看護職としての役割を学ぶ。</p>							
講義概要							
<p>盲導犬・介助犬・聴導犬それぞれについて学んだ後に、各補助犬の使用者である視覚障害者・肢体不自由者・聴覚障害者への障害者福祉を学び、補助犬使用者の置かれている状況、抱える問題への理解を深める。その上で、それぞれの補助犬の使用者にとって、補助犬が果たす役割・意味を考え、最終的には、補助犬とその使用者を社会で受け入れるには何が必要か、市民にできることは何か、動物看護職としての役割とは何かを把握していく。</p>							
授業計画						担当教員	
1 身体障害者補助犬とは：歴史						山川 伊津子	
2 身体障害者補助犬とは：育成の現状						山川 伊津子	
3 身体障害者補助犬とは：サービス内容（補助犬の仕事）						山川 伊津子	
4 身体障害者補助犬法						山川 伊津子	
5 補助犬と障害者福祉						山川 伊津子	
6 補助犬と動物福祉						山川 伊津子	
7 補助犬と動物看護師						山川 伊津子	
8 盲導犬使用者の現状						山川・堀井	
9 介助犬使用者の現状						山川・堀井	
10 聴導犬使用者の現状						山川・堀井	
11 補助犬とトレーニング入門①：適性（特にレスポナント反応）の重要性						堀井 隆行	
12 補助犬とトレーニング入門②：歩行および基礎動作のトレーニング						堀井 隆行	
13 補助犬とケア						堀井 隆行	
14 グループ発表						山川・堀井	
15 総復習						山川・堀井	
履修上の注意							
本演習の履修者は、前期「アシスタンスドッグ論」を履修していることが望ましい。							
評価方法（評価基準を含む）							
授業への参加度（60%）、授業内課題（20%）、授業に対する積極性（20%）による総合評価。							
教科書							
アシスタンスドッグ 盲導犬・介助犬・聴導犬の理解とケア 山崎薫監修 山川伊津子/福山貴昭著 株式会社教育アシストセンター							
参考書、教材等							
講義中に紹介							

授業科目	アッセンブリーアワー I (動物と看護)					担当教員	大橋 由紀子
科目英名	Special Seminar (Animal and Nursing)						
開講期間	1年次 通年	必/選	必修	単位	1	科目区分	専門応用 [共通科目群]
<b>講義目的</b>							
<p>学園の建学の精神と大学の教育理念を通して、動物と看護について学ぶ。その歴史の変遷やヤマザキ学園大学のめざす動物看護教育の目的を認識させる。特に動物看護の歴史や日本における動物看護の現状について多角的視点から理解することを目指す。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>「アッセンブリーアワー」は集会の時間という意味である。1年次では、特に動物看護師の歴史、様々な職域において動物看護師に求められる役割、動物看護を取り巻く社会状況、伴侶動物の中でも特に日本犬と鳥に特化した飼育や看護という観点に立つ、幅広い教養を身につけてゆく。講演者のスケジュール等で授業計画の順番が変更になる場合がある。</p>							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション (動物看護学部1年目の過ごし方)</li> <li>2 日本の動物看護師の歴史 (自校教育)</li> <li>3 小動物の看護と観察 (写真撮影)</li> <li>4 動物看護師のための動物病院・動物関連企業の現状</li> <li>5 動物園での動物看護の仕事</li> <li>6 展示動物の健康管理 (多摩動物公園)</li> <li>7 動物業界を含む悪徳商法</li> <li>8 飼い鳥看護の歴史</li> <li>9 中間解説 (学習成果発表)</li> <li>10 現場で求められる動物看護師</li> <li>11 動物看護領域での職業と研修体験</li> <li>12 柴犬の飼育管理</li> <li>13 秋田犬の飼育管理</li> <li>14 海外の動物看護教育の歴史</li> <li>15 まとめ</li> </ol>							
<b>履修上の注意</b>							
<p>隔週の授業なので、連絡事項等に注意すること。</p>							
<b>評価方法 (評価基準を含む)</b>							
<p>授業への参加度 (50%) とレポートの提出状況 (50%) で総合的に判断し、平均60点以上を合格とする。</p>							
<b>教科書</b>							
<p>なし。必要に応じて掲示板にて通知する。</p>							
<b>参考書、教材等</b>							
<p>なし</p>							

授業科目	アッセンブリーアワーⅡ(動物と環境)				担当教員	新島 典子	
科目英名	Special Seminar (Animals and Environment)						
開講期間	2年次 通年	必/選	必修	単位	1	科目区分	専門応用 [共通科目群]
<b>講義目的</b>							
動物をめぐる環境、そして、動物に関わる人をめぐる環境についてさまざまな観点から知識を広げてゆく。気候変動やグローバル化による動物生態系の変化や動物への深刻な影響、災害時に必要な動物保護、動物看護をめぐる環境等について国内外の事情を把握し、理解する。							
<b>講義概要</b>							
「アッセンブリーアワー」は集会の時間という意味である。2年次生全員が集まり、動物関連の多様な職業に就くために必要とされる、動物と環境を巡るさまざま教養を身につけ、知識を広げてゆく。例えば、職場環境や自然環境から生じる人と動物の複雑な問題に関する教養を養う。講演者のスケジュール等で授業計画の順番が変更になる場合がある。							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション (動物看護学部2年次生の環境と目標)</li> <li>2 動物看護師の環境と薬物</li> <li>3 動物看護学生の就職環境</li> <li>4 職場環境で求められる動物看護師のコミュニケーション</li> <li>5 動物看護師をめぐる環境 (認定動物看護師の資格と認定等)</li> <li>6 動物看護師と災害時の対応環境</li> <li>7 海の動物と環境 (海洋生物と環境)</li> <li>8 海の動物と環境 (海獣と環境) (水族館)</li> <li>9 産業動物をとりまく環境</li> <li>10 動物と環境をいかに学ぶか (学外研修成果発表、コース説明会)</li> <li>11 動物看護学生の研修環境</li> <li>12 動物の行動と環境</li> <li>13 動物の形態と環境 (パンダの第七の指と環境)</li> <li>14 人と動物の環境改善を行う CAPP 活動について</li> <li>15 まとめ</li> </ol>							
<b>履修上の注意</b>							
隔週・通年授業で、学外講師らとの調整結果によっては時間帯の変更がありうる。掲示や連絡事項等に注意すること。							
<b>評価方法 (評価基準を含む)</b>							
授業への参加度 50%、課題レポート (ノート形式) 50% により総合的に判断する。							
<b>教科書</b>							
なし。必要に応じて掲示板や授業にて通知する。							
<b>参考書、教材等</b>							
なし。必要に応じて掲示板や授業にて通知する。							

授業科目	アッセンブリーアワーⅢ(動物と社会)					担当教員	武藤 眞・西村 信子
科目英名	Special Seminar (Animal and Society)						
開講期間	3年次 通年	必/選	必修	単位	1	科目区分	専門応用 [共通科目群]
<b>講義目的</b>							
<p>社会における動物とヒトの多様な関係をヒト側の視点と動物側の視点の双方から理解することを目的とする。特に少子高齢化著しい現代社会において、子どもから高齢者まで幅広い世代の人と動物とのかかわりを学ぶことを目的とする。</p>							
<b>講義概要</b>							
<p>本科目では、「動物と社会」をテーマに、日本社会における伴侶動物とヒトの様々なかかわりを取り上げ、現場で求められる動物看護学の知識や技術を深化させる。講義では、動物と社会に関わる多様な分野に携わる担当者が実践的で有意義な内容を展開してゆく。講演者のスケジュール等で授業計画の順番が変更になる場合がある。</p>							
<b>授業計画</b>							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション (動物看護学部3年次生の社会との繋がり)</li> <li>2 動物への薬物療法に用いる漢方と生薬</li> <li>3 動物に用いる薬物の管理と社会的責任</li> <li>4 社会における動物看護師の役割Ⅰ (動物病院・動物関連企業の現状)</li> <li>5 社会におけるヒトと動物の多様な関係性</li> <li>6 社会における動物看護の資格と現状</li> <li>7 社会における動物と子どもの関係性</li> <li>8 社会における動物看護師の役割Ⅱ (動物病院・動物関連団体の現状と進路)</li> <li>9 飼い鳥のレスキューについて: 人、鳥、社会の幸せのために</li> <li>10 動物看護領域での職業と研修体験</li> <li>11 高齢化社会と動物: 動物歯科の重要性</li> <li>12 社会における動物文化 (動物句歌)</li> <li>13 社会が動物の形態に及ぼす影響</li> <li>14 救急救命講習</li> <li>15 まとめ、学習成果発表</li> </ol>							
<b>履修上の注意</b>							
<p>上記の授業計画は、変更する場合がある。</p>							
<b>評価方法 (評価基準を含む)</b>							
<p>授業への参加度 (60%) とレポート等提出物 (40%) をもとに評価する。</p>							
<b>教科書</b>							
<p>なし (各講師によるレジュメあり)</p>							
<b>参考書、教材等</b>							
<p>なし</p>							

授業科目	インターンシップ					担当教員	若尾 義人・鈴木 友子	
科目英名	Internship							
開講期間	3・4年次	前後期	必/選	選択	単位	1	科目区分	専門応用 [共通科目群]
<b>講義目的</b>								
<p>学生が在学中に動物病院等において自らの専攻や将来のキャリアに関連した就業体験を行うことにより、主体的な職業選択の能力や職業意識の育成および実務的知識の修得を目的とする。</p>								
<b>講義概要</b>								
<p>自己の職業適性や実社会への適応能力を身に付けされるとともに、より創造的で実践的な教育の展開を図る。</p> <p>また、動物看護師の職域の多様化により動物病院、ペットショップ、動物管理団体、研究施設などへの就業が予想される。これらの職域での実体験を通して、自己の職業適性を考える機会とする。</p>								
<b>授業計画</b>								
<p>夏季休業前にインターンシップの説明会を実施する。</p>								
<b>履修上の注意</b>								
<p>外部実習になるので、連絡等に注意すること。</p>								
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>								
<p>インターン先からの評価点を70%とレポート点30%として総合的に判断する。</p>								
<b>教科書</b>								
<p>なし</p>								
<b>参考書、教材等</b>								
<p>なし</p>								

授業科目	アドバンストイングリッシュ				担当教員	島森 尚子・新島 典子 二宮 博義・茂木 千恵	
科目英名	Advanced English						
開講期間	3年次 通年	必/選	選択	単位	2	科目区分	専門応用 [共通科目群]
<b>講義目的</b>							
専門的な英語で書かれた文献を読み、自らの論文作成に必須な知識、および自力で英語文献を読む力を身につける。							
<b>講義概要</b>							
<p>本学には動物に関する学問を学ぶ三つの特色あるコースが設置されているが、いずれも我が国ではまだ若い学問で、英語圏の国々に一日の長がある。従って、これらの学問を真摯に修めようとするならば、英語で書かれた文献を読む必要が生じる。しかも、多くは学際的な分野なので、読まなければならない文献も多岐にわたることとなる。</p> <p>そうした要請に応えるために、この講義では、専門分野の異なる教員が、各自の専門分野に関する英語文献を読む。卒業論文で英語文献の読解が必要と思われる諸君、あるいは大学院進学や海外への留学を考えている諸君は、特に積極的に受講して欲しいが、幅広い知識を身につけたいと思う諸君の受講も歓迎する。文献読解を通じて、学生諸君は知的好奇心を存分に満たすことができるはずである。</p>							
<b>授業計画</b>						<b>担当教員</b>	
1	ガイドダンス アカデミックな英語文献に頻出の表現、および速読の技法を学ぶ				島森 尚子		
2	動物文化関連の英文を読む <i>Animals and Men</i> より抜粋				島森 尚子		
3	動物文化関連の英文を読む <i>What Animals Mean in the Fiction of Modernity</i> より抜粋				島森 尚子		
4	動物文化関連の英文を読む <i>What Animals Mean in the Fiction of Modernity</i> より抜粋				島森 尚子		
5	臨床社会学関連の英文を読む <i>Pet Loss Support in Veterinary Practice Training Manual</i> より抜粋				新島 典子		
6	臨床社会学関連の英文を読む <i>Pet Loss Support in Veterinary Practice Training Manual</i> より抜粋				新島 典子		
7	動物人間関係学の論文を読む <i>Society and Animals</i> の投稿論文を読む				新島 典子		
8	レビュー 試験と解説				島森 尚子・新島 典子		
9	科学論文の抄読 論文の読み方、タイトルと要旨の重要性				二宮 博義		
10	科学論文の抄読 <i>Scientific American</i> の記事を読む				二宮 博義		
11	科学論文の抄読 国際雑誌より興味ある論文を読む				二宮 博義		
12	科学論文の抄読 <i>Scientific Reports</i> の投稿論文を読む				茂木 千恵		
13	科学論文の抄読 <i>Science Daily</i> の記事を読む				茂木 千恵		
14	科学論文の抄読 <i>The journal of veterinary medical science</i> の投稿論文を読む				茂木 千恵		
15	レビュー 試験と解説				二宮 博義・茂木 千恵		
<b>履修上の注意</b>							
通年科目であり、開講は毎週ではないので掲示を確認すること。 使い慣れた英和辞典を持参すること。							
<b>評価方法 (評価基準を含む)</b>							
授業参加度 40%、試験 60%として総合的に評価する。							
<b>教科書</b>							
特に用いない。							
<b>参考書、教材等</b>							
教場で配付、指示する。							

授業科目	卒業論文				若尾 義人・二宮 博義 小倉 啓子・鎌田 壽彦 小方 宗次・岡崎 登志夫 小黒 美枝子・谷口 明子 内田 明彦・天野 卓 林 一彦・今村 伸一郎 会田 保彦・島森 尚子 新島 典子・花田 道子 武藤 眞・竹村 哲雄 本田 三緒子・西村 信子 川添 敏弘・岡 勝巖 茂木 千恵・山川 伊津子 赤羽根 和恵・鈴木 友子 大橋 由紀子・堀井 隆行 福山 貴昭
科目英名	Graduation Thesis				
開講期間	4年次 通年	必 <del>選</del> 必修	単位 6	科目区分	専門応用 [共通科目群]
<b>講義目的</b>					
<p>動物看護教育の中で、担当指導教員の指導の下、特に興味を持った事項についてまとめて、成果として論文を提出させることを目的としている。</p>					
<b>講義概要</b>					
<p>学生の能力の向上や社会に貢献できる人材成長のため、学生が自ら選んだ卒業論文指導教員の下で、動物看護学に関する文献調査から始まり、研究テーマの設定、実行計画の立案、課題に継続的に取り組む自主性、得られたデータをまとめて発表する能力までを、一貫して指導していく。</p>					
<b>授業計画</b>					
<p>3年次の前期試験終了後（7月下旬）に研究室の紹介や研究テーマの概要を説明するオリエンテーションを実施し、希望する研究室の候補を提出させ、3年次の後期に（3月下旬）に配属先を発表する。研究室への配属に関しては学生の希望を原則とするが、研究室の予定人数を超える場合は、調整する。なお、作成した論文の提出締切日は、別に掲示板で発表する。中間報告および卒業論文発表会を実施する。</p>					
<b>履修上の注意</b>					
<p>各所属研究室で個別指導となるので、連絡等に注意すること。</p>					
<b>評価方法（評価基準を含む）</b>					
<p>研究態度（30%）と提出論文（70%）で総合的に判断する。</p>					
<b>教科書</b>					
<p>なし</p>					
<b>参考書、教材等</b>					
<p>なし</p>					